

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第182集

法量野Ⅰ遺跡・中屋敷遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第182集

法量野 I 遺跡・中屋敷遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600ヵ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保持し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特にも高速道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、東北横断自動車道秋田線建設に関連して、平成3年度に発掘調査した法量野Ⅰ遺跡・中屋敷遺跡の調査結果をまとめたものであります。両遺跡は和賀川右岸の河岸段丘に立地し、調査の結果、法量野Ⅰ遺跡は縄文時代の陥し穴状遺構、中屋敷遺跡は弥生時代初頭の土坑群が数多く発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御協力、御支援を賜りました日本道路公園仙台建設局北上工事事務所、北上市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成5年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 工藤 巖

例 言

1. 本報告書は、岩手県北上市和賀町煤孫に所在する法量野Ⅰ遺跡、中屋敷遺跡の発掘調査結果を取録したものである。
2. 本遺跡の調査は、東北横断自動車道秋田線建設に伴う記録保存を目的とした緊急発掘調査である。調査は、日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 遺跡台帳番号、調査期間、発掘調査面積、調査担当者は、各遺跡の中扉に記したとおりである。
4. 分析・鑑定は次の方々に依頼した（敬称略）。

火山灰の分析・鑑定	三辻 利一（奈良教育大学）
種子同定	木越 邦彦（学習院大学）
石質鑑定	佐藤 二郎（佐藤地質工学研究所）
6. 本報告書の執筆分担は次のとおりである。

I. 調査に至る経過	佐々木嘉直
II. 遺跡の位置と環境	村上 修
III. 野外調査と室内整理の方法	村上 修
IV. 法量野Ⅰ遺跡	村上 修
V. 中屋敷遺跡	小田野哲憲
7. 野外調査にあたっては、北上市教育委員会および地元の方々に、室内整理では整理作業員の御協力をいただいた。
8. 本遺跡から出土した遺物および調査資料は、岩手県立埋蔵文化センターに保管している。

目 次

序
例言

本 文

I. 調査に至る経過	1
II. 遺跡の位置と環境	
1. 位置と立地	1
2. 地形概観 (和賀川下流域)	2
3. 基本層序	5
4. 周辺の遺跡	7
III. 野外調査と室内整理の方法	
1. 野外調査	11
2. 室内整理	12
IV. 法量野 I 遺跡	
1. 検出された遺構と遺物	
(1) 土坑	17
(2) 陥し穴状遺構	21
(3) 築土遺構	38
(4) 溝跡	38
2. 遺構外出土遺物	
(1) 縄文時代の土器	43
(2) 弥生時代の土器	45
(3) 平安時代の土器	45
(4) 石器	50
3. まとめ	
(1) 遺構	56
(2) 遺物	57
4. 鑑定・分析	
出土火山灰の蛍光 X 線分析	61
V. 中屋敷遺跡	
1. 検出された遺構と遺物	
(1) フラスコ状ピット	84
(2) 土塙	90
(3) 陥穴	92
2. 遺構外出土遺物	
(1) 土器	117
(2) 石器	118
3. まとめと考察	
(1) 遺構	143
(2) 遺物	144
4. 鑑定・分析	
中屋敷遺跡の種実遺体	147

図 版

第1図 和賀川下流の地形図……………	前付
第2図 遺跡周辺の地形図……………	3・4
第3図 法量野 I 遺跡土層柱状図……………	5
第4図 中屋敷遺跡土層柱状図……………	6
第5図 法量野 I 遺跡・中屋敷遺跡と周辺遺跡位置図……………	9・10

法量野 I 遺跡

第6図 法量野 I 遺跡遺構配置図……………	15・16
第7図 土坑(1)……………	19
第8図 土坑・遺構内出土遺物(2)……………	20
第9図 陥し穴状遺構(1)……………	22
第10図 陥し穴状遺構(2)……………	24
第11図 陥し穴状遺構(3)……………	25
第12図 陥し穴状遺構(4)……………	27
第13図 陥し穴状遺構(5)……………	29
第14図 陥し穴状遺構(6)……………	31
第15図 陥し穴状遺構(7)……………	32
第16図 陥し穴状遺構(8)……………	34
第17図 陥し穴状遺構(9)……………	36
第18図 陥し穴状遺構(10)……………	37
第19図 焼土遺構……………	39・40
第20図 溝跡……………	41・42
第21図 遺構外出土遺物・土器(1)……………	46
第22図 遺構外出土遺物・土器(2)……………	47
第23図 遺構外出土遺物・土器(3)……………	48
第24図 遺構外出土遺物・土器(4)……………	49
第25図 遺構外出土遺物・石器(1)……………	51
第26図 遺構外出土遺物・石器(2)……………	52
第27図 遺構外出土遺物・石器(3)……………	53

第28図 遺構外出土遺物・石器(4)……………	54
第29図 遺構外出土遺物・石器(5)……………	55

中屋敷遺跡

第30図 中屋敷遺跡遺構配置図……………	93・94
第31図 IA-1, IIA-1号フラスコピット・遺物……………	96
第32図 IIA-2号フラスコピット・遺物……………	97
第33図 IB-1, IB-3号フラスコピット・遺物……………	98
第34図 IB-2, IB-6号フラスコピット・遺物、IB-1号土壇……………	99
第35図 IB-4号フラスコピット・遺物(1)……………	100
第36図 IB-4号フラスコピット・遺物(2)……………	101
第37図 IB-7号フラスコピット・遺物……………	102
第38図 IIB-2号フラスコピット・遺物(1)……………	103
第39図 IIB-2号フラスコピット・遺物(2)……………	104
第40図 IIB-1, IIB-3号フラスコピット・遺物……………	105
第41図 IIB-4, IIB-6号フラスコピット・遺物……………	106
第42図 IB-5, IIB-5号フラスコピット・遺物(1)……………	107
第43図 IIB-5号フラスコピット・遺物(2)……………	108

第44図	II B-7号フラスコビット・遺物109	第55図	遺構外遺物・土器(4)126
第45図	IC-1号フラスコビット、II B-1、 II B-2号土壌110	第56図	遺構外遺物・土器(5)127
第46図	II B-3、II B-4、II B-5号土壌・ 遺物111	第57図	遺構外遺物・石器(1)128
第47図	II B-6、II B-7、II C-1、II C- 1号土壌・遺物112	第58図	遺構外遺物・石器(2)129
第48図	II E-1、3、4、5号土壌113	第59図	遺構外遺物・石器(3)130
第49図	II D-1、II E-1号陥穴114	第60図	遺構外遺物・石器(4)131
第50図	II E-2号土壌 II E-1、II B-1 号陥穴115	第61図	遺構外遺物・石器(5)132
第51図	III D-1号フラスコビット、III D-1 号陥穴、III D-1号土壌116	第62図	遺構外遺物・石器(6)133
第52図	遺構外遺物・土器(1)123	第63図	遺構外遺物・石器(7)134
第53図	遺構外遺物・土器(2)124	第64図	遺構外遺物・石器(8)135
第54図	遺構外遺物・土器(3)125	第65図	遺構外遺物・石器(9)136
		第66図	遺構外遺物・石器(10)137
		第67図	遺構外遺物・石器(11)138
		第68図	遺構外遺物・石器(12)139
		第69図	遺構外遺物・石器(13)140
		第70図	遺構外遺物・石器(14)141
		第71図	遺構外遺物・石器(15)142

表

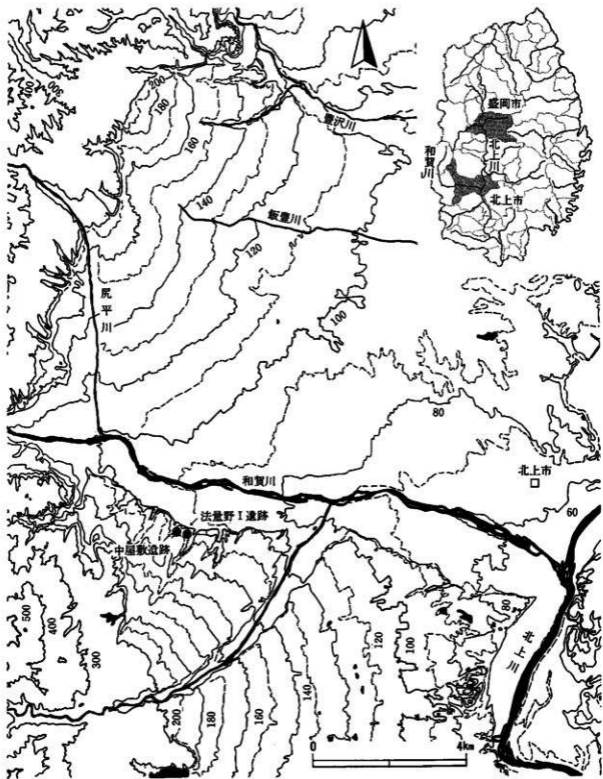
第1表	周辺の遺跡一覧表 8	第5表	石器計測表(遺構内) 59
法量野 I 遺跡		第6表	石器観察表(遺構外) 59
第2表	土坑一覧表 58	第7表	石器計測表(遺構外) 60
第3表	陥し穴状遺構一覧表 58	中屋敷遺跡	
第4表	石器観察表(遺構内) 59	第8表	遺構外出土石器観察一覧表 120

写真図版

法量野 I 遺跡		写真図版 5	陥し穴状遺構(2) 67
写真図版 1	法量野 I ・ 中屋敷遺跡透景 63	写真図版 6	陥し穴状遺構(3) 68
写真図版 2	調査区全景他・土坑(1) 64	写真図版 7	陥し穴状遺構(4) 69
写真図版 3	土坑(2) 65	写真図版 8	陥し穴状遺構(5) 70
写真図版 4	土坑(3) ・ 陥し穴状遺構(1) 66	写真図版 9	陥し穴状遺構(6) 71

写真図版10	陥し穴状遺構(7)……………72
写真図版11	焼土遺構……………73
写真図版12	溝跡……………74
写真図版13	遺構内出土遺物……………75
写真図版14	遺構外出土遺物・土器(1)……76
写真図版15	遺構外出土遺物・土器(2)……77
写真図版16	遺構外出土遺物・土器(3)……78
写真図版17	遺構外出土遺物・石器(1)……79
写真図版18	遺構外出土遺物・石器(2)……80
写真図版19	遺構外出土遺物・石器(3)……81
写真図版20	遺構外出土遺物・石器(4)……82
中屋敷遺跡	
写真図版21	……………149
写真図版22	フラスコビット(1)……………150
写真図版23	フラスコビット(2)……………151
写真図版24	フラスコビット(3)……………152
写真図版25	フラスコビット(4)……………153
写真図版26	フラスコビット(5)……………154
写真図版27	フラスコビット(6)……………155
写真図版28	フラスコビット(7)……………156
写真図版29	フラスコビット(8)・土壌……………157
写真図版30	土壌(2)……………158
写真図版31	土壌(3)……………159
写真図版32	土壌(4)……………160
写真図版33	土壌(5)……………161
写真図版34	土壌(6)・陥穴(1)……………162
写真図版35	陥穴(2)……………163
写真図版36	IA-1号、IIA-2号フラスコ ビット遺物……………164

写真図版37	IB-4号フラスコビット遺物 ……………165
写真図版38	IB-1・3・6・7号フラスコ ビット遺物……………166
写真図版39	IIB-2号フラスコビット遺物 ……………167
写真図版40	IB-5・IIB-1・IIB-4・ IIB-6・IIB-7号フラスコ ビット遺物……………168
写真図版41	IIB-5号フラスコビット遺物 ……………169
写真図版42	IIB-3・IIB-4・IIB-7・ IIC-1号フラスコビット遺物 ……………170
写真図版43	遺構外遺物・土器(1)……………171
写真図版44	遺構外遺物・土器(2)……………172
写真図版45	遺構外遺物・土器(3)……………173
写真図版46	遺構外遺物・土器(4)……………174
写真図版47	遺構外遺物・土器(5)……………175
写真図版48	遺構外遺物・石器(1)……………176
写真図版49	遺構外遺物・石器(2)……………177
写真図版50	遺構外遺物・石器(3)……………178
写真図版52	遺構外遺物・石器(4)……………179
写真図版53	遺構外遺物・石器(5)……………180
写真図版53	遺構外遺物・石器(6)……………181
写真図版54	遺構外遺物・石器(7)……………182



第1図 和賀川下流の地形図

I. 調査に至る経過

東北横断自動車道秋田線は、岩手県北上市から秋田県秋田市に至る総延長107kmの高速道路である。このうち、第9次・第10次施工命令区間は、北上ジャンクションから秋田県境までの延長33.9kmである。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行っており、昭和62年4月13日付け「仙建北工第35号」による依頼を受けて分布調査結果を同年5月25日付け「教文第117号」により日本道路公団仙台建設局に回答し、その取り扱いについて協議が重ねられ、止むを得ず消滅する遺跡については事前の発掘調査を実施することとした。

発掘調査の実施については、昭和63年度以降、岩手県教育委員会が発掘調査事業を日本道路公団仙台建設局に照会し、回答を受けたのち日本道路公団仙台建設局、岩手県教育委員会、岩手県文化振興事業団の3者の協議を経て、埋蔵文化財センターが担当することとした。事業着手後に調査の変更がある場合もその都度協議しながら進め、岩手県教育委員会文化課の調整を経て事業計画を変更して進めた。

本報告書の法量野I遺跡と中屋敷遺跡の調査は、平成2年3月2日付け「教文第731号」による平成2年度埋蔵文化財調査事業の通知を受け、平成2年4月1日付け依託契約により調査を着手することにしたものであるが、6月27日付け「教文第257号」による計画変更の通知を受け、法量野I遺跡の精査と中屋敷遺跡の調査を次年度に繰り越すこととした。平成3年度の調査は3年2月7日付け「教文第899号」による事業の通知を受け、4月1日付け契約により着手したものである。

II. 遺跡の位置と環境

1. 位置と立地

法量野I遺跡・中屋敷遺跡はいずれも岩手県北上市にあり、東日本旅客鉄道北上線豊川目駅の南南東3.1km付近に位置する。地形図上では、両遺跡とも国土地理院発行の5万分の1地形図「北上」NJ-54-14-13(一関13号)の図幅に含まれ、北緯39度16分40秒、東経141度0分45秒付近に位置する。それぞれの所在地番は、法量野I遺跡が和賀町煤孫4地割66-37ほか、中屋敷遺跡が同町煤孫4地割59ほかである。

北上市は、盛岡市の南方約64km、岩手県南部の西側にあり、北に花巻市、西に沢内村・湯田町、南に胆沢町・金ヶ崎町、東に江刺市・東和町が隣接している。主要交通路は、東北本線、東北新幹線、国道4号、東北縦貫自動車道が南北を縦断し、秋田県と岩手県を結ぶJR北上線、国道

107号が東西を横断している。

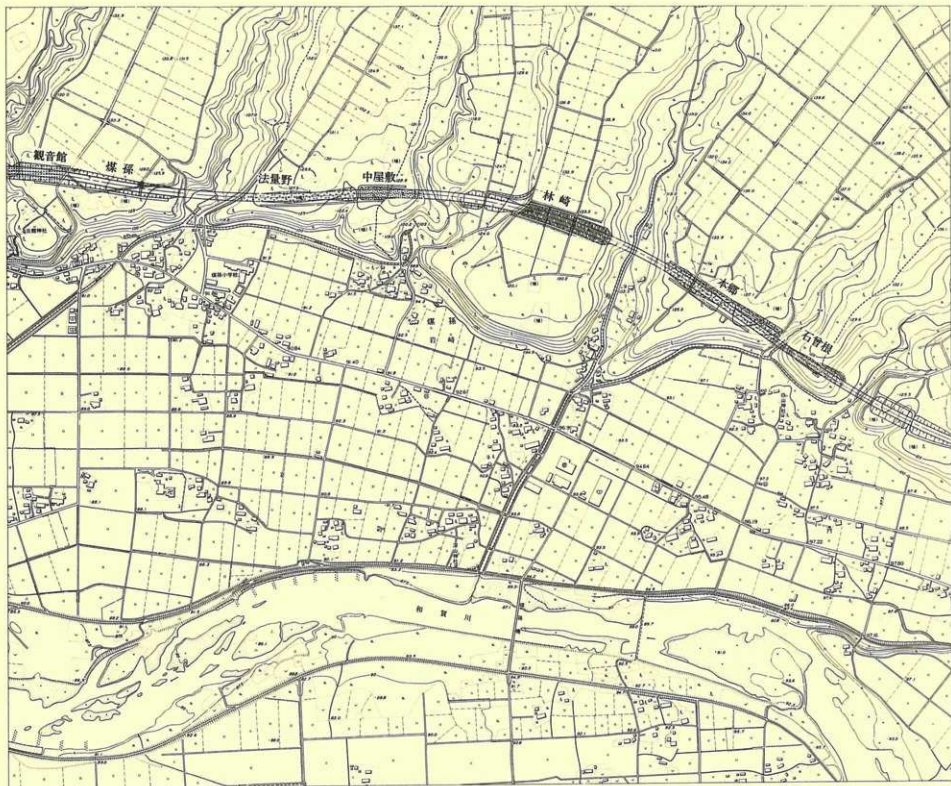
北上市は、岩手県で最も広い平野である北上盆地のほぼ中央に位置し、東側は古生代、中生代の岩石が分布する北上山地、西側には新生代になってから形成された奥羽山脈が南北に連なる。市の東側を北上川が南流し、西方から和賀川が東流して黒沢尻町の南東で北上川へ合流する。盆地西端部には、急激に成長した奥羽山脈側からの河川によって大量の土砂が供給され、多くの扇状地が形成されている。

北上市の市街地はそれらの扇状地が開折されてきた段丘上に広がる。それらの段丘は高位から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘、河岸平野に分類されており、西根段丘は盆地内に残丘として残り、ほとんどは東西両山地の山麓部に分布する。村崎野段丘は花巻市飯豊、中笹間、北上市村崎野、相去、謀孫に分布し、村崎野浮石を含む火山灰がおおっている。金ヶ崎段丘は扇状地状の地形面のほとんどで、後藤野、岩崎新田に広がる地形面がそれである。この段丘が北上市付近では最も広く分布している。河岸平野は北上川、和賀川とそれら支流に沿って分布し、表面には旧河道の跡が網目状に残っており、自然堤防と呼ばれる微高地上には住居が並んでいる。特に和賀川の南岸の段丘は明瞭な崖（比高20～30m）に区切られており、東北横断自動車道はこの段丘上を走ることになる。

両遺跡は、この和賀川南岸の段丘上に立地しており、段丘面は村崎野段丘に相当する。調査区は、段丘崖を浸食して北東に流れる小沢を挟んで隣接し、道路建設予定地に沿った幅30～40m、長さ500mの東西に細長い区域である。遺跡の現状は山林となっており、ほぼ平坦な地形をなしている。標高は約127m、和賀川の現河床との比高は37m前後である。法量野Ⅰ遺跡の東側は市道田屋・法量野線と宮沢に区切られて「謀孫遺跡」に続き、中屋敷遺跡の西側は小坪沢に区切られて「林崎館跡」に続いている。

2. 地形概観（和賀川下流域）

和賀川は奥羽山脈の和賀岳、高下岳の麓よりほぼ南に流れ、沢内盆地を滋養する。湯田町川尻で東に向きを変え、深い谷を削る。湯田ダムはこの谷の出口部分に建設されている。その後北上市和賀町横川目付近で山地を離れ、平野部をゆっくり東流したのち、北上市南東部で北上川と合流する。大きな支流は上流から横川、本内川、下前川、左草川、鬼ヶ瀬川、南本内川、北本内川、鈴鴨川、尻平川、夏油川がある。下流にある尻平川、夏油川は他の支流とは異なり、一度平野部に出てから和賀川と合流する。そして、山地からの出口にあたる北上盆地の西縁部に扇状地を形成する。しかし本流である和賀川自身は大きな扇状地を形成することなく、反対に両支流の扇状地の扇端部を浸食している。それは、和賀川は広い流域を持ち、大量の砂礫の供給が可能であるものの、上流の沢内盆地を流れるうちにそれらの砂礫を落としてしまい下流



第2図 遺跡周辺の地形図

まで運ばれるものが少ないからと考えられる。

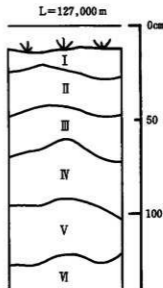
夏油川の上流部には焼石岳、牛形山、駒ヶ岳の火山があり、周囲に火山灰や浮石等を噴出している。特に北上市の村崎野、相去町に分布している浮石層は層厚が3mにもなるが、扇状地状を示す地形面は火山灰に蔽われぬ。和賀川の南岸と北岸では段丘の発達に差がある。南岸には沖積平野との比高が20~30mの急崖によって区切られた段丘面が広がる。段丘面上には崖も見当たらず単一の段丘のようだが、崖に近い所に幅の狭い段丘面が僅かにみられる。北崖は比高数mの崖で区切られる複数の段丘が発達しており、南岸ほど明瞭な急崖はみられず、和賀川が南に偏って流れたことが多かったことを示している。それらの段丘を浸食してできた河岸平野上には流路の変遷の跡である弧状の旧河道が網の目のように分布し、主に水田に利用されている。旧河道に沿って並ぶ自然堤防などの微高地は宅地や畑地に利用されているが、現在は水田造成、宅地造成といった開発によって改変されている。また段丘を開析した沢が沖積平野に出てくる所には扇形の崖錐がみられ、宅地等に利用されている。

3. 基本層序

【法量野I遺跡】(第3図)

グリットIIIJ18・19区深掘りの南壁面セクションにより記述すると、次のとおりである。

- I層 暗褐色土 (10YR3/3~3/4) 現土上で遺跡全面を覆っている。耕作・草木根による攪乱が多く見られる。層厚8~55cm。
- II層 黒褐色土 (10YR2/2~2/3) 調査区西端では確認できず東側に厚く堆積する層で、褐色土粒が含まれる。縄文土器を主とする遺物を包含する。層厚最大85cm。
- III層 褐色~黄褐色土 (10YR4/6~5/6) 遺構検出面である。粘性・しまりがある。層厚20~50cm。
- IV層 黄褐色~明黄褐色土 (10YR5/8~6/6) 粘性があり、堅くしまる。小礫を少量含む。層厚20~50cm。
- V層 明黄褐色土 (10YR6/8) 粘性があり、堅くしまる。円礫を多量に含み、浮石粒が散見される。層厚35~50cm。
- VI層 黄橙色砂礫層 (10YR7/8) 粘土質土。非常に堅くしまる。これ以下は岩盤に続いていると思われる。

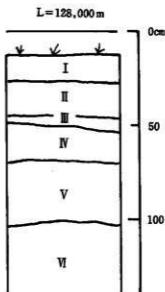


第3図 法量野工遺跡
土層柱状図

【中屋敷遺跡】(第4図)

グリットⅢBの南壁面セクションによると、次のとおりである。

- I層 暗赤褐色土(5YR2/3) 現表土、耕作・草木根による攪乱が多く認められる。層厚20cm前後で、原位置をとどめない土器片、石器が混じる。
- II層 暗褐色土(7.5YR3/4) 層厚20~40cm前後で、地山の褐色土粒が含まれる。下部に遺物が多く包含されている。
- III層 褐色土(7.5YR4/6) 層厚10cm前後の漸位層で地山の褐色土粒をより多く含む。遺構検出面であり、かつ縄文時代早期・前期の包含層でもある。調査区東側では存在しない。
- IV層 明褐色土(7.5YR5/6) 層厚25~40cm前後で粘性があり、部分的に灰白色の粘土が含まれている。これより下層は無遺物層である。
- V層 法量野I遺跡に同じ
- VI層 同上



第4図 中屋敷遺跡
土層柱状図

4. 周辺の遺跡

発掘調査された遺跡に限定し、本遺跡を含めて和賀川周辺の遺跡について概観する。遺跡位置図を第5図に、その内容を表1に掲載した。

和賀川左岸では、中段段丘やその縁辺部および開析された小支谷沿いに縄文時代の遺跡が比較的多く分布し、河岸低地にも認められる。調査された主な遺跡としては鳩岡崎遺跡（縄文・奈良・平安時代の竪穴住居跡、溝状土坑）、藤沢遺跡（平安時代の竪穴住居跡、溝状土坑）、九年橋遺跡（縄文晩期）などがあげられる。また、低位段丘上や低位段丘に沿って河岸低地に形成された自然堤防上には、奈良時代から平安時代にかけての遺跡が多く分布する。調査された主な遺跡としては下谷地遺跡（縄文土器、土師器、須恵器）、長沼古墳群（古墳13基、鉄刀、勾玉、切子玉など）、猫谷地古墳群、五条丸古墳群などがあげられる。

和賀川右岸では、丘陵縁辺や段丘上に開析された支谷に沿って、縄文時代から平安時代までの遺跡が分布し、段丘の北側縁辺部には湧泉や深く入り込んだ沢、急崖等を利用した城館遺跡が分布している。調査された主な遺跡としては、段丘構成層から旧石器が出土している和賀仙人遺跡（旧石器の散布地）、下岩沢Ⅰ遺跡（集落跡、土坑、縄文土器、弥生土器）、梅ノ木遺跡（縄文・古代・中世の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、縄文土器）、成沢遺跡（平安時代の竪穴住居跡、土師器）、中段段丘上に立地する下成沢遺跡（旧石器、縄文土器、土師器）、上大谷地遺跡（平安時代の竪穴住居跡、縄文土器、土師器）などがあげられる。

平成元年からは本遺跡も含めて東北横断自動車道秋田線建設関連の遺跡発掘事業が始まり、和賀川南岸の低位段丘の縁辺部に立地する遺跡が調査された。その結果、柳上遺跡（縄文・平安時代の竪穴住居跡、土坑）、上鬼柳Ⅰ遺跡（弥生時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、陥し穴）、上鬼柳Ⅱ遺跡（弥生・平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴）、上鬼柳Ⅲ遺跡（縄文、平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、周溝、土坑、陥し穴）、上鬼柳Ⅳ遺跡（縄文時代の土坑群）、岩崎台地遺跡群（縄文・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、陥し跡、方形周溝、塚、溝跡）、岩崎城西遺跡（溝跡、柱穴列、炭窯跡）、梅ノ木台地Ⅰ・Ⅱ遺跡（平安時代の竪穴住居跡）、兵庫館跡（館跡、弥生土器）、上反町遺跡（土坑、炭窯跡）、観音館跡（掘立柱建物跡、土坑、陥し穴、溝跡）、煤孫遺跡（縄文・平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴、溝跡）、林崎館跡（縄文時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴）、本郷遺跡（縄文時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴、塚）、石曾根遺跡（縄文時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴）、月館跡（掘跡、櫛列）、八幡館跡（平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴）、八幡野Ⅱ遺跡（平安時代の竪穴住居跡、土坑、陥し穴）、田中館跡（土坑）などの遺構が発見されている。

参考資料

- (1) 岩手県土地分類基本調査地形分類図
- (2) 中川久夫・石田琢二・大池昭二・小野寺信吾・七崎 修・松山 力「北上線沿線の段丘群」『東北大学地質古生物研報No71』p47～59、1971
- (3) 中川久夫・石田琢二・佐藤二郎・松山 力・七崎 修「北上川上流沿岸の第四系および地形—北上川流域の第四紀地史(1)」、『地質学雑誌』69 p163～171、1963

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	遺跡・遺物	所在地	番号	遺跡名	種別	遺跡・遺物	所在地
1	八幡館	館跡	縄文晩期・弥生土器、石器	横川目	19	塚基	集落跡	竪穴住居跡、縄文前～中期土器	塚基
2	極川館	館跡	縄文中期土器、埴土瓦	横川目	20	観音館	館跡	埴土瓦、須恵器	塚基
3	藤原敷	集落跡	弥生土器、土師器	江釣子	21	上反町	散布地	縄文・弥生土器、石器	塚基
4	念仏草	散布地	縄文・弥生土器	長尾	22	兵隊館	館跡	弥生土器、石器	岩崎
5	新平	沢原跡	縄文・弥生土器、土坑	江釣子	23	橋ノ木台地II	集落跡	縄文土器	岩崎
6	本宿割場	散布地	縄文土器	江釣子	24	橋ノ木台地I	集落跡	縄文土器	岩崎
7	本宿	散布地	縄文土器、土師器	江釣子	25	岩崎城西	散布地	縄文土器、漆器、陶器	岩崎
8	鳩岡崎	集落跡	竪穴住居跡、土坑群、縄文土器	江釣子	26	岩崎台地遺跡群	集落跡	竪穴住居跡、土師器、須恵器	江釣子
9	九年橋	散布地	縄文晩期土器	九年橋	27	上鬼柳I	集落跡	弥生・竪穴住居跡、土師器	鬼柳
10	田中館	館跡	土坑	山口	28	上鬼柳II	集落跡	弥生・竪穴住居跡、陶土穴	鬼柳
11	八幡野II	散布地	縄文土器・土師器、須恵器	山口	29	上鬼柳III	集落跡	竪穴住居跡(縄文・平安)、土坑	鬼柳
12	八幡館	館跡	縄文土器、中世	山口	30	上鬼柳IV	集落跡	縄文中期土坑群、埋地跡	鬼柳
13	月館	館跡	埴土瓦、縄文土器	塚基	31	柳上	集落跡	竪穴住居(縄文中期、平安)	鬼柳
14	石曾根	集落跡	竪穴住居跡、縄文・弥生土器	塚基	32	橋ノ沢	集落跡	縄文中期土器	相生
15	本綱	集落跡	竪穴住居跡、縄文中期土器、土師器	塚基	33	望野II	集落跡	縄文土器、印石器	塚基
16	林崎館	集落跡	竪穴住居跡、縄文中期土器	塚基	34	花曾根上	集落跡	縄文土器、土師器、須恵器	岩崎
17	中屋敷	散布地	縄文晩期～弥生土坑、石器	塚基	35	七折	集落跡	縄文土器、石器、射鏃車	岩崎
18	狭登野I	散布地	縄文陥し穴、土坑	塚基					

※10～31は東北横断自動車道秋田線開通の遺跡



第5図 法量野I遺跡・中屋敷遺跡と周辺遺跡位置図

Ⅲ. 野外調査と室内整理の方法

1. 野外調査

(1) 調査区割の設定と遺構名

両遺跡とも、東北横断自動車道建設予定地内の道路中心杭の任意の2点を、平面直角座標第X系に移動し、この公共座標軸を利用してそれぞれ基準点1・2を設置した。基準点の成果は次の通りである。

法量野I遺跡

基準点1 X=-80,040.000 Y=+15,300.000

基準点2 X=-80,040.000 Y=+15,340.000

中屋敷遺跡

基準点1 X=-80,020.000 Y=+15,080.000

基準点2 X=-80,020.000 Y=+15,120.000

グリットは、基1を座標原点とし、原点と基2を結ぶ線と、原点を通りこれと直交する線を基準線とした。これをもとに調査対象区全体をカバーするように20m間隔の大区画を設定し、西から東にA・B・C・Dのアルファベットを、北から南へI・II・IIIのローマ数字をそれぞれ付し、両者の組み合わせによって大区画名をIA区・IIIC区のように表した。また、大区画を4mごとに区画し、西から東へ01・02・03……25の数字を付し、小区画名をIA01・IIIC15のように表した。

遺構名は、両遺跡とも大区画ごとに遺構の種類と検出順位を組み合わせて、IA-1号土坑、IIIC-3号陥し穴のように表した。

(2) 把握・遺構検出と精査

検出面までの深さ及び層序の確認のため小規模なトレンチを入れ、その後重機を導入して表土を除去した。表土除去後、作業員によって遺構を検出した。遺構検出は、両遺跡ともIII層上面で行い、ほとんどの遺構はこの面で確認されている。

検出された遺構は、土坑・陥し穴は2分法で精査し、溝跡は適宜畦畔を残して埋土を除去した。精査の各段階において必要図面の作成や写真撮影を行った。

遺構内出土の遺物は、埋土では上・中・下層に分けて取り上げ、底面出土の遺物は、写真撮影、図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については各区画単位に出土した層位を記入して取り上げた。

(3) 実測方法・写真撮影

実測は簡易遣り方測量で行った。実測図は20分の1の縮尺で、平面図と断面図を作成した。遺構のレベルは50cm間隔で計測した。

写真撮影は、6×7cm版1台（白黒）と35mm版2台（白黒、カラーリバーサル）の3台を1セットとして使用し、埋土断面・全景・遺物出土状況等を撮影した。

2. 室内整理

(1) 作業手順

遺物の水洗いと注記の一部を発掘現場で行った。室内整理では、残っている遺物の注記から始め、次いで接合・復元、石膏入れの順に進めた。これらの作業が終わった段階で遺物の仕分・登録を行い、報告書掲載分について写真撮影を行った。その後、遺物実測、土器拓本、遺物・遺構トレースの順に作業を進め、最後に図版と写真図版を作成した。これらの作業と併行して計測、鑑定、原稿作成を行い報告書に掲載した。

(2) 遺構図版

各遺構図版は以下の縮尺を原則としたが、一部には縮尺の変更もあり、図版にはそれぞれスケール・縮尺率を付した。

土坑・陥し穴の平面図・断面図…1/40

溝跡の平面図…1/100 断面図…1/40

遺構配置図は発掘調査時に作成した図面を基本に1/500の縮尺図を作成し、不定縮尺で掲載した。

(3) 遺物図版

本遺跡から出土した遺物には、土坑から出土した遺物、遺構外から出土した遺物の順に一連の遺物番号を付した。

土器については、左上に口径・底径・器高の順にその測定値（cm）を記した。（ ）付の数値は反転実測によって推定した値である。また土坑底面から出土した遺物には右上に「底面」と記した。掲載遺物の縮尺率は次のとおりである。

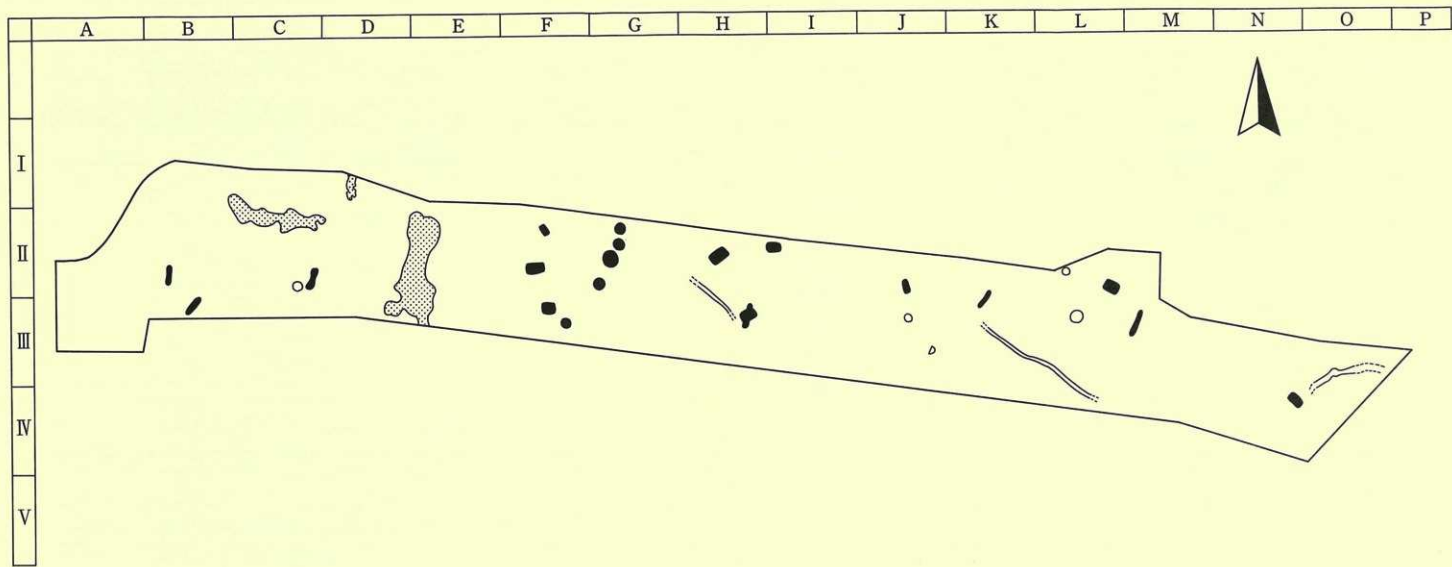
土器の実測図… $\frac{1}{4}$ 拓本… $\frac{1}{2}$ 剥片石器… $\frac{1}{2}$ 礫石器… $\frac{1}{4}$

(4) 写真図版

写真の縮尺は遺構・遺物とも不定である。また、遺物の写真番号は遺物図版番号と同一番号とした。

IV. 法量野 I 遺跡

所在地	北上市和賀町煤孫 4 地割66-37ほか
委託者	日本道路公団仙台建設局北上工事事務所
発掘調査期間	平成 2 年 4 月 16 日～6 月 30 日 (検出) 平成 3 年 4 月 16 日～5 月 31 日 (精査)
調査対象面積	9,990㎡
遺跡番号	ME63-2313
調査担当者	平成 2 年度 中川重紀・菊池明芳 平成 3 年度 村上 修・遠藤 修・引屋敦 学
協力機関	北上市教育委員会



第6図 法量野I遺跡遺構配置図

1. 検出された遺構と遺物

検出された遺構は、土坑5基、陥し穴状遺構20基、焼土遺構3か所、溝跡3条である。遺構に伴う遺物は、土坑から縄文土器・刺片が少量出土している。

(1) 土 坑

ⅡC-1号土坑

遺構（第7図、写真図版2）

調査区西側のグリットⅡC24区に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともにほぼ円形である。断面形は鉢状を呈し開口部が開く。規模は開口部径132×128cm、底部径60×52cm、深さは中心部で68cmである。底面はⅣ層下面にあり、礫混じりで堅く平坦である。埋土は4層に細分され、上位は黒褐色土、下位は暗褐色土で構成される。壁際に地山崩落土が見られる。時期は不明である。

出土遺物（第8図、写真図版13）

埋土上層から土器2点と石器2点が出土している。1は深鉢形土器の頸部から胴部上端の破片で緩く内湾する。頸部に太い沈線がめぐり、地文はLRを横方向に回転地文している。2は緩く内湾する無文の壺形土器の胴部破片である。これらはともに第Ⅱ群3類土器に属するものである。3・4は縁辺に刃こぼれ状の微小な刺痕が見られる刺片であり、3の片面は自然面である。

ⅡL-1号土坑（第7図、写真図版3）

調査区中央の北端、グリットⅡL17区に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径90×88cm、頸部径80×78cm、底部径130×122cm、深さは中心部で72cmである。底面はⅣ層下面にあり、礫混じりで堅く平坦である。埋土は3層に細分され、黒褐色土主体で構成され、褐色土が混入する。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ⅢJ-1号土坑

遺構（第7図、写真図版3）

調査区東側のグリットⅢJ19区に位置する。重機による粗掘過程において西側2/3を削削し、残存するのは東側1/3のみである。残存する形状から推定して、平面形は底部が円形、断面形はフラスコ状を呈するものと考えられる（開口部～頸部は残存せず）。規模は底部直径140cm、検

出面からの深さは約80cmである。底部はIV層にあり平坦である。底部に見られる小穴は木根による攪乱と考えられる。埋土は7層に細分され、暗褐色土と褐色土で構成される。壁際に地山崩落土が見られる。

出土遺物（第8図、写真図版13）

埋土下層より5～7の深鉢形土器の破片が出土している。5は口縁部～胴部上部であり、短い口縁部が外反し、胴部上端が張り出す器形である。口唇部には小突起が並び、突起間に刻み目が施される。口縁部直下に5条の平行沈線が走り、部分的に刻目が施される。口縁部内面には1条の沈線が走る。6は平縁部片、7は底部片である。地文はすべてLRを横方向に回転施文している。これらは第II群3類土器に属するものである。

遺構の時期

出土した土器から推定して、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

ⅢJ-2号土坑（第7図、写真図版3）

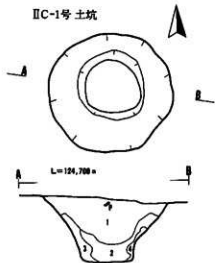
調査区東側のグリットⅢJ08区に位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はピーカー状を呈する。規模は開口部径98×95cm、底部径84×80cm、深さは中心部で42cmである。底部はIV層にあり堅く平坦である。埋土は5層に細分され、上位は黒褐色土、下位は褐色土で構成される。壁際には地山崩落土が見られる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

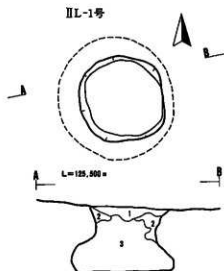
ⅢL-1号土坑（第8図、写真図版4）

調査区東側のグリットⅢL07区とⅢL08区にまたがって位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部とともに円形である。断面形は浅皿状を呈する。規模は開口部径178×167cm、底部径116×96cm、深さは中心部で46cmである。底面はIV層上面にあり堅く平坦である。埋土は5層に細分され、上位は黒褐色土、下位は暗褐色土主体で構成される。壁際には地山崩落土が見られる。

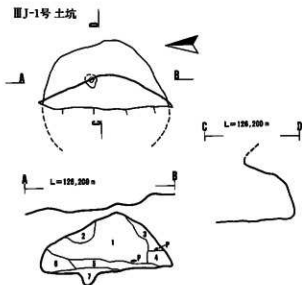
出土遺物はなく、時期は不明である。



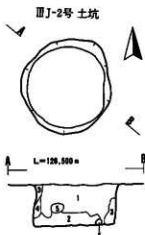
1. 10YR 7.5R 暗褐色 褐色土少量混入、炭化物含む
2. 10YR 7.5R 暗褐色 褐色土混入
3. 10YR 7.5R 暗褐色 粘性・しまりあり
4. 10YR 7.5R 暗褐色 粘性・しまりあり



- ⅡL 土坑
1. 10YR 7.5R 暗褐色
 2. 10YR 7.5R 暗褐色 粘性あり
 3. 10YR 7.5R 暗褐色 褐色土混入



- ⅢJ-1号 土坑
1. 10YR 7.5R 暗褐色 褐色土混入、炭化物含む
 2. 7.5YR 7.5R 暗褐色 褐色土混入
 3. 10YR 7.5R 暗褐色
 4. 10YR 7.5R 暗褐色 炭化物含む
 5. 7.5YR 7.5R 暗褐色 炭化物少量含む
 6. 7.5YR 7.5R 暗褐色 明褐色土ブロック混入
 7. 10YR 7.5R 暗褐色 明褐色土混入 しまる

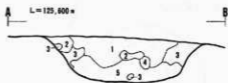
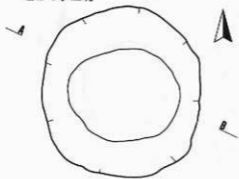


- ⅢJ-2 土坑
1. 10YR 7.5R 暗褐色 褐色土少量混入
 2. 10YR 7.5R 暗褐色 粘性・しまりあり
 3. 10YR 7.5R 暗褐色
 4. 10YR 7.5R 暗褐色 暗褐色土少量混入
 5. 10YR 7.5R 暗褐色



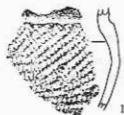
第7図 土坑 (1)

Ⅲ L-1号 土坑

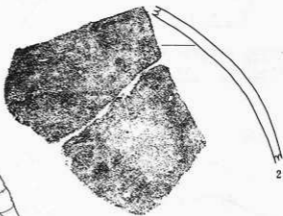


Ⅲ L 土坑

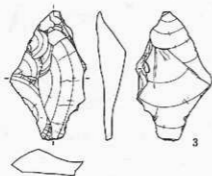
- 1. 10YR 5/1 黒褐色 褐色土少量混入
- 2. 10YR 5/1 黒褐色 粘性・しまりあり
- 3. 10YR 5/1 黒褐色 粘性・しまりあり
- 4. 10YR 5/1 黒褐色
- 5. 10YR 5/1 黒褐色 粘性・しまりあり



1



2



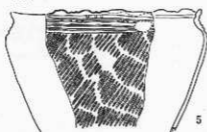
3



4

Ⅱ C-1号 土坑出土遺物

(20.0) ---



5



6



7

Ⅲ J-1号 土坑出土遺物

第 8 図 土坑・遺構内出土遺物(2)

(2) 陥し穴状遺構

II G-1号陥し穴状遺構

遺構（第9図、写真図版4）

調査区中央のグリットII G07区に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が円形、底部が隅丸方形である。断面形は鉢状を呈し、開口部が大きく開く。規模は開口部径194×192cm、底部径100×98cm、深さは中心部で120cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く平坦である。底部中央に開口部径32×27cm、底部径24×16cm、深さ50cmの副穴1個がある。埋土は9層に細分され、上位は黒褐色土と暗褐色土、下位は褐色土、副穴内は黄褐色土で構成される。壁際に地山崩落土が見られる。2・7・8層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

II G-2号陥し穴状遺構

遺構（第9図、写真図版4）

調査区中央のグリットII G12区に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部がほぼ円形、底部が隅丸方形である。断面形は鉢状を呈し、開口部が大きく開く。規模は開口部径185×182cm、底部径100×98cm、深さは中心部で115cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く平坦である。底部中央に開口部直径20cm、底部直径18cm、深さ40cmの副穴1個がある。埋土は8層に細分され、上位は黒褐色土、下位は黄褐色土主体で構成される。壁際に地山崩落土が見られる。2層には焼土粒と炭化物粒が、6層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

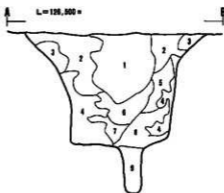
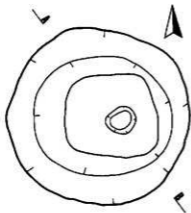
規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

II G-3号陥し穴状遺構

遺構（第10図、写真図版5）

調査区中央のグリットII G11・12区とII G16・17区にまたがって位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が円形、底部が隅丸方形に近い楕円形である。断面形は鉢状を呈する。規模は開口部径185×174cm、底部径120×100cm、深さは中心部で115cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く平坦である。底部中央に開口部径42×38cm、底部直径25cm、深さ80cm

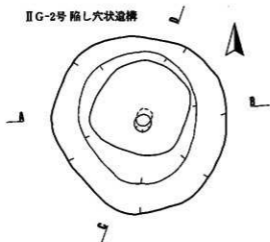
II G-1号 陥し穴状遺構



II C-1 陥

1. 10YR 5/8 黒褐色
2. 10YR 5/7 暗褐色 炭化物少量含む
3. 10YR 5/6 褐色 粘性あり
4. 10YR 5/4 黄褐色 粘性あり
5. 10YR 5/3 褐色 腐色土混入
6. 10YR 5/2 暗褐色 腐色土少量混入、もろい
7. 10YR 5/1 暗褐色 暗褐色土混入、炭化物含む
8. 10YR 5/0 黒色 炭化物含む、粘性あり
9. 10YR 5/10 黄褐色 もろい

II G-2号 陥し穴状遺構



II G-2 陥

1. 10YR 5/8 黒褐色
2. 10YR 5/7 暗褐色 腐色土混入、焼土・炭化物少量含む
3. 10YR 5/6 褐色 腐色土混入、しまる
4. 10YR 5/4 黄褐色 暗褐色土混入、しまる
5. 10YR 5/3 褐色 粘性あり
6. 10YR 5/2 暗褐色 黄褐色土混入、炭化物含む
7. 10YR 5/1 暗褐色 黄褐色土混入
8. 10YR 5/0 黒色 粘性あり、堅くしまる



第9図 陥し穴状遺構 (1)

の副穴1個がある。埋土は9層に細分され、上位は黒褐色土、下位は黄褐色と黒褐色の混土で構成される。壁際に地山崩落土が見られる。1・6・8層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

II G-4号陥し穴状遺構

遺構（第10図、写真図版5）

調査区中央のグリットII G21区に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部・底部ともに円形である。断面形はピーカー状を呈し開口部が大きく開く。規模は開口部径120×110cm、底部径66×64cm、深さは中心部で130cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く平坦である。底部中央に開口部直径15cm、底部直径10cm、深さ55cmの副穴1個がある。埋土は8層に細分され、上位と下位は黒褐色土、中位は暗褐色土で構成される。壁際に地山崩落土が見られる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

III F-1号陥し穴状遺構

遺構（第11図、写真図版5）

調査区中央のグリットIII F09区に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が円形、底部が隅丸方形である。断面形はピーカー状を呈する。規模は開口部径110×106cm、底部径62×60cm、深さは中心部で135cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く平坦である。底部中央に開口部径15×12cm、深さ25cmの副穴1個がある。埋土は7層に細分され、黒褐色土主体で構成される。下位に暗褐色土と黄褐色土が、壁際に地山崩落土が見られる。

出土遺物はない。

遺構の時期

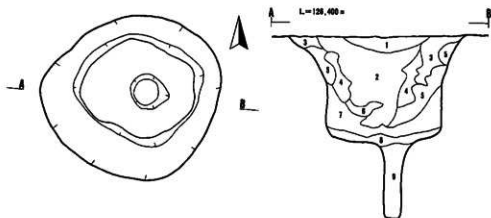
規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

II F-1号陥し穴状遺構

遺構（第11図、写真図版6）

調査区中央のグリットII F08区に位置する。検出面はII層下面である。平面形は開口部・底部

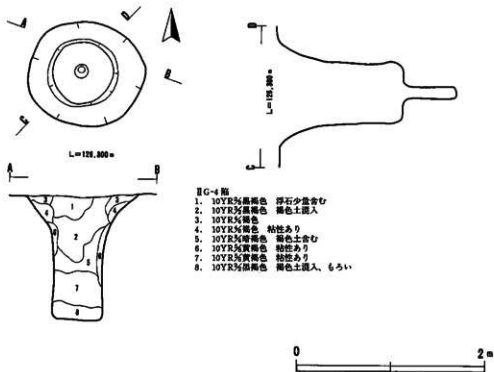
II G-3 陥し穴状遺構



II G-3号 陥

1. 10YR7/黒褐色 炭化物少量含む
2. 10YR7/黒褐色 暗褐色土少量含む
3. 10YR7/暗褐色
4. 10YR7/暗褐色 褐色土混入
5. 10Y2/紅褐色 粘性あり
6. 10Y2/赤色 炭化物多量に含む
7. 10YR7/黄褐色 粘性あり
8. 10YR7/黒褐色 黄褐色土少量混入 炭化物含む
9. 10YR7/黄褐色 粘性・しまりあり 黒褐色土がブロック状に混入 もろい

II G-4号 陥し穴状遺構

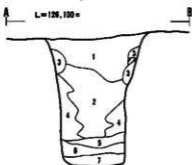


II G-4号 陥

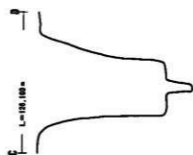
1. 10YR7/黒褐色 浮石少量含む
2. 10YR7/黒褐色 褐色土混入
3. 10YR7/褐色
4. 10YR7/褐色 粘性あり
5. 10YR7/暗褐色 褐色土含む
6. 10YR7/黄褐色 粘性あり
7. 10YR7/黄褐色 粘性あり
8. 10YR7/黒褐色 褐色土混入、もろい

第10図 陥し穴状遺構(2)

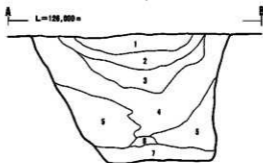
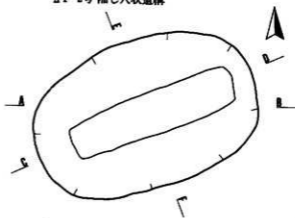
ⅡF-1号 陥し穴状遺構



1. 10YR7黒褐色 褐色土混入
2. 10YR7黒褐色 褐色土混入
3. 10YR7褐色 堅くしまる
4. 10YR7褐色 暗褐色土混入、もろい
5. 10YR7暗褐色 褐色土混入、粘性あり
6. 10YR7黄褐色 粘性あり、もろい
7. 10YR7暗褐色 褐色土混入

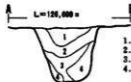
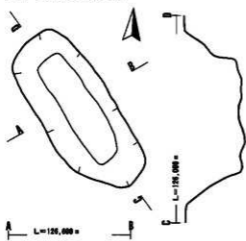


ⅡF-2号 陥し穴状遺構



1. 17YR7黒色
2. 10YR7黒褐色 炭化物少量含む
3. 10YR7暗褐色 炭化物少量含む
4. 10YR7暗褐色
5. 10YR7褐色 暗褐色土混入
6. 10YR7褐色
7. 10YR7黄褐色 粘性・しまりあり

ⅡF-1号 陥し穴状遺構



1. 10YR7黒色
2. 10YR7黒褐色 炭化物少量含む
3. 10YR7暗褐色
4. 10YR7暗褐色 暗褐色土混入



第11図 陥し穴状遺構 (3)

ともに隅丸長方形であり、長軸方向は北西-南東である。断面形は短軸・長軸ともに鉢状を呈し開口部が大きく開く。規模は開口部径185×80cm、底部径125×40cm、深さは中心部で60cmである。底面はIV層下面で堅くやや凸凹がある。底部に副穴はない。埋土は4層に細分され、上位から順に黒色・褐色・暗褐色の土層で、壁際に地山崩落土が見られる。2層は炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

II F-2号陥し穴状遺構

遺構（第12図、写真図版6）

調査区中央のグリットII F17区に位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が楕円形、底部が長方形であり、長軸方向は北東-南西である。断面形は短軸が鉢状、長軸が長方形を呈し、ともに開口部が大きく開く。規模は開口部径240×160cm、底部径185×45cm、深さは中心部で130cmである。底面はIV層下位で堅く平坦である。底部に副穴はない。埋土は7層に細分され、上位は黒色土と黒褐色土、中位は暗褐色土、下位は褐色土と黄褐色土で構成される。2層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

II H-1号陥し穴状遺構

遺構（第12図、写真図版6）

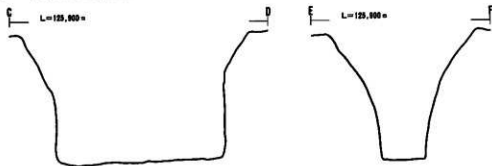
調査区中央のグリットII H12・13区とII H17・18区にまたがって位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が長楕円形、底部が長方形であり、長軸方向は北東-南西である。断面形は短軸が鉢状、長軸が長方形を呈し、ともに開口部が僅かに開く。規模は開口部径280×175cm、底部径258×68cm、深さは中心部で155cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く平坦である。底部に副穴はない。埋土は7層に細分され、上部は黒褐色土、以下は褐色～黄褐色土で構成される。壁際に地山崩落土が見られる。2層には浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

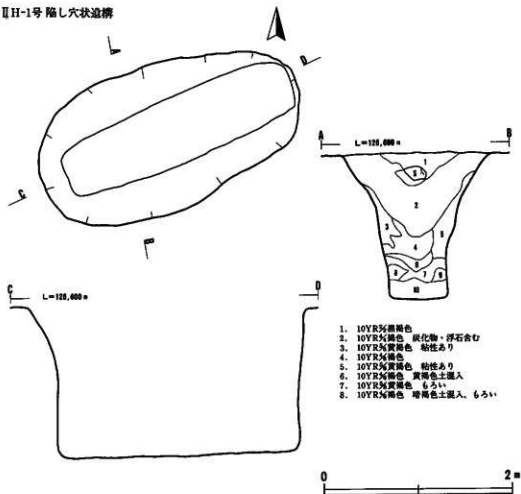
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

Ⅱ F-2号 陥し穴状遺構(断面)



Ⅱ H-1号 陥し穴状遺構



第12図 陥し穴状遺構(4)

II I - 1号陥し穴状遺構

遺構 (第13図、写真図版7)

調査区中央のグリットIIH15区とIIH11区にまたがって位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が楕円形、底部が隅丸長方形であり、長軸方向はほぼ西-東である。断面形は短軸・長軸ともに鉢状を呈し開口部が大きく開く。規模は開口部径210×185cm、底部径115×40cm、深さは中心部で110cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く凸凹がある。底部に副穴はない。埋土は7層に細分され、黒褐色土と黄褐色土主体で構成される。壁際に地山崩落土が見られる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

II J - 1号陥し穴状遺構

遺構 (第13図、写真図版7)

調査区中央のグリットIIJ23区とIIIJ03区にまたがって位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部が長楕円形、底部が隅丸長方形であり、長軸方向はほぼ北-南である。断面形は短軸が鉢状、長軸が長方形を呈し、ともに開口部が僅かに開く。規模は開口部径200×100cm、底部径180×40cm、深さは中心部で110cmである。底面はIV層下面で若干凸凹がある。底部に直径16～6cm、深さ25～13cmの副穴4個がある。埋土は6層に細分され、上位は褐色土、中位は暗褐色土、下位は黄褐色土で構成される。1層は人為的の堆積で炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

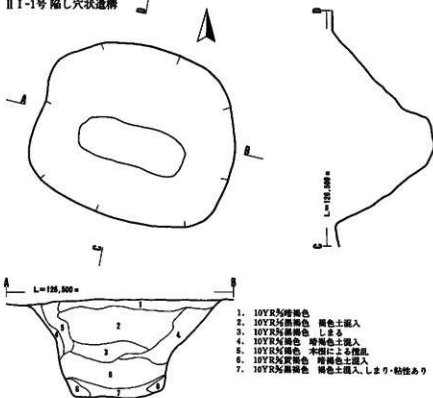
規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

II L - 1号陥し穴状遺構

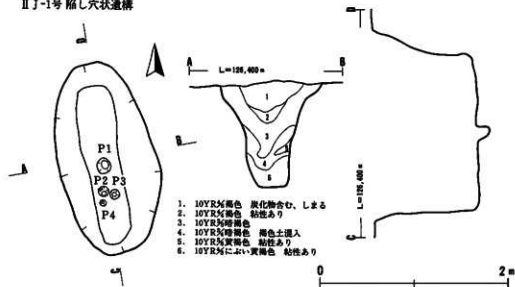
遺構 (第14図、写真図版7)

調査区東側のグリットIIIL24・25区とIIIL04・05区にまたがって位置する。検出面はIII層上面である。平面形は開口部・底部ともに隅丸長方形であり、長軸方向は北西-南東である。断面形は短軸・長軸ともにピーカー状を呈する。規模は開口部径175×125cm、底部径138×98cm、深さは中心部で90cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く平坦である。底部に直径35～22cm、深さ35～20cmの副穴3個がある。埋土は5層に細分され、上部は黒色土、下位は褐色土主体で構成される。

II I-1号 陥し穴状遺構



II J-1号 陥し穴状遺構



第13図 陥し穴状遺構 (5)

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅢF-2号陥し穴状遺構

遺構（第14図、写真図版8）

調査区中央のグリットⅢF03区とⅢF08区にまたがって位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部が楕円形、底部が隅丸長方形であり、長軸方向は西一東である。断面形は短軸が鉢状、長軸がピーカー状を呈し、ともに開口部が僅かに開く。規模は開口部径200×150cm、底部径132×64cm、深さは中心部で150cmである。底面はⅣ層下位で堅く平坦である。底部に直径15～12cm、深さ20～13cmの副穴3個がある。埋土は8層に細分され、上位は黒褐色土と暗褐色土、以下は褐色土と暗褐色土の互層となる。2・3・4層には浮石粒が、4・5層には炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅢH-1号陥し穴状遺構

遺構（第15図、写真図版8）

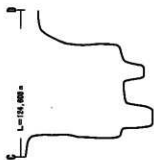
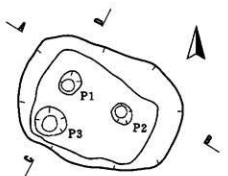
調査区中央のグリットⅢH04区とⅢH09区にまたがって位置する。検出面はⅢ層上面である。中央部でⅢH-2号陥し穴状遺構を切る。平面形は開口部が楕円形、底部が隅丸長方形であり、長軸方向は北東一南西である。断面形は短軸が鉢状、長軸が長方形を呈する。規模は開口部径245×195cm、底部径155×50cm、深さは中央部で160cmである。底面はⅤ層上面に達し、礫混じりで堅く平坦である。底部に副穴はない。埋土は10層に細分され、上位は黒褐色土と褐色土、中位は黒褐色土と暗褐色土、下位は黒褐色土、暗褐色土と黄褐色土で構成される。1層には炭化物粒が、2・5層には浮石粒が含まれる。

出土遺物はない。

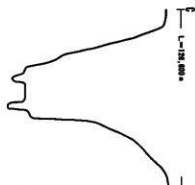
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅡL-1号 陥し穴状遺構

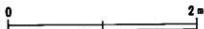
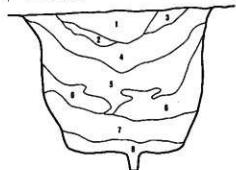
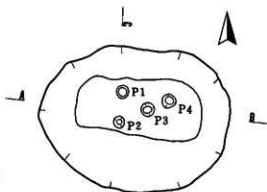


1. 10YR黄褐色 しまる
2. 10YR黄褐色 暗褐色土混入
3. 10YR黄褐色 暗褐色土混入
4. 10YR黄褐色 粘性あり
5. 10YR黄褐色 堅くしまる、粘性あり



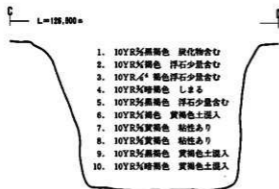
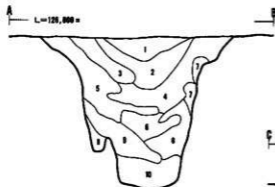
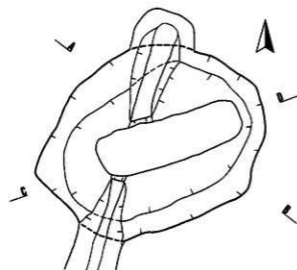
1. 10YR黄褐色 暗褐色土混入
2. 10YR黄褐色 炭化物・浮石少量含む
3. 10YR黄褐色 炭化物含む
4. 10YR黄褐色 炭化物・浮石少量含む
5. 10YR黄褐色 浮石少量含む、もろい
6. 10YR黄褐色 暗褐色土含む
7. 10YR黄褐色 しまり、粘性あり
8. 10YR黄褐色 礫多量を含む

ⅢF-2号 陥し穴状遺構



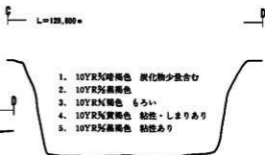
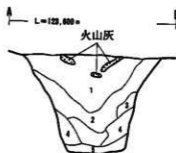
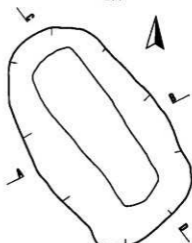
第14図 陥し穴状遺構 (6)

ⅢH-1号 陥し穴状遺構



1. 10YR7/黒褐色 炭化物含む
2. 10YR7/褐色 浮石少量含む
3. 10YR-4* 褐色浮石少量含む
4. 10YR7/暗褐色 しまる
5. 10YR7/黒褐色 浮石少量含む
6. 10YR7/褐色 黄褐色土混入
7. 10YR7/黄褐色 粘性あり
8. 10YR7/黄褐色 粘性あり
9. 10YR7/黒褐色 黄褐色土混入
10. 10YR7/暗褐色 黄褐色土混入

ⅣN-1号 陥し穴状遺構



1. 10YR7/暗褐色 炭化物少量含む
2. 10YR7/黒褐色
3. 10YR7/褐色 もろい
4. 10YR7/黄褐色 粘性・しまりあり
5. 10YR7/黒褐色 粘性あり



第15図 陥し穴状遺構 (7)

IVN-1号陥し穴状遺構

遺構 (第15図、写真図版 8)

調査区東端のグリットIVN05区とIVN09・10区にまたがって位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は開口部・底部ともに隅丸長方形であり、長軸方向は北西-南東である。断面形は短軸が鉢状、長軸が長方形を呈しともに開口部が開く。規模は開口部径245×145cm、底部径182×60cm、深さは中心部で100cmである。底面はⅣ層下位で堅く平坦である。底部に副穴はない。埋土は5層に細分され、上位は暗褐色土、下位は黒褐色土で構成される。壁際に地山崩壊土が見られる。1層には火山灰と炭化物粒が含まれる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅡB-1号陥し穴状遺構

遺構 (第16図、写真図版 9)

調査区西側のグリットⅡB17区とⅡB22区にまたがって位置する。検出面はⅢ層下面である。平面形は長軸方向を北東-南西にもつ細長い溝形である。断面形は短軸が歪んだU字状を呈し、長軸では両端ともに外傾する。規模は開口部径400×50cm、底部径375×25cm、深さは最大45cmである。底面はⅤ層上面に達し、礫混じりで凸凹があり、北西から南西へ50cmほど傾斜する。底部に副穴はない。埋土は4層に細分され、暗褐色土主体で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

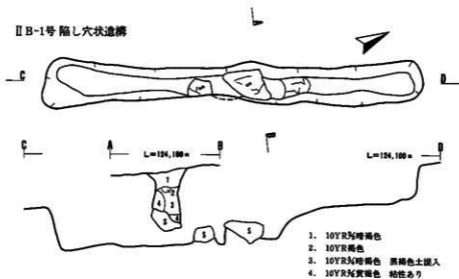
ⅡC-1号陥し穴状遺構

遺構 (第16図、写真図版 9)

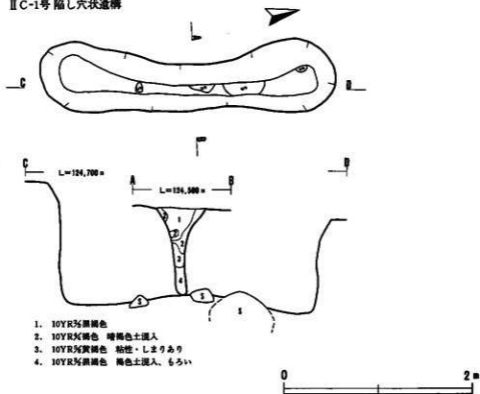
調査区西側のグリットⅡC20区とⅡC24・25区にまたがって位置する。検出面はⅣ層上面である。平面形は長軸方向をほぼ北-南にもつ細長い溝形であり、両端が膨らみをもつ。断面形は短軸がV字状を呈し、長軸では両端とも直立し、開口部がやや開く。規模は開口部径310×80cm、底部径270×35cm、深さは最大125cmである。底面はⅤ層上面に達し、礫混じりで堅い。中央部は10cm盛り上がるがほぼ平坦である。底部に副穴はない。埋土は4層に細分され、上位と下位は黒褐色土、中位は褐色土～黄褐色土で構成される。

出土遺物はない。

Ⅱ B-1号 陥し穴状遺構



Ⅱ C-1号 陥し穴状遺構



第16図 陥し穴状遺構 (8)

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅢB-1号陥し穴状遺構

遺構（第16図、写真図版9）

調査区西側のグリットⅢB13区とⅢB04区にまたがって位置する。検出面はIV層上面である。平面形は長軸方向を北東-南西にもつ細長い溝形である。断面形は短軸がV字状を呈し、長軸では両端とも外傾する。規模は開口部径370×70cm、底部径325×25cm、深さは中心部で110cmである。底面はV層上面に達し、礫混じりで堅く平坦で、北東から南西へ20cmほど傾斜する。底部に副穴はない。埋土は4層に細分され、上位は黒色土、以下は黒褐色土と黄褐色土の互層となる。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅢH-2号陥し穴状遺構

遺構（第16図、写真図版10）

調査区中央のグリットⅢH04区とⅢH09区にまたがって位置する。検出面はⅢ層上面である。北半をⅢH-1陥し穴状遺構に切られる。平面形は長軸方向をほぼ北-南にもつ細長い溝形である。断面形は短軸がV字状を呈し、長軸では両端とも直立し、開口部がやや開く。規模は開口部径405×70cm、底部径375×25cm、深さは中心部で120cmである。底面はIV層下面で堅く平坦である。底部に副穴はない。埋土は5層に細分され、上位は暗褐色土、下位は黄褐色土と褐色土で構成される。

出土遺物はない。

遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅢK-1号陥し穴状遺構

遺構（第18図、写真図版10）

調査区東側のグリットⅢK02区とⅢK03区にまたがって位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は長軸方向を北東-南西にもつ細長い溝形である。断面形は短軸がV字状を呈し、長軸は両端ともオーバーハングする。規模は開口部径340×35cm、底部径355×15cm、深さは中心部で

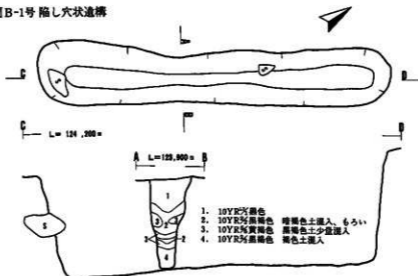
80cmである。底面はIV層下面で堅く平坦である。底部に副穴はない。埋土は2層に細分され、黒褐色土主体で構成される。

出土遺物はない。

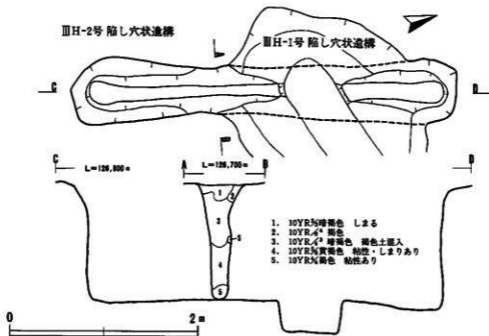
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅢB-1号 陥し穴状遺構



ⅢH-2号 陥し穴状遺構



第17図 陥し穴状遺構 (9)

ⅢM-1号陥し穴状遺構

遺構（第18図、写真図版10）

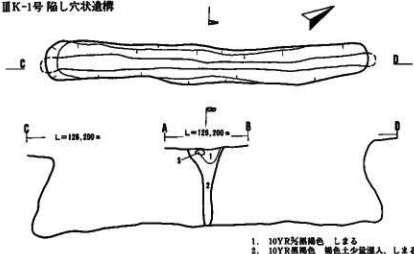
調査区東側のグリットⅢM06区とⅢM11区にまたがって位置する。検出面はⅢ層上面である。平面形は長軸方向を北東-南西にもつ細長い溝形である。断面形は短軸がU字状を呈し、長軸では北東は直立し、南西は僅かにオーバーハングする。規模は開口部径330×20cm、底部径325×15cm、深さは中心部で45cmである。底面はⅢ層下面で堅く平坦である。底部に副穴はない。埋土は黒褐色土の単層である。

出土遺物はない。

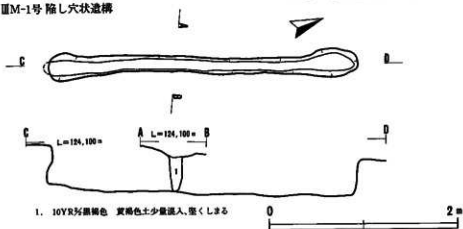
遺構の時期

規模や形態等の類例から推定して、縄文時代の遺構と考えられる。

ⅢK-1号 陥し穴状遺構



ⅢM-1号 陥し穴状遺構



第18図 陥し穴状遺構（10）

(3) 焼土遺構

II C-1号焼土遺構 (第19図、写真図版12)

調査区西側のグリット I C区と II C区にまたがって位置する。検出面は III層上面であり、西部から北東に続く斜面で発見された。比高は最大90cmである。焼土ブロック混じりの褐色土が最大で東西20m×南北7mの広範囲に、締まりなく不整に分布する。深さは最大10cmである。焼土ブロックが散見される範囲は、特に強く焼けていないことから流れ込みによるものと考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

II D-1号焼土遺構 (第19図、写真図版12)

調査区西側の北端、グリット II D区に位置する。検出面は III層上面であり、北東側緩斜面の下位で発見された。焼土ブロック混じりの黒褐色土が東西1.8m×南北4mの範囲に、締まりなく不整に広がる。北部は調査区外が延びる。深さは最大18cmである。焼土ブロックは、強く焼けていないことから投げ捨てられたものと考えられる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

II E-1号焼土遺構 (第19図、写真図版12)

調査区西側のグリット II D～II E区と III D～III E区にまたがって位置する。検出面は III層上面である。焼土ブロック・焼土粒混じりの暗褐色土～褐色土が最大で東西10.5m×南北25.5mの広範囲に不整に分布する。南部は調査区外に延びる。深さは最大で15cmである。焼土ブロックと焼土粒の広がる範囲は強く焼けていないことから、流れ込みによるものと考えられる。

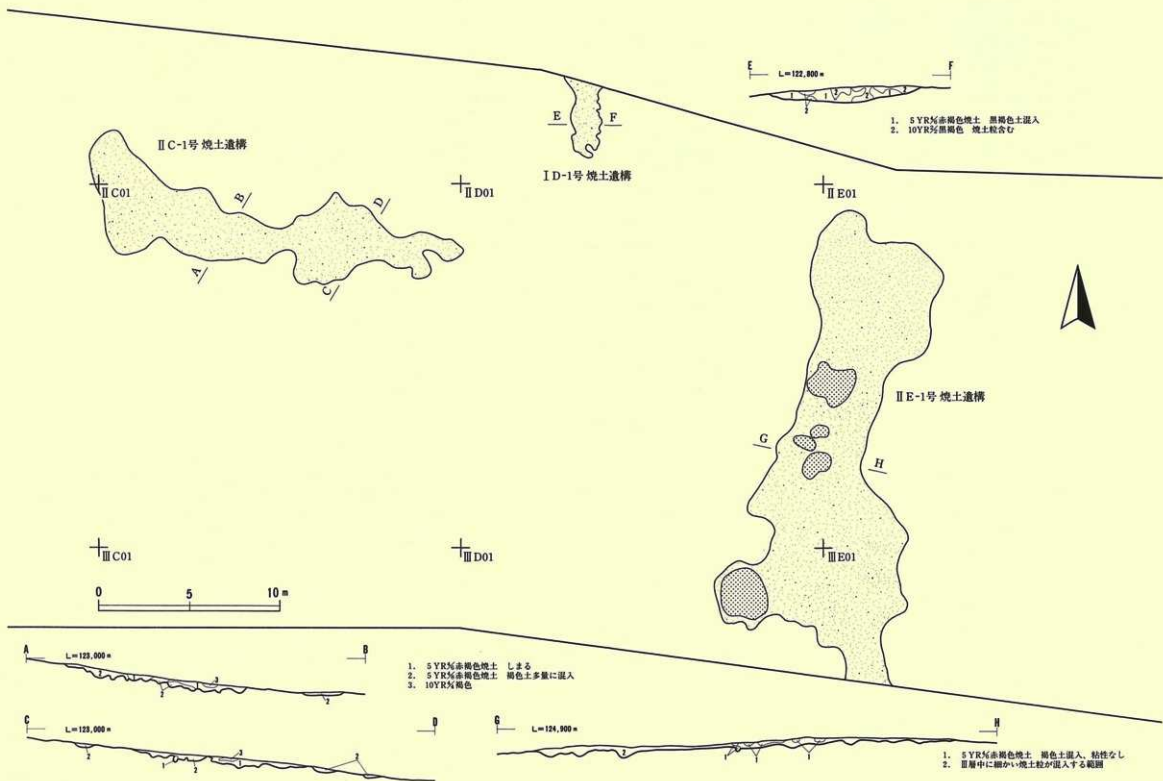
出土遺物はなく、時期は不明である。

(4) 溝 跡

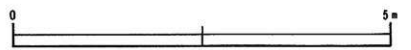
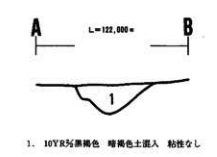
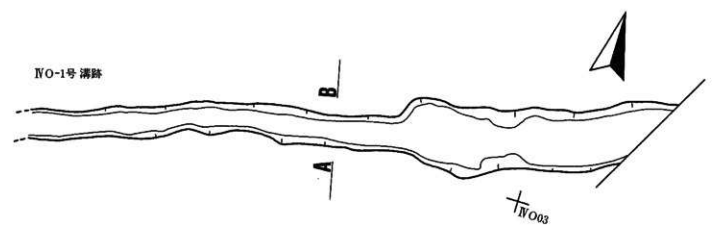
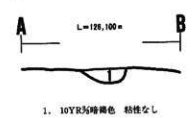
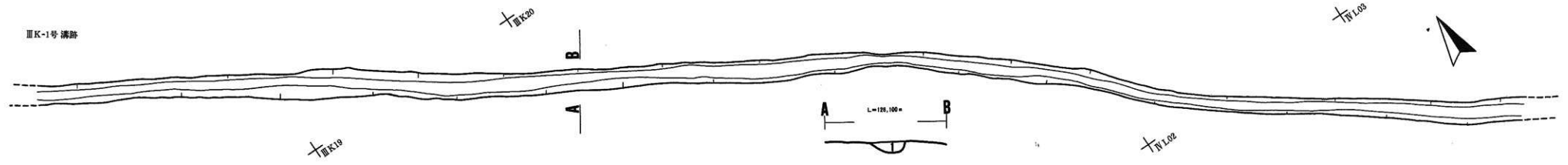
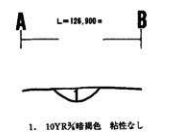
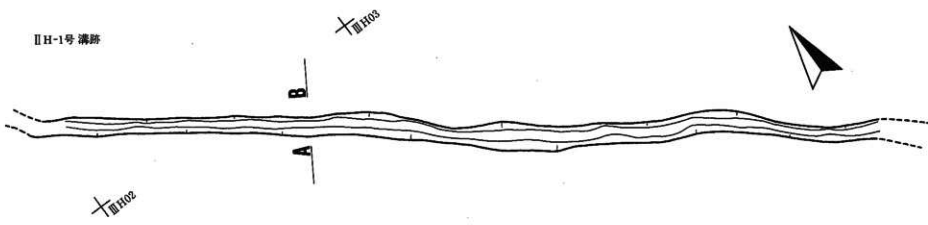
II H-1号溝跡 (第20図、写真図版12)

調査区中央の II H区と III H区にまたがって位置し、ほぼ北西-南東方向に真っ直ぐに走るものである。両端は消失している。規模は、長さ13m、幅17～35cm、深さ最大7cmである。横断面は緩いU字状を呈しており、埋土は暗褐色土の単層である。底面は平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。



第19図 焼土遺構



第20図 溝跡

ⅢK-1号溝跡 (第20図、写真図版12)

調査区東側のⅢK区とⅢL区にまたがって位置し、ほぼ北西-南東方向に真っ直ぐに走るものである。両端は消失している。規模は、長さ26cm、幅25~50cm、深さ最大18cmである。横断面は緩いU字状を呈しており、埋土は暗褐色土の単層である。底面は平坦である。

出土遺物はなく、時期は不明である。

ⅣO-1号溝跡 (第20図、写真図版12)

調査区東端のⅢO区とⅣO区にまたがって位置し、ほぼ西-東方向に真っ直ぐに走るものである。西端は消失しており、東端は調査区外に延びる。規模は、長さ8m、幅30~85cm、深さ最大18cmである。横断面は緩いU字状を呈しており、埋土は黒褐色土の単層である。東側の底面は木根による攪乱のため凸凹が見られる。

出土遺物はなく、時期は不明である。

2. 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・石器である。出土量は小コンテナで4箱と少ない。いずれも掘り中にI層下面~II層中からと、遺構検出時にIII層上面から出土したものである。

(1) 縄文時代の土器

出土した縄文土器は時期別にI・II群に分類し、従来の土器編年における形式に当てはめ、I群土器については1・2類、II群土器については1~3類の小区分を行った。この分類は遺構内出土遺物にも適用するものである。

【第I群土器】(第21図、写真図版14)

本群には縄文時代中期に属する土器を一括し、時期別に1・2類に細分した。

1類(1~10) 中期前葉に属すると思われる土器を本類とした。すべて深鉢形土器の破片である。1・2は頸部破片であり、2条の平行沈線と鋸歯状の沈線が描かれ、下端に刻目が縦位に連続して施された隆帯が巡る。3は口縁部片であり、先端部より粘度紐が垂下する。4・5は頸部~胴部上端の破片である。4は頸部に刻目が施された隆帯と沈線が巡り、その上部には刻目が斜位に連続して施される。頸部内面は三角形に張り出した段を有する。地文は両端を結節させた羽状縄文(結束第1種)を一定間隔を保ちながら縦方向に施文している。5は頸部に刻目が連続して施され、地文はRLを横方向に回転施文している。6は胴部片で、地文は結節したLRを縦方向に回転施文している。7~10は同一個体である。7は燻状把手の破片と考え

られる。8は口縁部片で表裏ともに肥厚し、9の口縁部直下～胴部上半にかけて段差が見られる。10の胴部上端には刻目が連続して配され、2本の隆帯が平行して胴中央部に向かって垂下する。地文はLRを横方向に回転施文している。

2類 (11・12) 中期中葉に属すると思われる土器を本類とした。11・12は胴部下半に膨らみをもつ深鉢形土器の同一個体である。口縁部は外反し、頸部には2条の平行沈線とその間に一部分に刺突文が施された隆帯が巡り、口縁部と胴部を区画する。口縁部は無文で胴部には3本一組の平行沈線が縦横に巡り、部位的に渦巻文が描かれる。地文はRLを縦方向に回転施文している。

【第II群土器】(第22～24図、写真図版14～16)

本群には縄文時代晩期に属する土器を一括し、時期別に1～3類に細分した。

1類 (13～16) 晩期前葉に属すると思われる土器を本類とした。13は4単位の山形口縁を有する台付鉢形土器である。山形部分に貫通孔を配し、口唇部には刻目が施される。口唇部内側と口縁部には1条の沈線が巡る。地文はLRを横方向に回転施文している。14は浅鉢形土器と思われる口縁部片でB突起が僅かに見られる。15～16は沈線が施された壺形土器と思われる胴部片であり、16の地文はLRを横方向に回転施文している。

2類 (17～23) 晩期中葉に属すると思われる土器を本類とした。17は口縁部～胴部上半が残存する深鉢形土器である。ほぼ直立する口縁部に5条の平行沈線が巡り、その上端部には刻目が施される。胴部は僅かに膨らみをもつ。口縁部内面に1条の沈線が巡り、地文は胴部上半はLR、下半はRLをそれぞれ横方向に回転施文している。18～23は3～5条の平行沈線が巡る深鉢形土器の口縁部片である。20～22は上端部が外反する。21～23は沈線間に刻目が施され、21・22の内面上端には1条の沈線が巡る。24は皿形土器の底部片と思われる。

3類 (25～38) 晩期後葉に属すると思われる土器を本類とした。25はほぼ完形に復元された浅鉢形土器で、短い口縁部が外反し胴部上端が「く」の字形に屈曲する。口唇部は2個一對の波状突起が8単位の配され、単位間に沈線が施される。口縁部直下の狭い文様帯には工字文が施文されている。口縁部内面には1条の沈線が巡る。地文はLRを横方向に回転施文している。26～31は口縁部がやや外反し、胴部上半に丸味をもつ器形の深鉢形土器である。26・27は口唇部が小波状を呈し、口縁部は無文となる。地文は共にLRで、26は上・下端は横方向、胴中央部は斜方向に、27は横方向に回転施文している。内外面には炭化物が付着している。28～30は無文の口縁部片である。28は頸部に1条の沈線が巡り、地文はLRを横方向に回転施文している。29の地文はRLを横方向に回転施文している。31は胴部上端の破片で、地文はRLを横方向に回転施文している。32～34は内湾する胴部から僅かに外反する波状突起を有する口縁部に続く深鉢形

土器の破片である。33は口縁部直下の狭い文様帯に変形工字文が施文され、口縁部内面に1条の沈線が巡る。地文はいずれもLRを横方向に回転施文している。35は浅鉢形土器、36は変形土器と思われる口縁部片とともに波状突起を有し、僅かに外反する。35の頸部及び口縁部内面には1条の沈線が巡る。37は外反する壺形土器の口縁部片であり、上端に変形工字文が施される。内面上端には1条の沈線が巡る。38は高環の底部片である。

(2) 弥生時代の土器 (第24図、写真図版16)

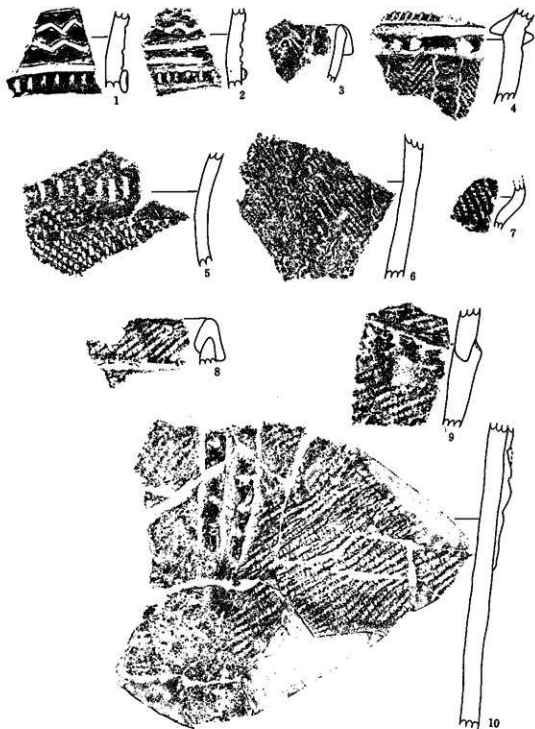
土器型式的には2～3形式に分類するのが一般的であるが、出土量が少なくすべて破片資料であることから、ここでは細分せず一括して記載する。

39～41は浅鉢形土器と思われる波状を呈する口縁部片である。39は波頂部・口唇部・口縁部内面上端及び下端に沈線が、41は波頂部・口縁部上端内外面及び下端内面に沈線が描かれ、ともに口縁部下端に工字文が施される。40は波頂部及び口縁部上端内外面に沈線が描かれる。42～46は壺形土器の破片である。42は胴部上端から「く」の字に外反する口縁部片であり、頸部及び口縁部内面上端に沈線が巡る。地文はLRを横方向に回転施文している。43は平行沈線が施された内湾する口縁部片である。44・45は胴部上端の破片である。44は頸部と思われる部分に沈線が巡る。45の地文はLR横方向に回転施文している。46は底部片であり、地文はLRを横方向に回転施文している。47は内湾する高環の口縁部片であり、工字文が施される。48は高環の胴部片であり、平行沈線が描かれる。49・50は変形土器の胴部上端の破片であり、ともに地文はLRを横方向に回転施文している。50の上端には僅かに沈線が見られる。

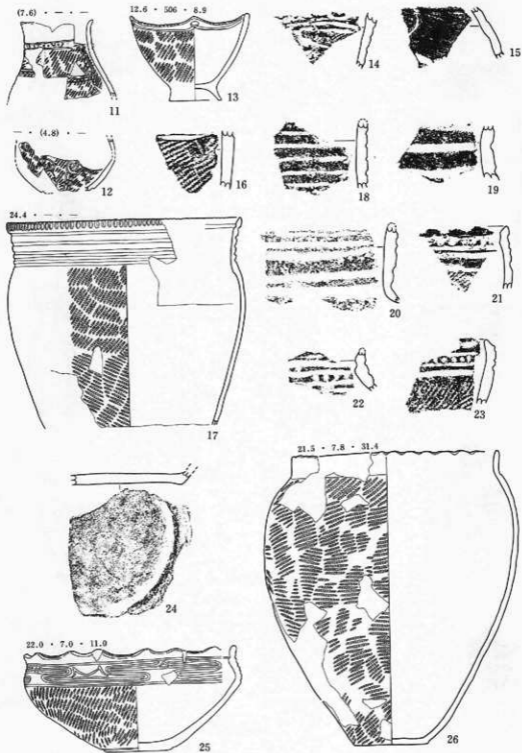
(3) 平安時代の土器 (第24図、写真図版16)

縄文土器の出土量に比較してごく少量であり、土師器4点の出土である。

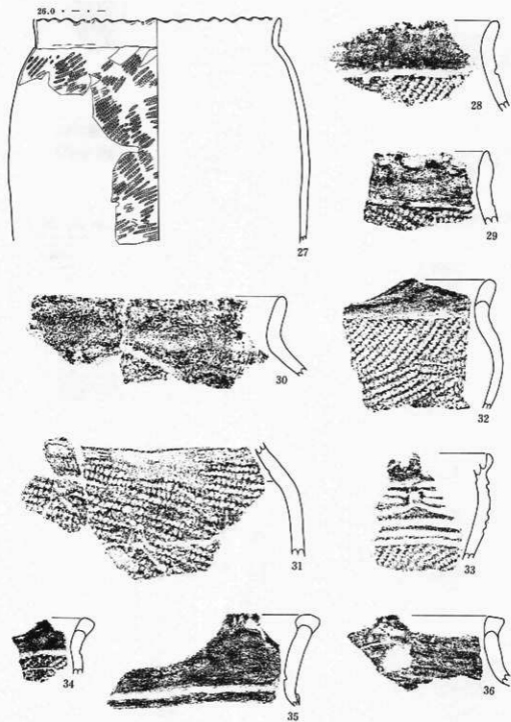
51・52はロクロ成形の環形土器である。51は高台が欠損しているもので、内面をヘラミガキ後、黒色処理されている。52は底部片で回転糸切り痕をもつ。53・54は同・個体で、ロクロ不使用の変形土器の口縁部片と胴部下端～底部の破片である。53は外面がヘラケズリ、内面はヘラナデで、54は外面がヘラケズリで調整されている。



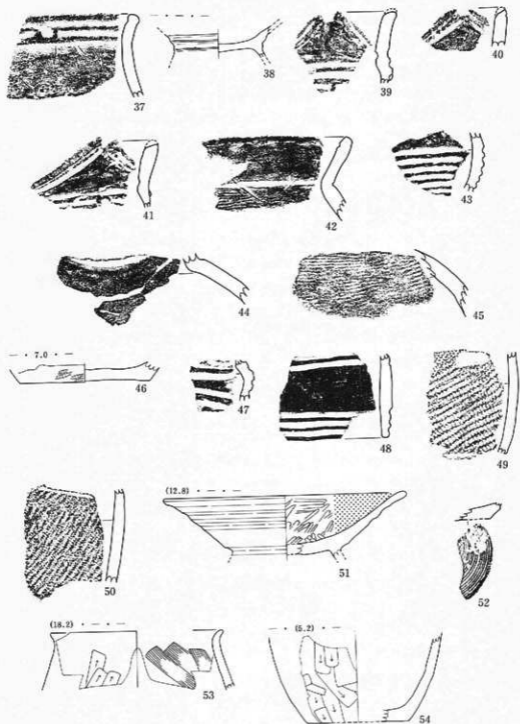
第21圖 遺構外出土遺物・土器 (1)



第22圖 遺構外出土遺物・土器 (2)



第23図 遺構外出土遺物・土器 (3)



第24圖 遺構外出土遺物・土器 (4)

(4) 石器 (第25～29図、写真図版17～20)

遺構外から出土した石器は、石匙、石筥、不定形石器などの剥片石器と、石斧、磨石、敲石、石錘などの礫石器である。

石匙

1の1点が出土した。剥片のバルブ部分に両面剥離でつまみを設け、1側縁に片面調整によって直状の刃部が形成され、他の側縁には両面調整により凸状の刃部が形成される。

石筥

2の1点が出土した。表裏両面から加工され、側縁部に微細な剥離を施し形を整えている。

不定形石器

定形石器に区分できなかつたもので、剥片の縁辺に調整加工が施され刃部が形成されるものや、微細な剥離痕が見られるものを一括した。22点の出土である。3は両側縁に片面調整によって直状の刃部が形成されている。4～8は1側縁に部分的に片面から微細な刃部加工が施されている。9～24は縁辺に刃こぼれ状の微細な剥離痕が見られるものである。

石斧

3点の出土である。25は打製石斧である。やや偏平な棒状を呈し、両面から粗雑な調整加工が施され、片面の一部に自然面が残る。火熱を受け炭化物が付着している。26・27は磨製石斧である。26は先端部分のみ残存する。ともに両面がよく研磨されている。

磨石

28・29の2点の出土である。楕円形の自然礫を素材として、その縁辺または平面を研磨に用いたものである。28は表裏両面と周縁に、29は片面に磨面をもつ。

敲石

30～33の4点の出土である。磨石と同様に自然礫を素材とし、縁辺に敲打痕が見られる。

石錘

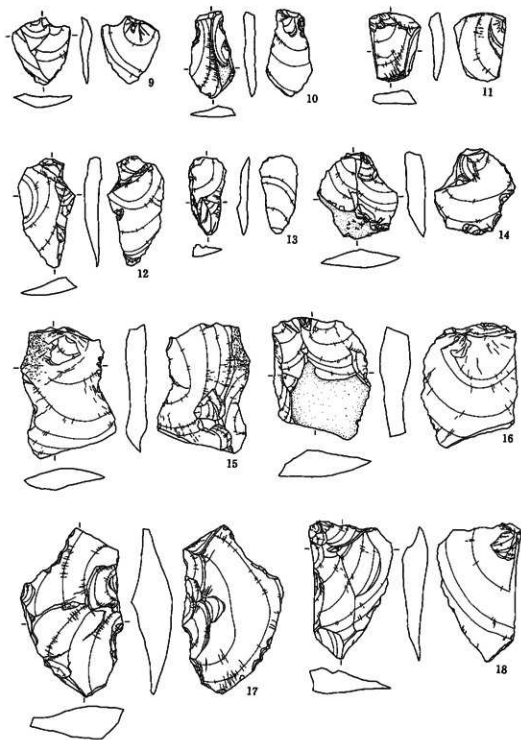
34の1点が出土した。平たく楕円形の自然礫を素材として、結縛用のくぼみを長軸の両端に施してある。

その他

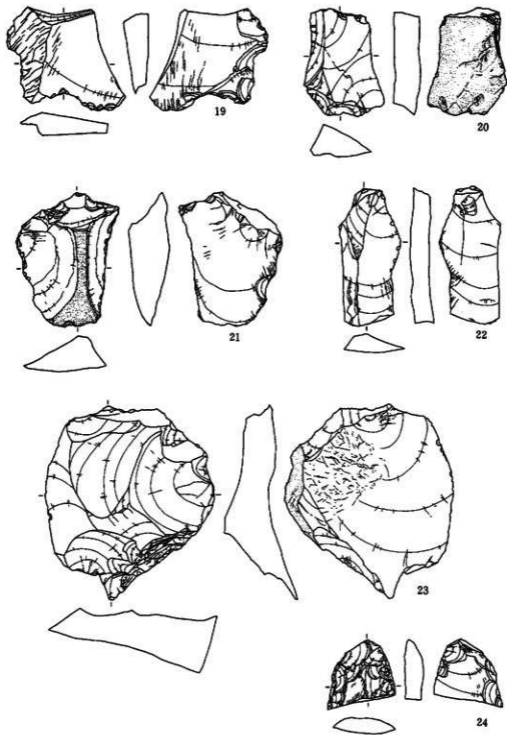
用途不明あるいは未成品の石器類であり、2点が出土している。35はツルツルした偏平の自然石で、両面に微細な搔痕が見られる。36は棒状の石に一部加工が加えられているもので作製途中のものと考えられる。



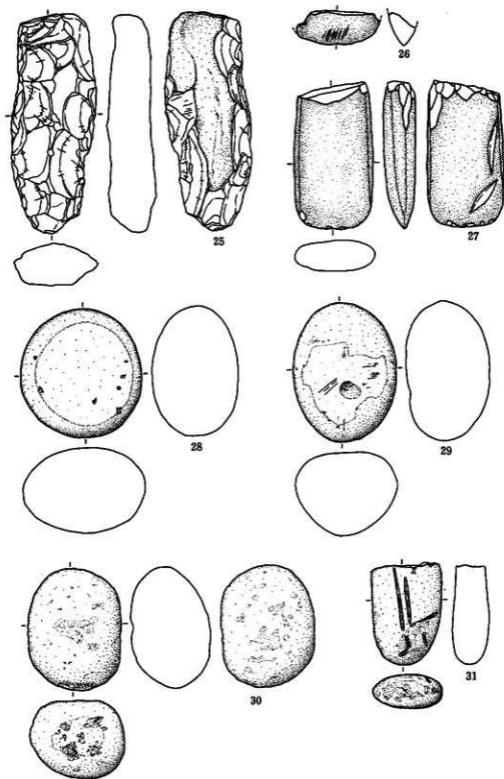
第25圖 遺構外出土遺物・石器 (1)



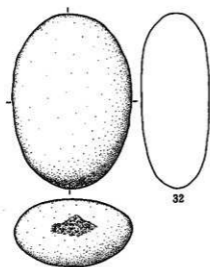
第26圖 遺構外出土遺物・石器(2)



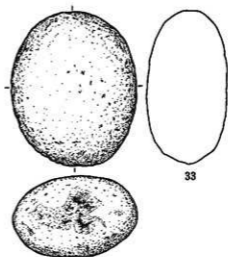
第27図 遺構外出土遺物・石器 (3)



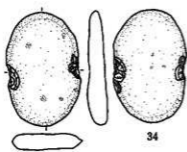
第28図 遺構外出土遺物・石器 (4)



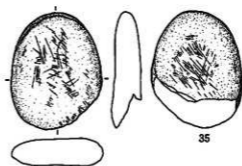
32



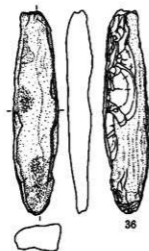
33



34



35



36

第29図 遺構外出土遺物・石器 (5)

3. ま と め

(1) 遺構

遺構については、検出数も少なく、時期や性格を決定する資料を欠くものが大半を占める。ここでは、土坑と陥し穴状遺構について、時期・性格を推定できる要因について若干述べて遺構のまとめとする。

土坑は調査区東側に4基、西側に1基検出された(第2表参照)。平面形はいずれも円形で、断面形はフラスコ形を呈するものが2基、ピーカー形・鉢形・浅皿形を呈するものがそれぞれ1基である。規模は底部径で1m未満が2基、1m以上が3基、深さは42~80cmで大型のものはない。分布や配列に規則性は見られない。

構築時期は、出土した土器から予想できるものがⅢJ-1号フラスコ形土坑の1基のみで、埋土下層から大濠C1~C2式に比定される土器が3点出土していることから、本土坑は縄文時代晩期後葉の遺構であると考えられる。他の土坑については、伴出遺物、他遺構との重複等所属年代を示す資料がなく決定づけることができないが、ⅢL-1号フラスコ形土坑については、上記ⅢJ-1号フラスコ形土坑と規模・形態が同様であることから同時期の遺構である可能性が高い。

フラスコ形土坑2基は、過去の類例から推定して貯蔵穴と考えられるが、他の3基についての性格は不明である。

陥し穴状遺構20基は、平面の形状によって円形5基、長方形9基、溝状6基の3形態に分けられる(第3表参照)。円形タイプ5基は調査区中央部に位置し、ほぼ南北に列をなして分布している。その他のものには分布や配列に規則性は認められず広範囲に点在する。規模は、円形タイプは底部径1m未満が3基、1m以上が2基、深さ115~135cmで、いずれも底部中央に副穴1個をもつ。断面形は鉢状ないしピーカー状を呈する。長方形タイプは底部の長軸直径100~150cmが4基、151~200cmが4基、201cm以上が1基である。深さは100cm未満が2基、101cm以上が7基で、底部に3~4個の副穴をもつものが3基ある。規模と副穴との間には特別の関連は認められない。断面形は概ね鉢状を呈する。溝状タイプは長さ310~400cm、深さは100cm未満が3基、100cm以上が3基である。断面形はV字状ないしU字状を呈する。

いずれの遺構も構築時期を決定し得る資料はないが、遺構周辺部から縄文時代中期から弥生時代の土器片が出土しており、時期の下限は弥生時代まで下がることも考えられる。また、長方形タイプと溝状タイプの重複が1例あり、溝状タイプ(ⅢH-2号)を長方形タイプ(ⅢH-1号)が切っていることから、他の陥し穴状遺構においても長方形タイプの溝状タイプよりも時期的に新しいという可能性が考えられる。

これらの陋し穴遺構は同時期のものではなく、長期に渡り比較的小規模の狩りが行われていたことが推測される。

(2) 遺物

全体的に出土遺物は少なく総量は小コンテナ4箱で、縄文時代中期・晩期と弥生時代までの各時期の土器片と土師器数点、それに少量の石器が出土している。遺構内からの出土はIIC-1号土坑とIIIJ-1号土坑の埋土からの縄文土器片5点と剥片2点のみである。これらのうちで、土器の大半を占める縄文土器と弥生土器を中心に若干記することとする。

縄文土器は、中期の土器(第I群)と晩期の土器(第II群)がある。中期の土器は初頭(1類)と中葉(2類)に細分される。1類土器は器形、鋸歯状の沈線文、三角形の刻目を配した隆帯、結節の見られる地文等から大木7aに比定される。2類土器は渦巻文を配した平行沈線文が縦横に展開するもので大木8b式に比定される。器種はいずれも深鉢である。晩期の土器は最も多く出土しており、器形、刻目や波状を呈する口縁部のモチーフ、沈線文や工字文等の施文方法から、大洞B・BC式に比定されると思われる土器を前葉(1類)、大洞C1・C2式を中葉(2類)、A・A'式を後葉(3類)に細分した。器種は甕・壺・浅鉢・深鉢・台付鉢・皿である。

弥生土器は、少量ですべて小破片であることから形式的に細分はしていないが、大半は器形、変形工字文のモチーフ、胎土等から弥生時代の最も古い時代に位置づけられているものと考えられる。器種は、壺・甕・浅鉢・高坏である。

<引用・参考文献>

- 岩手県和賀町(1977)『和賀町史』
金子裕之ほか(1981)『縄文土器大成4-晩期』
小田野哲彦 熊谷常正(1982)『岩手の土器』岩手県立博物館
丹羽 茂(1984)『縄文土器II 大木式土器』『縄文文化の研究4』
中村良一(1990)『岩崎城西遺跡発掘調査報告書』『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第148集』
鈴木貞行・中川重紀(1991)『月館跡・八幡館跡発掘調査報告書』『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第149集』

第2表 土坑一覽表

番号	遺跡名	平面形	断面形	規 模 (cm)				備 考
				開口部	頸 部	底 部	深 さ	
1	II C-1号	円形	鉢状	132×128		60×52	68	出土遺物1・2の土器、3・4の石器
2	II L-1号	円形	フラスコ形	90×88	80×78	130×122	72	
3	III J-1号	円形	フラスコ形	不明	不明	140	(80)	出土遺物5-7の土器
4	III J-2号	円形	ビーカー形	98×95		84×80	42	
5	III L-1号	円形	浅皿形	178×167		116×96	46	

第3表 陥し穴状遺構一覽表

番号	遺跡名	平面形	断 面 形 (短軸)	開口部周長(m)		底部周長(m)		深 さ (cm)	底 部 施 設	備 考
				長軸	短軸	長軸	短軸			
1	II G-1号	円形	鉢状	194	192	100	88	120	中央に陥穴1個	陥穴径32×27 深さ50cm
2	II G-2号	円形	鉢状	185	182	160	98	115	中央に陥穴1個	陥穴直径20 深さ40cm
3	II G-3号	円形	鉢状	185	174	120	100	115	中央に陥穴1個	陥穴径42×38 深さ80cm
4	II G-4号	円形	ビーカー状	120	110	66	64	130	中央に陥穴1個	陥穴直径12 深さ55cm
5	II F-1号	円形	ビーカー状	110	106	62	60	135	中央に陥穴1個	陥穴径15×12 深さ25cm
6	II F-1号	長方形	鉢状	185	80	125	40	60		
7	II F-2号	長方形	鉢状	240	160	185	45	130		
8	II H-1号	長方形	鉢状	280	175	258	68	155		
9	II I-1号	長方形	鉢状	210	195	115	40	110		
10	II J-1号	長方形	鉢状	200	100	180	40	110	陥穴4個	陥穴径16-3 深さ25-13cm
11	II L-1号	長方形	ビーカー状	175	125	130	98	90	陥穴3個	陥穴径35-22 深さ35-22cm
12	II F-2号	長方形	鉢状	200	150	132	64	150	陥穴3個	陥穴径15-12 深さ20-13cm
13	II H-1号	長方形	鉢状	245	195	155	50	160		II H-2号陥し穴状遺構を切る
14	IV N-1号	長方形	鉢状	245	145	182	60	100		
15	II B-1号	溝形	U字状	400	50	375	25	45		
16	II C-1号	溝状	V字状	310	80	270	35	125		
17	II B-1号	溝状	V字状	370	70	325	25	110		
18	II H-2号	溝状	V字状	405	70	375	25	120		II H-1号陥し穴状遺構に切られる。
19	II K-1号	溝状	V字状	340	35	355	15	80		
20	II M-1号	溝状	U字状	330	20	325	15	45		

第4表 土器観察表 (遺構内)

図版番号 写真図版	出土地点	器種	部位	文様の特徴	分類
1	II C-1号土坑埋土上層	深鉢	胴部~胴部上端	沈線文、L R	II群3類
2	" "	深鉢	胴部	無文	"
5	III J-1号土坑埋土下層	深鉢	口縁部~胴部上端	口縁部小尖縁、平行沈線文、割目、口縁部内面沈線文、L R	"
6	" "	"	口縁部	L R	"
7	" "	"	底部	L R	"

第5表 石器計測表 (遺構内)

図版番号 写真図版	出土地点	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	石質	産地	備考
3	II C-1号土坑埋土上層層	剃片	6.9	4.0	1.4	23	性質軟弱な珪 泥質凝灰岩	奥羽山地新第三系中新統	片面自然剥
4	" "	"	4.8	3.8	1.1	19	"	"	"

第6表 土器観察表 (遺構外)

図版番号 写真図版	出土地点	器種	部位	文様の特徴	分類
1	III D04~05区田層	深鉢	胴部	平行及び細曲状沈線文、割目のある隆帯	縄文I群1類
2	III K15・20区 "	"	"	"	"
3	III K09区 "	"	口縁部	粘土粒	"
4	I B18区1層	"	胴部~胴部上端	割目のある隆帯、沈線文、羽状縄文	"
5	IV M09区 "	"	"	割目、両端縮節R L	"
6	II C04区 "	"	胴部	縮節L R	"
7	III C03区1層	"	縮状把手?	L R	"
8	" "	"	口縁部	L R	"
9	" "	"	胴部~胴部上端	割目、L R	"
10	" "	"	胴部	隆帯、L R	"
11	III J12区田層	"	口縁部~胴部	平行沈線文、網文文、渦巻文	縄文I群2類
12	" "	"	底部	"	"
13	" "	台付鉢	兜形	山形口縁(貫通孔有)、口唇部割目、沈線文、L R	縄文I群1類
14	III K13区田層	浅鉢	口縁部	B突起	"
15	IV N区 ?	壺	胴部	沈線文	"
16	III J12区1層	"	"	"、L R	"
17	II G16区 "	深鉢	胴部~胴部上半	平行沈線文、割目、口縁部内面沈線文、上半L R、下半R L	縄文II群2類
18	II C16区田層	"	口縁部	平行沈線文	"
19	III J24区1層	"	"	"	"
20	II G16区 "	"	"	"	"
21	III J19区田層	"	"	"、割目、内面上端沈線文	"
22	III K20区1層	"	"	"	"
23	IV J区 "	"	"	"	"
24	III K21区 "	皿	底部	"	"
25	III J12区田層	浅鉢	兜形	口唇部波状突起と沈線文、I文字、口縁部内面沈線文、L R	縄文II群3類
26	" "	深鉢	1/2 残存	口唇部小波状、口縁部無文、L R	"
27	II B08区 "	"	口縁部~胴部上半	"	"
28	AトレンチII層	"	口縁部~胴部上端	沈線文、口縁部無文、L R	"
29	II B15区田層	"	"	口縁部無文、R L	"
30	II C21~22区II層	"	口縁部	無文	"
31	III C12区田層	"	胴部上端	R L	"
32	IV M09区 "	"	口縁部~胴部上端	口縁部波状突起、L R	"
33	III D09区II層	"	"	"、変形I文字、口縁部内面沈線文、L R	"
34	III D02区 "	"	"	"、L R	"
35	II B15区田層	浅鉢	口縁部	波状突起、胴部及び口縁部内面沈線文	"
36	II B06区1層	壺	"	"	"
37	II B18区 "	"	"	変形I文字、内面上端沈線文	"
38	III J24区 "	高坏	底部	碎欠損	"
39	II F02区 "	浅鉢	口縁部	波状、I文字、内外面沈線文	弥生
40	I D22区 "	"	"	"	"
41	II E17区田層	"	"	"	"

図版番号 写真掲載	出土地点	器種	部位	文 様 の 特 徴	分 類
42	ⅡA区Ⅰ層	壺	口縁部～胴部上端	頸部及び口縁部内面沈線文、L R	弥生
43	ⅡK20区Ⅰ層	＃	口縁部	平行沈線文	＃
44	ⅡM23区Ⅱ層	＃	胴部上端	沈線文	＃
45	ⅡA区Ⅰ層	＃	＃	L R	＃
46	ⅡC02区Ⅱ層	＃	底部	L R	＃
47	ⅡC03区Ⅱ層	高坏	口縁部	工字文	＃
48	ⅡC13区Ⅰ層	＃	胴部	平行沈線文	＃
49	ⅡF20区 Ⅱ	壺	胴部	L R	＃
50	ⅡD23区Ⅱ層	＃	＃	沈線文、L R	＃

N=ヘラナダ K=ヘラケズリ M=ヘラミガキ

図版番号	出土地点	器種	部位	外面調査		内面調査		口縁 成形	備 考
				口縁	胴部	口縁	胴部		
51	ⅡF16区Ⅱ層	土師製土器	口縁部～胴部	-	-	-	M	○	内黒 古欠損 回転未切り
52	ⅡE05区Ⅰ層	＃ 坏	底部	-	-	-	-	○	
53	ⅡB01区Ⅱ層	＃ 壺	口縁部～胴部上端	-	K	-	N	×	
54	＃ Ⅱ	＃	胴部下端～底部	-	K	-	-	×	

第7表 石器計測表 (遺構外)

図版番号 写真掲載	出土地点	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 質	産地・年代
1	ⅡF13区 Ⅱ層	石匙	5.4	2.1	0.6	8.7	泥質凝灰岩	美羽山地 新第三系中新統
2	ⅡB15区 Ⅱ	石筴	9.3	4.3	2.3	83.9	凝灰岩	＃
3	ⅡVN05区Ⅰ層	不定形石器	3.4	2.0	0.6	4.5	硬質泥岩	＃
4	ⅡH25区Ⅰ層	＃	4.7	6.5	1.7	49.3	＃	＃
5	ⅡD04区 Ⅱ	＃	6.5	3.4	1.2	19.4	ホルンフェルス	夏油川上流-仙人 古生界
6	ⅡD01区 Ⅱ層	＃	4.1	4.2	1.0	10.2	泥質凝灰岩	美羽山地 新第三系中新統
7	ⅡL05区 Ⅱ	＃	8.1	2.6	0.7	14.3	珪質細粒凝灰岩	＃
8	ⅡE05区Ⅰ層	＃	9.3	4.3	1.5	60.5	ホルンフェルス	夏油川上流-仙人 古生界
9	ⅡG06区 Ⅱ層	＃	3.5	3.0	0.6	3.6	泥質凝灰岩	美羽山地 新第三系中新統
10	ⅡL06区Ⅰ層	＃	4.5	2.4	0.6	6.0	＃	＃
11	ⅡF03区 Ⅱ	＃	3.6	2.7	0.7	7.5	＃	＃
12	ⅡVN区 Ⅱ層	＃	5.7	2.9	0.8	10.7	硬質泥岩	＃
13	ⅡC19区 Ⅱ	＃	4.1	2.0	0.6	3.8	泥質凝灰岩	＃
14	ⅡK04区 Ⅱ	＃	4.5	4.1	1.0	15.1	硬質泥岩	＃
15	ⅡB16区Ⅰ層	＃	6.7	4.7	1.0	37.4	泥質凝灰岩	＃
16	＃	＃	6.1	5.0	1.6	50.6	硬質泥岩	＃
17	ⅡF03区 Ⅱ層	＃	8.8	5.1	2.2	65.5	泥質凝灰岩	＃
18	ⅡF24区Ⅰ層	＃	7.0	3.3	1.3	34.4	＃	＃
19	ⅡK19区 Ⅱ	＃	5.3	5.1	1.3	36.9	硬質泥岩	＃
20	ⅡN13区 Ⅱ層	＃	5.6	3.9	1.5	33.8	泥質凝灰岩	＃
21	ⅡK19区Ⅰ層	＃	7.1	4.8	2.1	58.5	硬質泥岩	＃
22	ⅡB05区Ⅰ層	＃	7.1	3.1	1.0	27.0	＃	＃
23	ⅡB19区Ⅰ層	＃	10.3	8.9	2.7	265.0	泥質凝灰岩	＃
24	ⅡG06区 Ⅱ層	＃	3.3	3.6	1.0	12.7	＃	＃
25	ⅡB14区Ⅰ層	打製石斧	17.4	6.7	3.8	560.0	ホルンフェルス	夏油川上流-仙人 古生界
26	ⅡF10区 Ⅱ	磨製石斧	1.8	4.2	1.2	8.1	緑色凝灰岩	美羽山地 新第三系中新統
27	ⅡH18区 Ⅱ	＃	7.6	4.2	1.7	100.0	＃	＃
28	ⅡC24区 Ⅱ層	＃	10.3	9.7	6.8	1020.0	＃	＃
29	ⅡC19区 Ⅱ	＃	11.2	8.2	6.7	850.0	＃	＃
30	ⅡD24区 Ⅱ	＃	9.7	7.5	6.3	700.0	礫石安山岩	新崎野田-本郷 新第三系中新統
31	ⅡV10区 Ⅱ	＃	7.9	5.6	2.9	225.0	緑色凝灰岩	美羽山地 新第三系中新統
32	ⅡB24区 Ⅱ層	＃	14.0	9.5	5.2	1100.0	花崗閃緑岩	＃
33	ⅡD24区 Ⅱ層	＃	12.3	9.9	6.5	1160.0	＃	夏油川-仙人 中生界
34	ⅡD06区 Ⅱ	石錘	9.1	5.8	1.5	165.3	緑色凝灰岩	美羽山地 新第三系中新統
35	ⅡL23区Ⅰ層	不明	6.1	4.8	1.5	44.1	＃	＃
36	ⅡD09区 Ⅱ層	不明(成作途中)	16.3	3.6	2.2	195.0	ホルンフェルス	夏油川上流-仙人 古生界



写真図版1 法量野I・中屋敷遺跡遠景



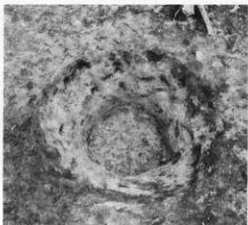
法量野 I 遺跡全景



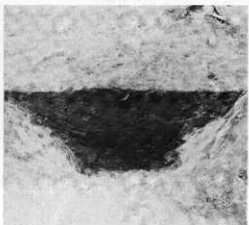
調査前風景



基本土層

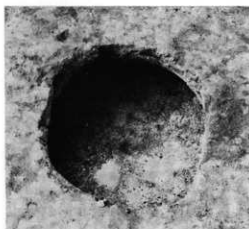


平面

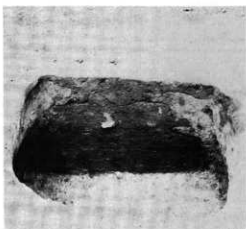


断面

II C-1号土坑
調査区全景他・土坑(1)



平面



断面

II L-1 号土坑

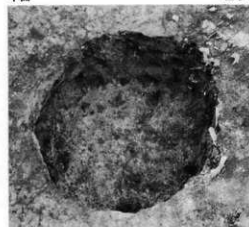


平面

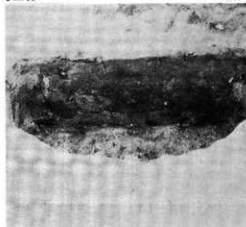


断面

III J-1 号土坑



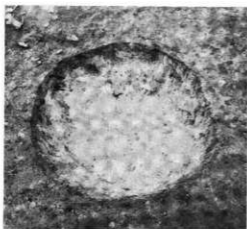
平面



断面

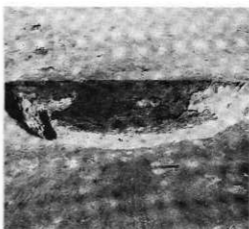
III J-2 号土坑

写真图版3 土坑(2)

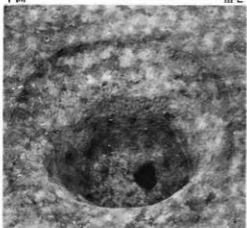


平面

III L-1 土坑

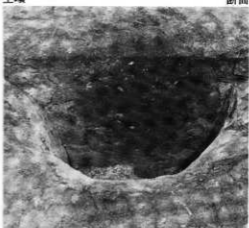


断面

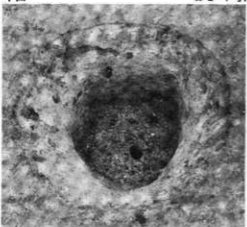


平面

II G-1号陥L穴状遺構

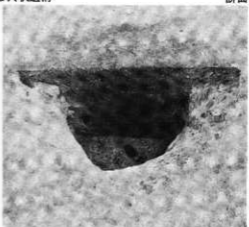


断面



平面

II G-2号陥L穴状遺構



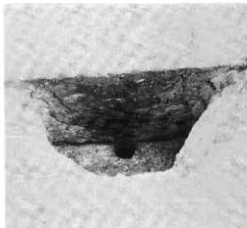
断面

写真図版4 土坑(3)・陥L穴状遺構(1)

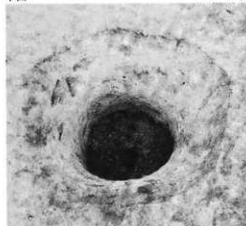


平面

II G-3号陥L穴状遺構



断面

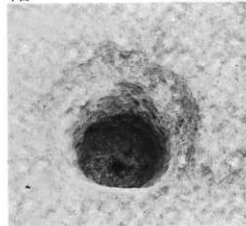


平面

II G-4号陥L穴状遺構

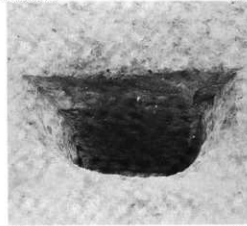


断面



平面

III F-1号陥L穴状遺構



断面

写真図版5 陥L穴状遺構(2)

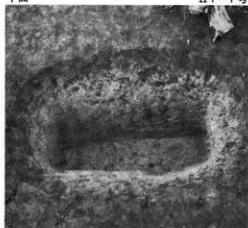


平面

II F-1号陥L穴状遺構

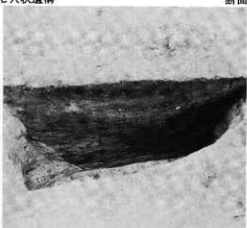


断面

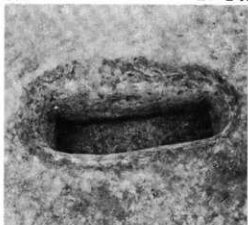


平面

II F-2号陥L穴状遺構



断面



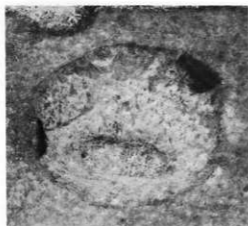
平面

II H-1号陥L穴状遺構



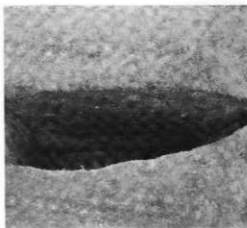
断面

写真図版6 陥L穴状遺構(3)

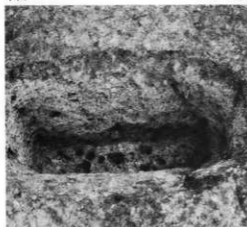


平面

II I-1号陥し穴状遺構



断面



平面

II J-1号陥し穴状遺構

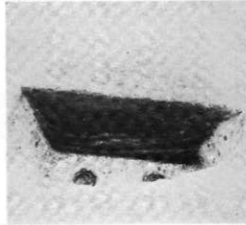


断面



平面

II L-1号陥し穴状遺構



断面

写真図版7 陥し穴状遺構(4)



平面

Ⅲ F-2号陥L穴状遺構



断面



平面

Ⅲ H-1号陥L穴状遺構



断面



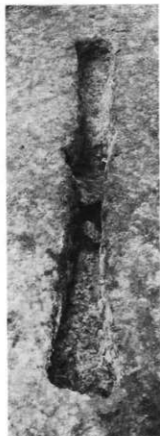
平面

Ⅳ N-1号陥L穴状遺構



断面

写真図版8 陥L穴状遺構(5)



平面



平面



平面



II B-1号陥し穴状遺構 断面



II C-1号陥し穴状遺構 断面

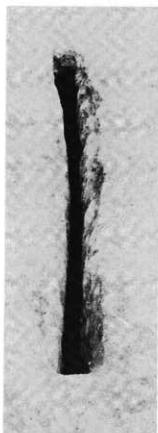


III B-1号陥し穴状遺構 断面

写真図版9 陥し穴状遺構(6)



平面



平面



平面



Ⅲ H-2号陥し穴状遺構 断面



Ⅲ K-1号陥し穴状遺構 断面



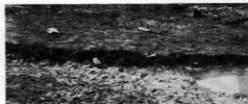
Ⅲ M-1号陥し穴状遺構 断面

写真図版10 陥し穴状遺構(7)

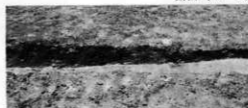


平面

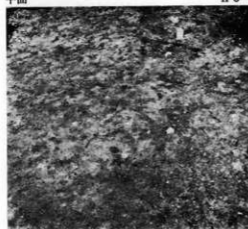
II C-1 号烧土



断面 (A-B)

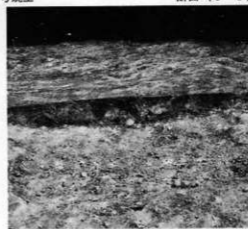


断面 (C-D)

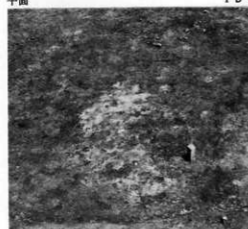


平面

I D-1 号烧土

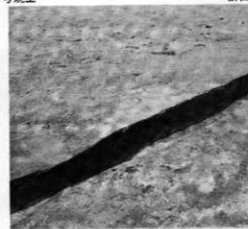


断面



平面

II E-1 号烧土

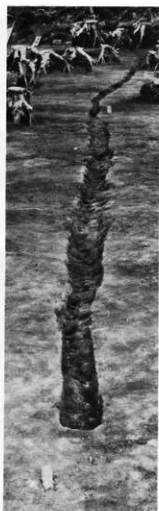


断面

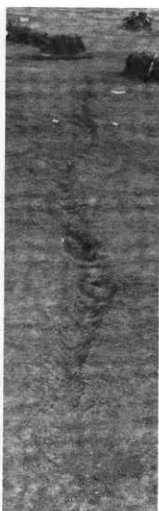
写真図版11 烧土遺構



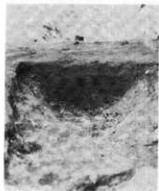
平面



平面



平面



II H-1号沟跡

断面



III K-1号沟跡

断面



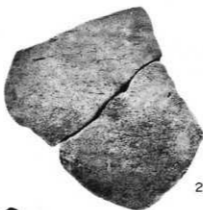
IV O-1号沟跡

断面

写真図版12 溝跡



1



2



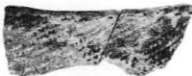
3



4



5

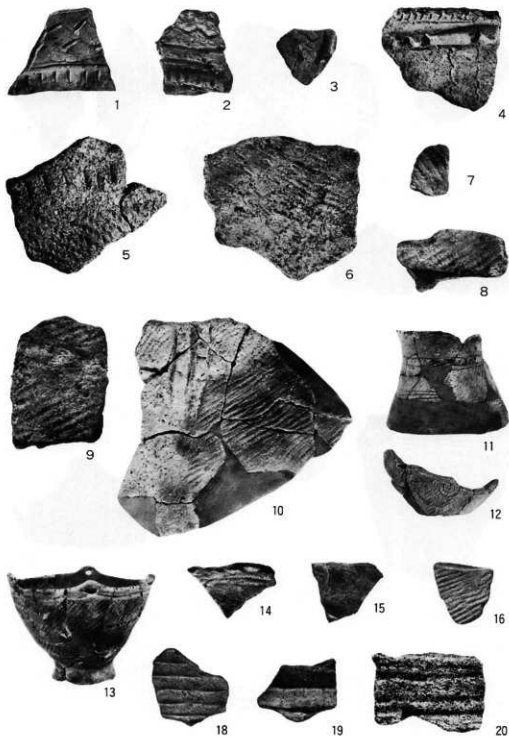


6

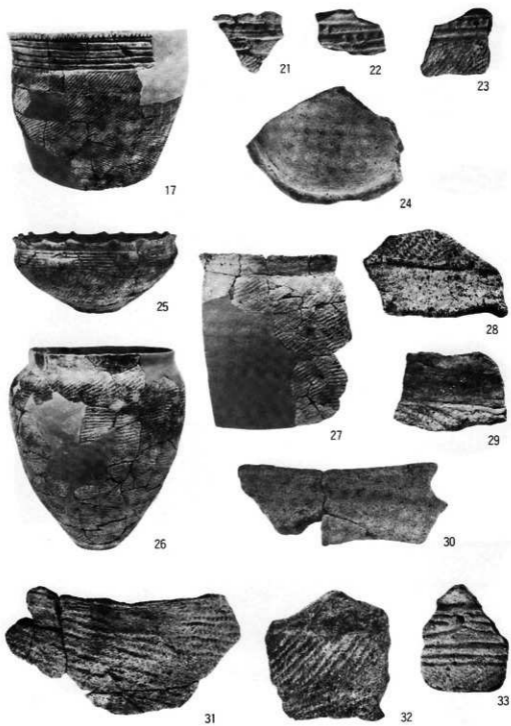


7

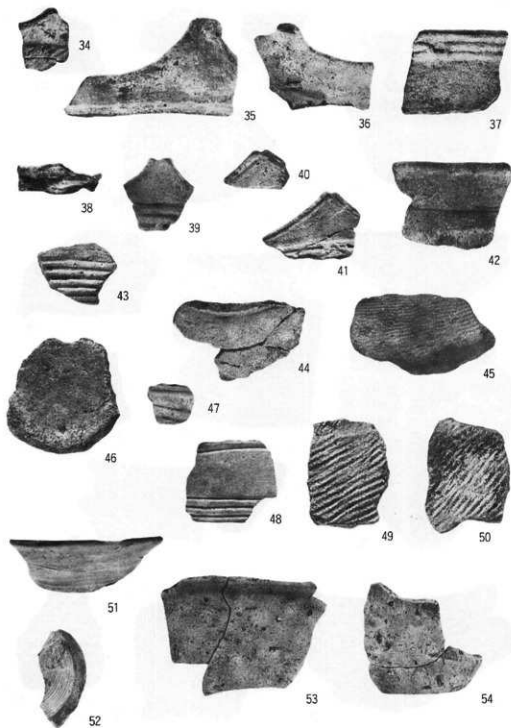
写真図版13 遺構内出土遺物



写真図版14 遺構外出土遺物 土器(1)



写真図版15 遺構外出土遺物 土器(2)



写真図版16 遺構外出土遺物 土器(3)



写真図版17 遺構外出土遺物 石器(1)



15

16



17



18



19



20

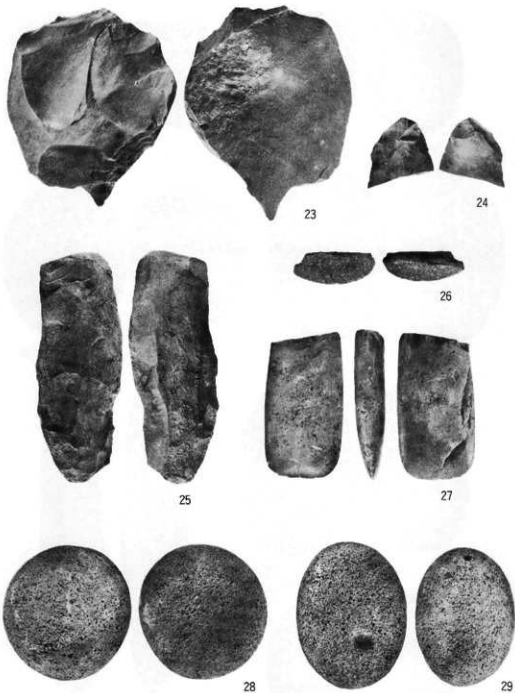


21



22

写真図版18 遺構外出土遺物 石器(2)



写真図版19 遺構外出土遺物 石器(3)



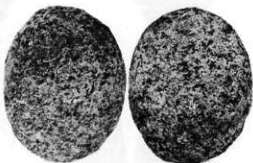
30



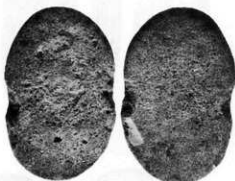
31



32



33



34



35



36

写真図版20 遺構外出土遺物 石器(4)

V. 中屋敷遺跡

所在地	北上市和賀町煤孫4地割59ほか
委託者	日本道路公団仙台建設局北上工事事務所
調査期間	平成3年6月1日～10月16日
調査対象面積	6,080㎡
遺跡番号	ME63-2301, NY-91
調査担当者	小田野哲憲・村上 修
協力機関	北上市教育委員会

1. 検出された遺構と遺物

検出された遺構は、フラスコ状ピット19基、土壌16基、陥穴状遺構5基、溝跡1条などである。遺構に伴う遺物は土器、石器類である。(遺構配置図第30図)

(1) フラスコ状ピット (以下フラスコピットと記す)

I A-1号フラスコピット (第31図、写真図版22、36)

遺構：調査区の最西端に位置しており、東側でI B-1号フラスコと接している。開口部は楕円形(146×122cm)で、底面は円形(120×120cm)、断面は筒形(深さ98cm)を呈する。埋土は6層に細分され、下層には焼土、炭化物が含まれる。壁際は地山崩落土で、他は自然堆積である。

遺物：埋土6層から土器片2点、上層からフレイク2点が出土。1は壺形土器の肩部で、2本単位の沈線が縦位と斜位にあり、器面は丁寧なミガキである。2は変あるいは深鉢の破片で原体RL。3、4はいずれも剥片。

時期：土器2点はいずれも最下層の、床面に近い位置で出土している。特に1の特徴は縄文土器には見られないもので、いわゆる遠賀川系土器の範疇に含まれる。この土器から判断すると、縄文時代最終末期から弥生時代初頭の時期が考えられる。

II A-1号フラスコピット (第31図、写真図版25)

遺構：I A-1フラスコと同様調査区の最西端にあり、同フラスコの3m南に位置している。開口部(110×109cm)、底面(92×88cm)とも円形で、断面は筒形(深さ80cm)である。埋土は6層に細分され、3、4層の地山ブロックの他は、焼土、炭化物を含む自然堆積層である。遺物は一切検出されなかった。

時期：無遺物で判断材料を欠くが、遺構の形態と位置からするとI A-1フラスコと同時期とも考えられる。

II A-2号フラスコピット (第32図、写真図版25、36)

遺構：前記2基のフラスコピットと同様、最西端にあり、II A-1フラスコの3m南に位置する。開口部円形(80×80cm)で、底面は隅丸形状(124×120cm)に拡がり、断面はフラスコ状(深さ103cm)である。埋土は6層に分類されるが、最下層は土器と共に人為的に埋められているようである。ほかの層は自然堆積のように観察されるが、断定はできない。

遺物：最下層の6層から多数の土器と剥片石器1点、開口部から自然礫1点が出土した。埋

土上層からも数片の土器が出土しているが、細片のため割愛した。図示した土器はいずれも6層の出土で1は図のPo1の2点が接合したもの、2は壁際からで口縁部を欠くか略完形で、3が口縁部となる可能性がある。1～3は波状口縁の甕、4、6は浅鉢、5、8は小型鉢で原体はLRとRLの両者で、精製土器は太い沈線で施文されている。9は石鉢状の形で一部に再調整痕もあるが、石器として機能した痕跡は認められない。10は開口部で出土した礫で、石器とは認められないが、他の遺構の検出面あるいは開口部でも出土しており、何らかの関連のある礫として捉えた。

時期：縄文時代最終末期～弥生時代初頭に属する。

IB-1号フラスコピット (第33図、写真図版22、38)

遺構：IBグリットの南西に位置し、西側には一回り小さいIB-5フラスコがある。開口部(116×92cm)、底面(122×116cm)ともほぼ円形で、断面はフラスコ状(深さ114cm)を呈する。埋土は4層に分類されるが、3、4層は人為的な埋戻しで炭化物、浮石を含む。底面に長径40cmの自然角礫がある。

遺物：3点とも1層の出土で、土器は深鉢の破片、石器は薄い剥片である。

時期：土器は縄文時期晩期の粗製深鉢と思われるが、上層の出土であり、断定はできない。

IB-2号フラスコピット (第34図、写真図版22)

遺構：IBグリットの南西隅に位置し、IB-1土坑と重複しているが、この土坑を截ってつくられている。開口部は円形(116cm)と推定され、底面も円形(142×140cm)である。断面はフラスコ状(深さ115cm)を呈する。埋土は土坑も含めて8層に分類される。1層の投げ込みを除いた他は自然堆積である。

遺物：7～8層にかけて土器2片が出土した。いずれも粗製の深鉢あるいは甕の胴部で地文はRLヨコ回転である。

時期：縄文時代最終末期～弥生時代初頭に属する。

IB-3号フラスコピット (第35図、写真図版23、38)

遺構：IBグリットの北側にあり、調査区の最も北に位置する遺構である。3m南西にIB-6フラスコがある。開口部円形(151×143cm)であるが、周縁は崩落している可能性が高い。底面も円形(94×93cm)である。断面は不正形フラスコ状(深さ110cm)を呈しているが、これは壁土の崩落によるものである。埋土は7層に分類されるが、西側の層は崩落土で、4層は人為的堆積である。

遺物：いずれも埋土上層1～3層の出土である。4、5は縄文時代晩期前半の精製の、6は同時期の小型の鉢である。7は剥片、8は側面に使用痕のある擦石。

時期：遺物は何れも埋土上層の出土で、時期決定の直接的な資料とはなり得ず不明。

IB-4号フラスコビット (第35・36図、写真図版23、37)

遺構：IBグリットの南西に位置し、東側にIB-5、南側にIB-2フラスコが接している。開口部は隅丸方形(158×157cm)であるが、検出面の段階で上部がかなり削平されている。底面は円形(180×174cm)で、断面は三角フラスコ状(深さ90cm)である。埋土は9層に分類される。9層は多量の炭化物、8層は地山のブロック、7・6層は炭化物と浮石含む人為的な層で、他は自然堆積で削平された状況を示している。当遺跡では最大規模に属する。

遺物：検出面から底面まで出土している石器が多く、土器は少ない。1は無文、研磨された浅鉢、2、3は深鉢の胴部片で、6～7層の出土である。石器は底面の中央で6、7の擦石が、西の壁際で9の礫が出土している。4、5は自然面を残す剥片。10は開口部中央部にあった自然石である。遺構図は底面の擦石とこの礫を重ねて示してある。

時期：土器から判断すると他のビット同様、縄文時代最終末期～弥生時代初頭に位置づけられよう。

IB-5号フラスコビット (第42図、写真図版23、40)

遺構：IBグリットの西側IB-1、IB-4フラスコの間に位置する小型のプランである。開口部(118×112cm)、底面(105×100cm)とも円形で、断面は筒形(深さ82cm)を呈するが、上部は幾分削平を受けている。埋土は6層に分類され、5層は地山のブロックで投げ込みの状況を示している。

遺物：1層から太い沈線文の壺肩部片が出土。器面は研磨されており、変形工字文と推定される。これ1点のみの出土である。

時期：上層からの出土であるが、土器の特徴は弥生時代初頭を示している。

IB-6号フラスコビット (第34図、写真図版24、38)

遺構：IBグリット中央西側に位置し、北にIB-3、南にIB-4フラスコが3mある。開口部隅丸方形(140×118cm)、底面は円形(145×135cm)である。断面は不正形のフラスコ状(深さ92cm)で、上部は若干削平されている。埋土は8層に分類され、上層は攪乱層、自然堆積層であるが、8層は礫を含む人為的なものである。

遺物：甕もしくは深鉢の胴部片1点のみ8層上面で出土した。原体LRヨコ、ナナメ回転。

時期：土器の原体は弥生時代初頭の特徴を示している。

IB-7号フラスコビット (第37図、写真図版24、38)

遺構：IBグリット南西隅に位置し、周辺を敷基のフラスコビット、土壌が囲んでいる。開口部(150×146cm)、底面(110×109cm)とも円形で、断面は上部がやや開く筒形(深さ95cm)である。埋土は7層に分類されるが、上部は削平されている。土層の傾きは西から東への自然堆積の状況を示しているように思われる。

遺物：最下層6層から1、2の土器が出土。2の変形土器は、接合する破片が近接する(I B-16区)包含層からも出土した。3、4は無文の壺と浅鉢の破片で、前者は研磨されているが後者はナデである。原体はLRとRL。土器のみで石器は検出されなかった。

時期：4点の土器とも弥生時代初頭の特徴を示している。

II B-1号フラスコビット (第40図、写真図版26、40)

遺構：II Bグリット北西隅に位置し、東側にII B-2フラスコが接している。開口部は崩落して不正形(114×115cm)で、底面は円形(118×110cm)、断面はフラスコ状(深さ110cm)を呈する。埋土は4層に分類されるが、上層部分は削平されている。最下層4層は人為的な埋戻しである。

遺物：底面直上から1が出土。波状口縁の変あるいは深鉢の口縁部で、口唇部小さく鋭く外反し、頸部はナデ整形である。2は1層出土の剥片。

時期：底面出土の土器は、縄文時代晩期最終末期もしくは弥生時代初頭の特徴を有している。

II B-2号フラスコビット (第38・39図、写真図版26、39)

遺構：II B-1フラスコと東西接して位置している。開口部は円形(153×142cm)で、底面は隅丸形状(124×118cm)、断面は筒状(深さ94cm)を呈する。埋土は11層に分類され、人為的に埋戻した状況を示している。

遺物：当遺跡の中で最も多く遺物が出土した遺構である。7の完形土器を除いた他の遺物は埋土中層から上層の出土である。7の完形品は底面から10cm浮いた西の壁際で、横位の状況で検出された。出土状況からは安置されたのか、放棄されたのか不明である。土器の中は無遺物である。口唇部に縄文が巡り、頸部は無文、RL原体は肩部と底部付近横走、体部は斜行している。9を除いた他の土器も同様の器種、器形である。9は原体の撚りが密な磨消縄文を有する小型鉢で、器面に赤色顔料が認められる。図示した以外にも甕の破片出土しているが、割愛した。石器はいずれも不正形の剥片石器で、縁辺に二次調整を加えている例もある。

時期：土器の器形、文様は弥生時代初頭の特徴を示している。

II B-3号フラスコビット（第40図、写真図版27）

遺構：II Bグリットのほぼ中央に位置し、南1 mにII B-6 フラスコがある。開口部隅丸形状（167×156cm）で、底面も同形（168×160cm）で、断面はフラスコ状（深さ146cm）を呈する。埋土は10層に分類されるが、検出面の層位が上位であったため良好な土層を観察することができた。自然堆積の状況を示しており、9層に礫が含まれていたのみで人工遺物は検出されなかった。当遺跡のフラスコビットとしては最大規模である。

時期：遺物が無く不明であるが、周辺にある遺構とそれほどの時期差は無いものと推定される。

II B-4号フラスコビット（第41図、写真図版27、40）

遺構：II Bグリットの南側、当遺跡の遺構集中区の最南に位置するフラスコビットである。開口部円形（131×122cm）、底面不正の円形（150×142cm）で、断面はフラスコ形（深さ88cm）を呈する。検出面不明瞭であったため、上部は若干削平されている。埋土は5層に分類されるが、3層は人為的な埋戻しである。

遺物：出土した4点とも埋土1層からの検出で、流れ込みと考えられる。1は深鉢の口縁部で原体は捺糸文で、胎土に繊維を含む。2、3は同一個体と思われ、原体は同じく捺糸文と思われ同様の土器は遺構外の包含層から多く出土している。石器は自然面を残す剥片。

時期：埋土1層の土器は縄文時代早期あるいは前期の特徴を示しているが、流れ込みと考えたい。ほかのフラスコビットと同時期とするのが妥当であろう。

II B-5号フラスコビット（第42・43図、写真図版27、28、41）

遺構：II Bグリット西端に近い位置にあり、東側にはII B-3、6 フラスコが近接している。開口部隅丸形状（158×147cm）で、底面も同様（122×105cm）である。断面は筒形よりはバケツ状（深さ67cm）でフラスコビットよりは土壇の形状に近いが、両側に地山の崩落土がありかつ上部削平されているのでフラスコビットとして扱った。埋土は8層に分類されるが、最下層を除いて人為的に埋戻している。

遺物：崩落土を除く各層から出土しているが、2の高坏は8層上面の検出で横位の状況で出土した。口縁部のみを欠いている。脚部は3本の平行沈線で、坏部変形工字文となるか平行沈線文となるかは不明。3は器表面剥落した鉢。石器は9点出土したが、4～6、9が底面で、他は上、中層の検出である。剥片石器のうち7は片面の2辺に刃部あり、4には微細な二次加

工がある。9は底面出土の自然礫、10～12は擦石でそれぞれ両面と側面に使用痕がある。

時期：高坏は弥生時代初頭の特徴を示している。

II B-6号フラスコピット (第41図、写真図版28、40)

遺構：II Bグリット中央やや西寄りに位置し、北側1 mにはII B-3 フラスコがある。開口部(107×103cm)、底面(120×112cm)とも円形で、断面はフラスコ状(深さ70cm)で規模としては小型の部類に属する。埋土は5層に分類され、自然堆積の状況を示している。

遺物：礫の側面の一部を使用した擦石と、自然礫の2点が1～2層中から検出された。

時期：不明であるが、他の遺構と同時期と推定される。

II B-7号フラスコピット (第44図、写真図版28、42)

遺構：II Bグリットの西端に位置し、II A-2 フラスコと東西に接してある。開口部(113×110cm)、底面(127×117cm)とも隅丸形状で、断面はフラスコ状(深さ102cm)を呈する。埋土は6層に分類され、自然堆積の状況を示している。開口部検出面の西壁際に長径30cmの自然礫が出土している。

遺物：崩落土を除く各層から出土している。底面出土の土器は1、4の2点で前者は口縁部浅い平行沈線の小型鉢、後者は壺の調下半部である。2、3の研磨された無文の壺は埋土中・上層からの出土。石器はすべて剥片石器で、6はピエス・エスキュー、ほかは剥片。

時期：土器は弥生時代初頭の特徴を有している。

I C-1号フラスコピット (第45図、写真図版24)

遺構：これまで記述したフラスコピット群から東へ約20 m離れたI Cグリットのはほぼ中央で検出された。開口部楕円形状(106×95cm)で、底面は不正円形(120×115cm)、断面はフラスコ状(深さ62cm)を呈する。埋土は4層に分類され、人為的な埋戻しと推定される。遺物は全く出土しなかった。

時期：不明である。形状、規模からするとII A-2、II B-6 フラスコに類似している。

III D-1号フラスコピット (第51図、写真図版29)

遺構：III C、III Dグリット、調査区の最も南に位置する箇所ので陥穴、土壇、フラスコピットと推定される遺構が重複して検出された。フラスコピットとして検出できたのは底面と壁の一部のみである。底面はほぼ円形で142×120cmを計る。遺物は皆無である。重複する遺構の新旧関係については、土壇の項で触れる。

時期：精査の段階で埋土の状況を観察できなかったため、不明である。

(2) 土 壌

検出された16基のうち8基はIA～IIBグリット内に集中しており、他の6基はC, D, Eグリット内に散在している。

I B-1号土壌 (第34図、写真図版29)

遺構：I Bグリット南西隅にありI B-6フラスコと重複しているが、当土壌のほうが古い。推定規模は径90cm、深さは45cm前後である。埋土は自然堆積で、無遺物である。

時期：I B-6フラスコピットよりは古い時期に構築されているので、弥生時代初頭と同時期あるいはそれ以前に位置づけられる。

II B-1号土壌 (第45図、写真図版29)

遺構：II Bグリット北西、I Bグリットにかかって検出された。開口部(100×82cm)、底面(78×65cm)とも卵形で、断面は筒形(深さ52cm)を呈する。埋土は自然堆積であるが、3層は木根による擾乱。遺物の出土は無く、時期は不明である。

II B-2号土壌 (第45図、写真図版30)

遺構：II Bグリット中央北側に検出。3 m西にII B-1土壌が位置している。開口部(106×91cm)、底面(76×63cm)とも卵形で、断面は筒形(深さ37cm)を呈する。埋土は4層に細分され、自然堆積。遺物の出土は無く、時期は不明である。

II B-3号土壌 (第46図、写真図版30、42)

遺構：II Bグリット中央西寄りに位置し、2 m北東にII B-4土壌がある。開口部は不正円形(122×107cm)、底面は隅丸方形状(67×58cm)で、断面は鉢形(深さ50cm)を呈する。埋土は5層に細分されるが、自然堆積の状況を示している。

遺物：埋土上層から1が、中・下層から2、3の土器片が出土した。1は晩期中葉大洞BC式で、2、3は晩期最終末期あるいは弥生時代初頭の甕の口縁部と体部片である。

時期：遺物の層位的な出土状況は、縄文時代末期～弥生時代初頭を示している。

II B-4号土壌 (第46図、写真図版30、42)

遺構：II Bグリット北寄りにII B-5土壌と接して検出された。開口部(83×80cm)、底面(71×

67cm)とも円形で、断面は鉢形(深さ30cm)を呈する。埋土は4層に細分されるが、人為的な埋戻しである。

遺物:4の楕円形の片面に凹みが、先端部に敲痕のある石器が1点出土した。平面図に示してある石は自然礫である。時期を特定できるような遺物は無い。

II B-5号土壌(第46図、写真図版31)

遺構:開口部(88×70cm)、底面(70×60cm)とも楕円形、断面は浅鉢形(深さ18cm)を呈する。埋土は5層に細分されるが、人為的な埋戻しである。土壌内からの遺物はないが、開口部周辺に2点の自然礫が検出されているが、遺構との関連は不明である。時期についても同様である。

II B-6号土壌(第47図、写真図版31)

遺構:II Bグリット東寄りにあり、A・Bグリット内に集中する土壌群の最も東に位置する。開口部(112×79cm)、底面(68×52cm)とも楕円形で、断面は鉢形状(深さ36cm)を呈する。埋土は5層に細分され、自然堆積の状況を示している。無遺物で、時期を特定できる資料に欠ける。

II B-7号土壌(第47図、写真図版31)

遺構:II Bグリット南西にあり、この土壌群の最も南側に位置している。開口部(103×100cm)、底面(82×80cm)とも円形で、断面は浅鉢状(深さ30cm)を呈する。埋土は4層に細分されるが、自然堆積である。

遺物:埋土2層中から自然面を残す剥片1点が出土、他に遺物は無く時期は不明である。

II C-1号土壌(第47図、写真図版32、41)

遺構:II Bグリットほぼ中央で検出された。開口部は隅丸方形形状(118×108cm)であるが、西側の壁が崩落し、いびつな形状となっている。底面も隅丸方形形状(97×70cm)で、断面は皿状(深さ20cm)を呈する。埋土は炭化物を含む暗褐色の単層である。

遺物:底面および地山に喰い込んで2個の自然礫が検出された。2点とも一部が欠けており擦痕や加熱痕は認められない。他に遺物は無く、時期は不明である。

III C-1号土壌(第47図、写真図版33)

遺構:III Cグリット西側で単独で検出された。開口部隅丸方形形状(138×110cm)で、底面(95×

78cm)も同様であるが、断面は摺鉢状(深さ58cm)の不規則な掘り方で、底面に木根跡2個ある。埋土は5層に細分される自然堆積である。

遺物：上層から、側縁の二箇所に調整を加えた剥片石器1点のみ出土した。時期は不明である。

II E-1、3～5号土壌(第48図、写真図版32、33)

遺構：IID, IIEグリットにかけて重複する4基の土壌を検出した。1～3号は断面図および壁が判然としているが4、5号は不規則で、遺構ではない可能性もある。検出面は不規則で、本来の遺構面は失われている。4基とも埋土は他の土壌とは異なる状況であり、攪乱等の作用が働いたとも考えられる。遺物は一切無く、性格、時期とも不明である。

II E-2号土壌(第50図、写真図版33)

遺構：調査区で最も東に位置する土壌で、IIE-1陥穴と重複しており、この陥穴に載られている。開口部(119×107cm)、底面(102×74cm)とも卵形で、断面は筒形(深さ45cm)を呈する。埋土は4層に細分される自然体積で、一部に攪乱がある。遺物は無く、時期も不明であるが陥穴よりは古い時期である。

III D-1号土壌(第51図、写真図版34)

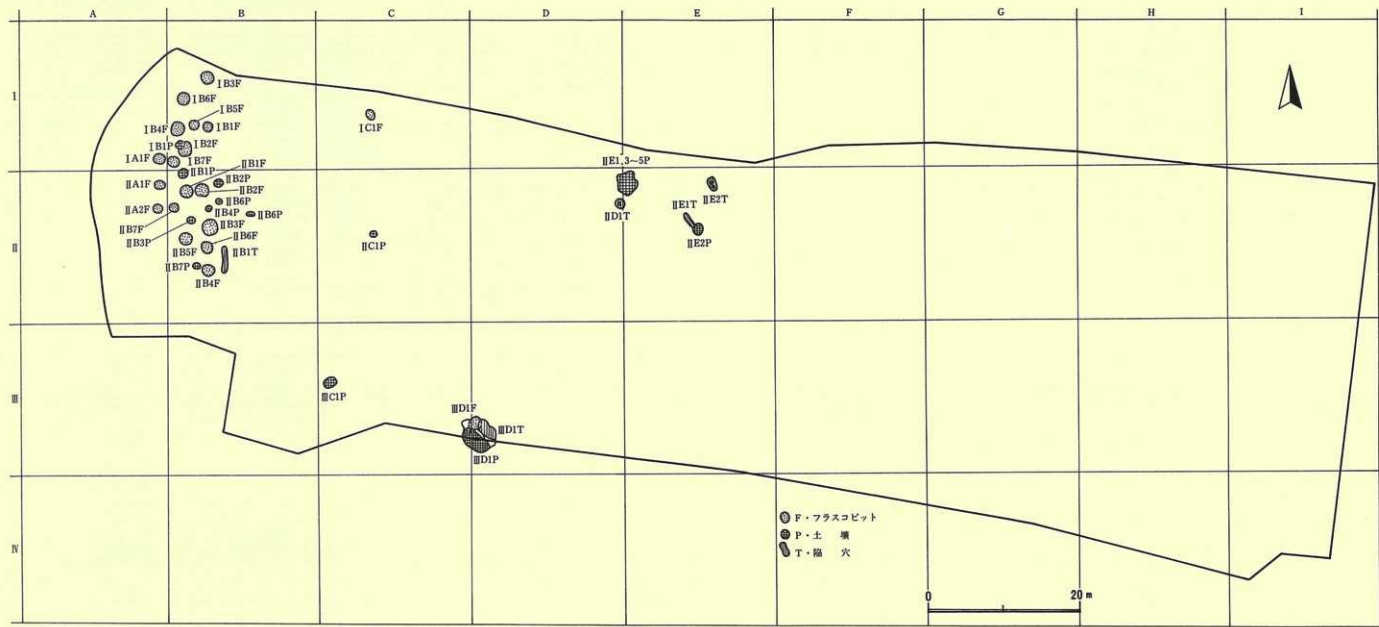
遺構：検出面が不規則で広いため、当初は攪乱と捉え掘り下げたが、途中で遺構らしき埋土が検出されフラスコビットと陥穴を確認した。フラスコビットを載っているビットを土壌として扱ったが、埋土の状況は新しく遺構とは成り得なかった。

(3) 陥 穴

5基検出されたが、円形1基、長方形1基、長楕円形1基、溝状2基に分類される。分布は一定しておらず西側のフラスコビット、土壌集中地区に1基、南側に1基、東側に3基と分散しており、それぞれの関連性を見出すのは困難である。調査区の端に位置していることからすれば、それぞれ調査区外に展開していることが考えられる。

II D-1号陥穴(第49図、写真図版34)

円形プランでIIEグリットの重複する土壌の南に位置している。開口部(126×124cm)は円形であるが、底面は楕円形(100×87cm)に近く、中央に深さ40cmの副穴がある。埋土は14層に細分されるが、下層は自然堆積の状況を示している。底面に数個の礫があるのみで遺物は無く、



第30図 中屋敷遺跡遺構配置図

時期は不明である。

II E - 2号陥穴 (第49図、写真図版35)

不正な長方形プランで、調査区最東端に位置する遺構である。開口部(155×90cm)、底面(116×58cm)とも同形で、深さ50、40cmの副穴2個が長軸に並ぶ。埋土は表土を含めて8層に細分される自然堆積で、底面に地山の礫が露出している。遺物は無く時期は不明である。

II E - 1号陥穴 (第50図、写真図版35)

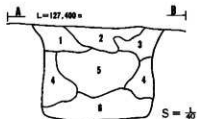
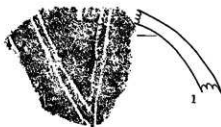
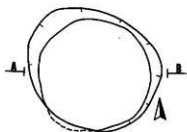
II E - 2号陥穴の西南5mの地点で検出されたが、プランは長楕円形でやや異なる。重複している土壌を載っている。開口部(204×67cm)、底面(168×38cm)とも良く原形を保っており、深さは83cm、副穴は検出されなかった。遺物は無く時期は不明であるが、重複する土壌よりは新しい。

II B - 1号陥穴 (第50図、写真図版34)

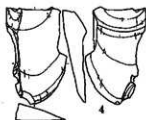
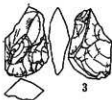
フラスコビット、土壌の集中する調査区西側の南端に1基のみ検出された。開口部(310×58cm)、底面(331×10cm)とも溝状のプランで、深さは92cm、埋土は5層に細分される自然堆積である。遺物はなく時期は不明。

III D - 1号陥穴 (第51、写真図版35)

III D グリットのフラスコビット、攪乱墳と重複して検出された。底面(165×35cm)の数値からすると長方形あるいは長楕円形のプランが想定される。遺物は無く時期は不明であるが、当該陥穴はIII D - 1 フラスコビットよりは古く位置付けられる。



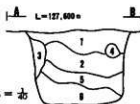
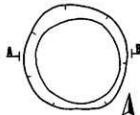
[IA-1]



1. 7.5YR7褐色 粘性あり
2. 7.5YR7褐色 炭化物少量含む 固くしまる 粘性のあるフロック
3. 7.5YR7褐色 炭化物少量含む
4. 7.5YR7明褐色 炭化物少量含む、粘性あり
5. 7.5YR7褐色 炭化物多量に含む、浮石少量含む、焼土粒ごく少量
6. 7.5YR7暗褐色 炭化物少量含む 固くしまる

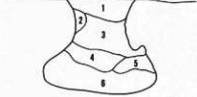
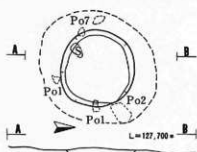
No.	番号	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	材質	産地	備考
3	破片	IA-1号フラスコ・壺上層	3.6	2.2	1.1	7.3	硬質硬岩	群馬県伊勢崎県平石町新田三番中野田	
4	"	IA-1号フラスコ・壺上層	4.9	2.8	1.1	16.5	硬質硬岩	群馬県伊勢崎県平石町新田三番中野田	

[IIA-1]



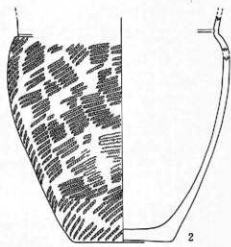
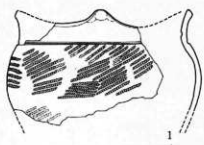
1. 7.5YR7褐色 炭化物少量含む
2. 7.5YR7におい褐色 炭化物少量含む 土にしまりなし
3. 7.5YR7明褐色 焼土あり
4. 7.5YR7明褐色 焼土フロック
5. 7.5YR7褐色より炭化物やや多く含む 浮石少量まじる
6. 7.5YR7褐色 焼土炭化物少量含む

第31図 IA-1, IIA-1号 フラスコビット・遺物

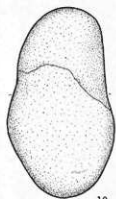
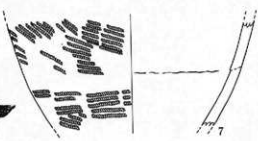


S = 1/20

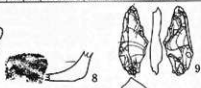
1. 7.5 YR褐色 炭化物粒、浮石粒少量含む
2. 7.5 YR%明褐色 壁の層状土
3. 7.5 YR%褐色 ややもろい
4. 7.5 YR%にふい、褐色 炭化物粒微量含む
5. 7.5 YR%明褐色 壁層に浮石粒少量含む
6. 7.5 YR%褐色 しまり、粘性有り、人為的



0 10 cm



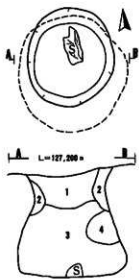
No	品名	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	材質	産地	備考
9	銅片	IIA-2号フラスコ-埋土下層	3.7	1.5	0.7	3.0	硬質泥岩	川尻2区-寺石西邸-第2中分敷	
10	壺	IIA-2号フラスコ-埋土層	20.3	11.4	7.8	2500g	陶器(石室山前)	本館-古崎新田-新築三式館前	



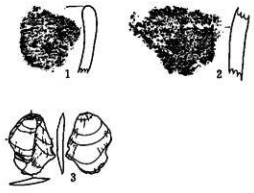
0 5 cm

0 10 cm

第32図 IIA-2号 フラスコビット・遺物

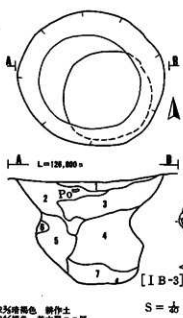


[IB-1]
S = ㊦

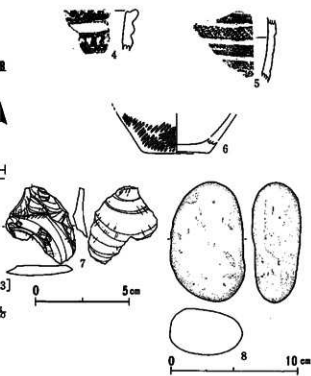


1. 7.5YR黄褐色 炭化物 浮石少量混り
2. 10YR黄褐色 地山ブロック混り
3. 10YR黄褐色 細い炭化物、浮石混り 人為的処理
4. 7.5YR褐色 地山ブロック・炭化物微量

No.	器 種	出土区・層位	高さ	幅	厚さ	重量	材質	産 地	備 考
5	銅片	IB-1号フラスコ層上層	5.2	2.4	0.3	2.0	銅製	川口川-号石巻地 新第三中世製	
7	〃	IB-3号フラスコ層上層	5.4	3.4	0.5	5.6	硬質泥岩	川口川-号石巻地 新第三中世製	
8	磨石	IB-3号フラスコ層上層	9.5	6.9	3.6	106.4	角閃石英山石	本館-台地新田 新第三中世製	

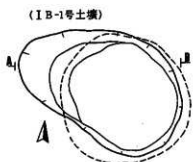


[IB-3]
S = ㊦



1. 7.5YR黄褐色 耕作土
2. 7.5YR黄褐色 基本層 = 原
3. 7.5YR黄褐色 炭化物微量
4. 7.5YR黄褐色 地山粒子ブロック状混り 人為的産物
5. 7.5YR黄褐色 地山鉄塊
6. 7.5YR黄褐色 ブロック土
7. 7.5YR黄褐色 地山粒子 浮石混り 炭化物無し

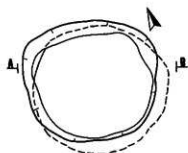
第33図 IB-1, IB-3号 フラスコビット・遺物



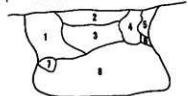
L=127,500



[IB-2] S=木



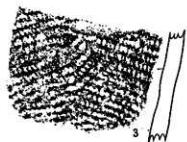
L=129,500



[IB-6] S=木



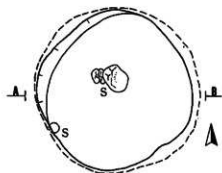
1. 7.5YR⁶明褐色 投げすて
2. 7.5YR⁶暗褐色 投底
3. 7.5YR⁶明褐色 地山ブロック張り (IB-1号土壌埋土)
4. 7.5YR⁶暗褐色 細かい炭化物、黄褐色火山灰
5. 7.5YR⁶褐色 地山ブロック及び炭化物張り
6. 7.5YR⁶にふい褐色 粗過ぎ
7. 7.5YR⁶暗褐色 黄褐色浮石、炭化物張り
8. 7.5YR⁶褐色 地山ブロック張り、浮石少量



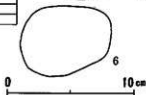
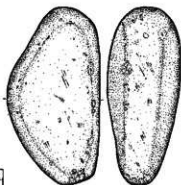
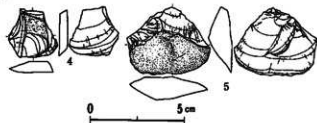
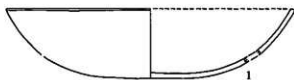
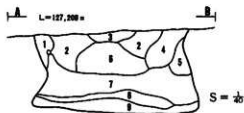
0 5cm

1. 7.5YR⁶明褐色 投乱土西側に新しい投底有り
2. 7.5YR⁶褐色 炭化物地土混濁
3. 7.5YR⁶にふい褐色 浮石張り細い炭化物散在
4. 7.5YR⁶褐色 地山粒子細い炭化物張り
5. 7.5YR⁶暗褐色 地山張りすぎ
6. 7.5YR⁶明褐色 地山ブロック
7. 7.5YR⁶明褐色 地山ブロック
8. 7.5YR⁶暗褐色 こぶし大の塊、大粒の浮石
地山粒子、炭化物張り

第34図 IB-2, IB-6号 フラスコビット・遺物, IB-1号 土壌

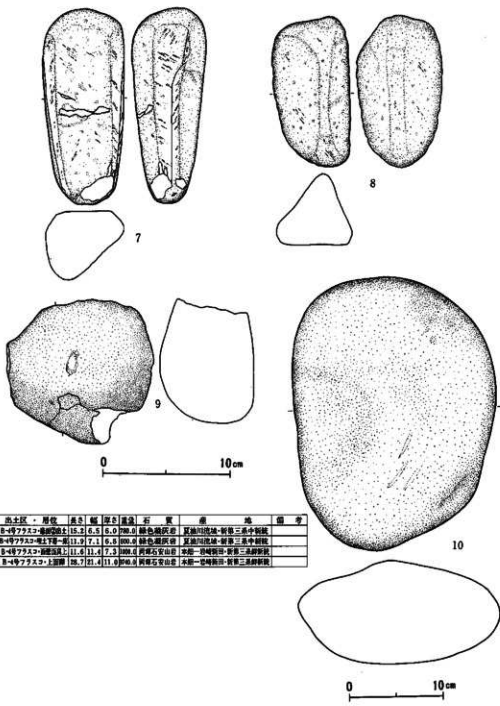


1. 7.5YR7明褐色 地山ブロック
2. 7.5YR7褐色 地山粒子、細かい炭化物、焼土粒少量含む
3. 7.5YR7暗褐色 炭化物多量含む
4. 7.5YR7暗褐色 炭化物及び浮石少量混り
5. 7.5YR7褐色 地山の粘土ブロック
6. 7.5YR7褐色 径1.5cm前後の浮石多量
細かい炭化物多量を含む 抜け込み状のブロック
7. 7.5YR7によい褐色 炭化物及び浮石少量混る
8. 7.5YR7褐色 地山ブロック混り 人為的
9. 7.5YR7暗褐色 地山粒子 細かい炭化物多量を含む



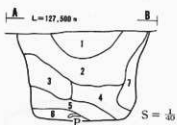
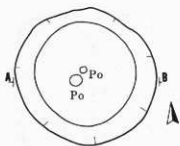
No.	形物	出土区・層位	長さ	幅	高さ	重量	材質	産地	備考
4	鉢片	1B-4号フラスコ・焼土中層	2.6	2.4	0.9	3.9	粘板岩	和歌山県人吉郡川上町岡合生寺	
5	"	1B-4号フラスコ・焼土中層	3.6	4.4	1.3	10.3	炭質板岩	和歌山県人吉郡川上町岡合生寺	
6	浮石	1B-4号フラスコ・焼土中層	14.9	7.4	9.5	220.0	褐色硬頁岩	和歌山県和歌山市三本中野	

第35図 IB-4号フラスコビット・遺物 (i)

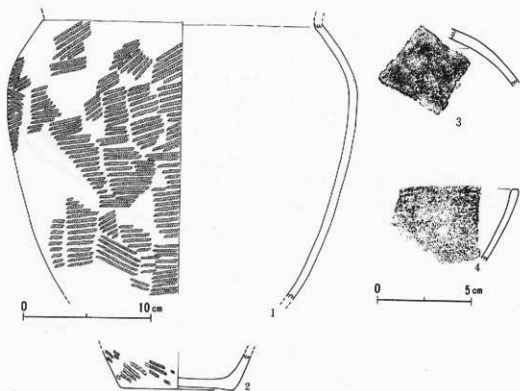


No.	品名	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	備考
7	燧石	IB-4号フラスコ-最下部土	15.2	6.5	6.0	700.0	緑色燧灰岩	夏油川流域-新巻三系中層統	
8	"	IB-4号フラスコ-最下部土	11.9	7.1	6.8	800.0	緑色燧灰岩	夏油川流域-新巻三系中層統	
9	燧	IB-4号フラスコ-最下部土	11.6	11.4	7.3	2000.0	青黒石炭山岩	本館-岩崎製石-新巻三系中層統	
10	"	IB-4号フラスコ-1層土	28.7	21.4	11.9	8000.0	黒色石炭山岩	本館-岩崎製石-新巻三系中層統	

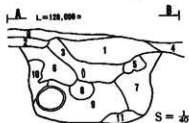
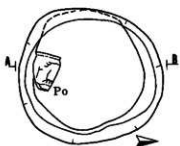
第36図 IB-4号フラスコピット遺物(2)



1. 7.5YR 5 暗褐色 基本層 ■ 層に同じ
2. 7.5YR 6 暗色 浮石 灰化物少量含む
3. 7.5YR 6 暗色 地山粒子混り、浮石微量
4. 7.5YR 6 暗色 層より浮石や多く含む
5. 5YR 6 に近い暗色 地山粒子混り
6. 5YR 6 に近い暗色 灰化物や多めに含む
7. 5YR 6 暗褐色 地山混りの壁の崩れ

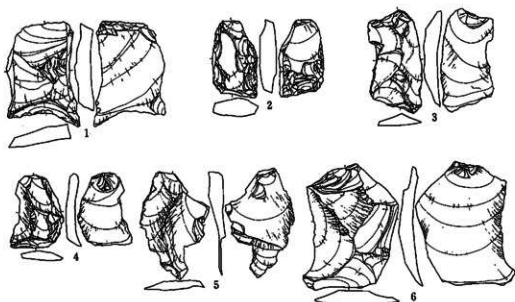


第37図 IB-7号 フラスコビット・遺物



1. 7.5YR4暗褐色 炭化物少量 炭土混り
2. 7.5YR4褐色 基本層序2層
3. 7.5YR4暗褐色 炭化物少量 浮石混り
4. 7.5YR4褐色 地山ブロック混り
5. 10YR4褐色 地山ブロック
6. 7.5YR4暗褐色 炭土と地山粒子混り炭化物少量
7. 7.5YR4暗褐色 炭土と地山粒子混り炭化物少量
8. 7.5YR4褐色 炭化物微量
9. 7.5YR4褐色 炭化物多量
10. 7.5YR4暗褐色 地山ブロック混り
11. 7.5YR4暗褐色 炭化物微量 7層とほぼ同じ

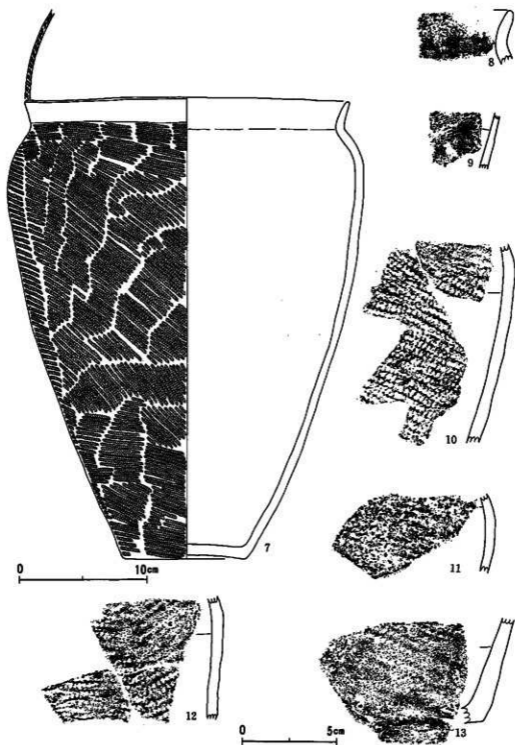
人為的痕跡



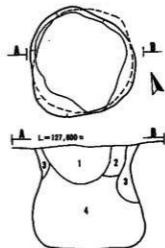
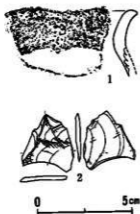
No.	種類	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	材質	産地	備考
1	不定形石片	ⅡB-2号フラスコ-埋土上層	5.2	3.7	0.9	21.0	燧石片	地山-赤山麓-赤土三馬中野段	
2	"	ⅡB-2号フラスコ-埋土上層	4.0	3.4	0.9	11.5	燧石片	赤土-赤山麓-赤土三馬中野段	
3	"	ⅡB-2号フラスコ-埋土上層	3.5	3.8	0.7	9.3	燧石片	河原口-浮石混り-赤土三馬中野段	
4	"	ⅡB-2号フラスコ-埋土上層	3.9	2.9	0.5	5.5	燧石片	河原口-浮石混り-赤土三馬中野段	
5	断片	ⅡB-2号フラスコ-埋土上層	3.4	3.4	0.7	10.7	燧石片	河原口-浮石混り-赤土三馬中野段	
6	"	ⅡB-2号フラスコ-埋土上層	4.6	4.8	0.7	24.5	燧石片	河原口-浮石混り-赤土三馬中野段	

0 5cm

第38図 ⅡB-2号フラスコビット・遺物(1)



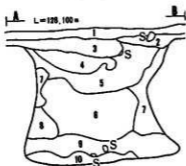
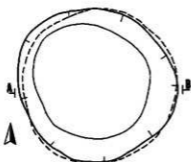
第39図 II B-2号フラスコビット遺物 (2)



(II B-1) S = ㊦

No	形	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	備考
2		II B-1号フラスコ・破片土層	2.5	1.7	0.2	2.0	炭質礫灰岩	鳥取県石見郡大田町平石東地・新田三平前院	

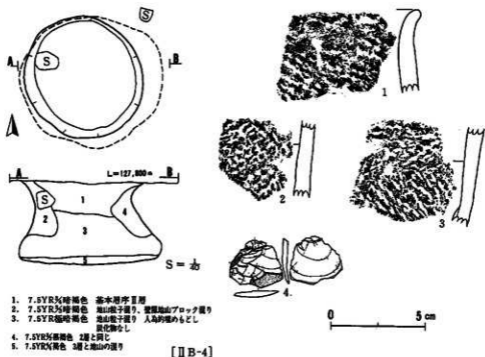
1. 10YR7褐色 大きい炭化物混り
2. 7.5YR7褐色 基本層序1、2層の混土
3. 7.5YR7褐色に10YR7黄褐色混入
地山ブロック混り
4. 10YR7褐色 人為的埋戻し、下層に炭化物多し
全体的に細い浮石混り



(II B-3) S = ㊦

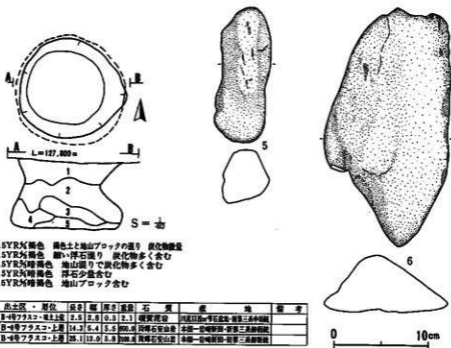
1. 7.5YR7無彩色 表土
2. 7.5YR7無彩色 基本層序1層の土
3. 7.5YR7無彩色 2層に地山粒子若干含む
4. 7.5YR7無彩色 炭化物や砂多の含む
5. 7.5YR7無彩色 炭化物地山粒子少量含む
6. 7.5YR7暗褐色 炭化物少量、地山粒子少量を含む
7. 7.5YR7無彩色 地山原壤
8. 7.5YR7明褐色 地山ブロック混り
9. 7.5YR7暗暗褐色 炭化物多量、地山粒子若干含む
10. 7.5YR7無彩色 地山ブロック混り

第40図 II B-1, II B-3号フラスコビット・遺物



1. 7.5YR7/2暗褐色 基本用序目用
2. 7.5YR7/2暗褐色 地山塊子入り、微量地山ブロック入り
3. 7.5YR6/2暗褐色 地山塊子入り 人為的のものとし 炭化物なし
4. 7.5YR7/6暗褐色 2層と同じ
5. 7.5YR7/4暗褐色 3層と地山の入り

[II B-4]

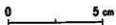
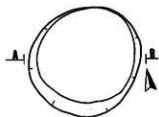


1. 7.5YR7/4暗褐色 褐色土と地山ブロックの入り 炭化物微量
2. 7.5YR7/4暗褐色 細かい浮石入り 炭化物多く含む
3. 7.5YR7/4暗褐色 地山塊子入り 炭化物多く含む
4. 7.5YR7/4暗褐色 浮石少量含む
5. 7.5YR7/4暗褐色 地山ブロック含む

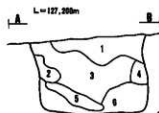
No.	番号	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	備考
4	II B-4	77A30・最上層	2.5	2.8	0.3	2.1	燧石	川原山・寺田山・南三浦山	
5	II B-5	77A30・上層	14.3	6.4	5.5	900.0	燧石	本館一色町新井・南三浦山	
6	II B-6	77A30・上層	126.1	112.0	8.8	1000.0	燧石	本館一色町新井・南三浦山	

[II B-6]

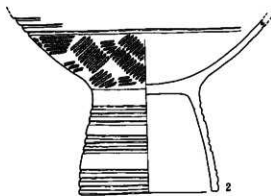
第41図 II B-4, II B-6号フラスコビット・遺物



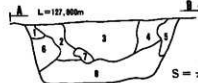
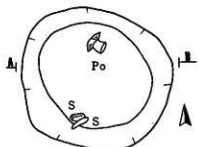
1. 7.5YR 5/8 明 褐色 地山粒子、細かい磁石含む
2. " 5/6 " 地山張り
3. " 4/4 暗 褐色 炭化物少量、1層より大粒の磁石含む
4. " 4/6 " 地山、炭化物張り
5. " 5/4 に近い褐色 地山ブロック (投捨て?)
6. " 3/4 暗 褐色 大粒の炭化材、地山少量含む



(I B-5) S = 右



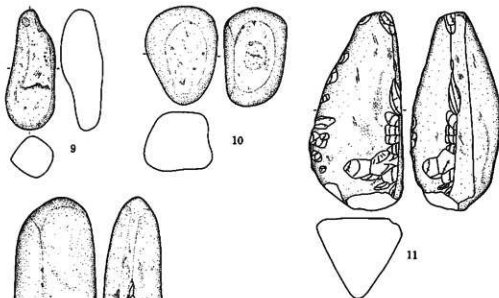
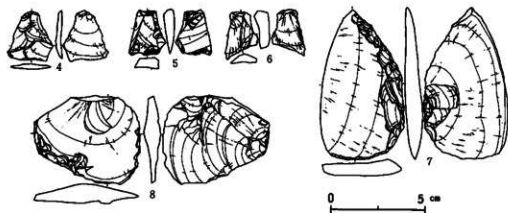
(II B-5)



S = 右

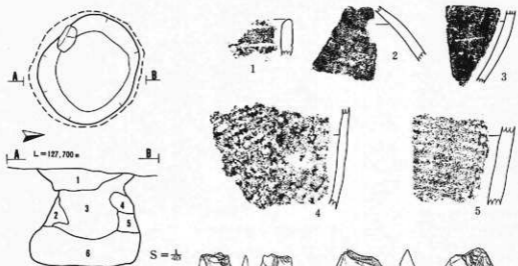
1. 7.5YR 5/6 明 褐色 地山ブロック
2. " 4/3 暗 褐色 地山少量張り、炭化物含む
3. " 4/6 " 地山ブロック張り、2層の炭化物より大粒の少量
4. " 3/4 暗 褐色 2層に同じ
5. " 5/4 に近い褐色 地山ブロック
6. " 3/4 明 褐色 地山張りボヤボヤ
7. " 5/6 " 地山ブロック下面に炭化物
8. " 3/4 暗 褐色 地山張り細かい浮石及び少量の炭化物含む

第42図 I B-5、II B-5号フラスコビット遺物(1)

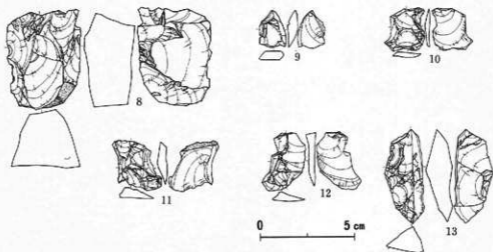


No.	器 種	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 地	備考
4	不定形石片	II B-6号フラスコ・底層	2.6	2.2	0.2	1.6	硬質閃石	戸田川中流・新田川中流	
5	"	"	2.2	1.6	0.6	2.6	"	"	"
6	"	"	5.2	1.6	0.6	2.1	"	"	"
7	"	II B-4号フラスコ・遺土(厚層)	8.0	4.5	0.9	33.1	硬質燧石	戸田川中流・新田川中流	
8	"	II B-6号フラスコ・遺土(中層)	4.0	3.5	1.0	16.2	燧石	戸田川中流・新田川中流	
9	槍	II B-6号フラスコ・底層	9.2	3.9	3.2	130.6	青輝石燧石	本館一室(埋蔵)・新田川中流	
10	燧石	II B-4号フラスコ・遺土(上層)	7.8	5.7	4.5	260.0	"	"	
11	"	"	15.6	7.3	6.8	600.0	緑色燧石	戸田川中流・新田川中流	
12	"	"	19.5	8.4	4.4	600.0	"	"	

第43図 II B-5号フラスコピット遺物(2)



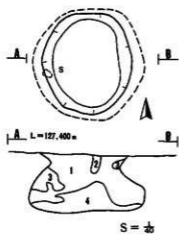
1. 7.5YR5褐色 炭化物・焼土較濃り
2. 7.5YR5褐色 焼山混り 炭化物微量
3. 7.5YR5褐色 中～大粒の炭化粒・焼土粒子含む
4. 7.5YR5に上い 褐色 2層と同じ
5. 7.5YR5に明褐色 焼山混り 粒性なし
6. 7.5YR5に暗褐色 焼土粒子 炭化物少量含む



No.	器種	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	備考
6	石片	II B-7号フラスコ・焼土中層	4.6	2.3	0.6	4.4	霞貫礫質閃石	三沢川以東の沖積扇部・新井三森中層	
7	石片	II B-7号フラスコ・焼土中層	4.5	4.0	1.2	19.7	霞貫礫質閃石	*	*
8	石片	II B-7号フラスコ・下層	5.1	3.9	3.0	60.8	霞貫礫質閃石	*	*
9	石片	II B-7号フラスコ・焼土中層	2.6	1.4	0.5	1.3	*	*	*
10	石片	II B-7号フラスコ・焼土中層	2.2	2.0	0.25	1.1	*	*	*
11	石片	II B-7号フラスコ・焼土中層	2.4	2.3	0.5	2.6	*	*	*
12	石片	II B-7号フラスコ・焼土中層	3.1	1.8	0.5	2.2	*	*	*
13	石片	II B-7号フラスコ・焼土中層	5.0	2.0	1.4	11.4	*	*	*

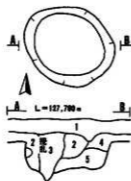
第44図 II B-7号フラスコピット遺物

[IC-1]



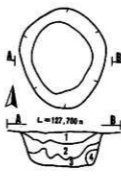
1. 7.5YR 3/3 暗褐色 褐色土混り炭化物少量に含む
2. " 2/2 黒褐色 焼土粒少量含む、ブロック
3. " 4/6 褐色 地山崩壊土、暗褐色土多量に含む
4. " 5/6 明褐色 粘性あり、底面近くに炭化物少量に含む

[II B-1]



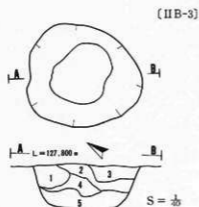
1. 7.5YR 4/6 褐色黄土 I
2. 7.5YR 4/4 褐色 炭化物多く混り
3. 木炭による焼成
4. 5YR 4/6 赤褐色 炭化物少量混り
基本層序 2層
5. 7.5YR 5/6 明褐色 風化した地山ブロック

[II B-2]

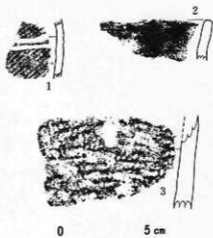


1. 7.5YR 3/3 暗褐色 細かい炭化物少量含む
2. 7.5YR 3/4 " 黄褐色火山灰混り、炭化物微量
3. 7.5YR 4/3 褐色 風化した地山褐色土混り
4. 7.5YR 4/4 " 木炭

第45図 IC-1号フラスコピット、II B-1、II B-2号土坑



- | | | | | | |
|----|-------|-----|-----|-----------|----------|
| 1. | 7.5YR | 4/3 | 褐色 | 地山混り灰化物微量 | 人為的埋戻しか? |
| 2. | " | 3/4 | 暗褐色 | " | |
| 3. | " | 3/4 | " | " | |
| 4. | " | 3/3 | " | 炭化物やや多し | |
| 5. | " | 4/3 | 褐色 | 地山アロックス混り | |

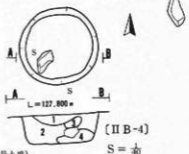
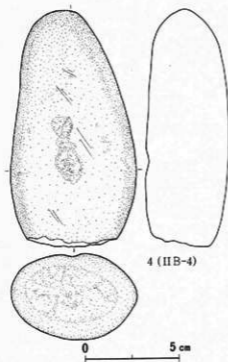
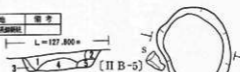


(II B-5)

II B07

L=127,800 μm

No.	図号	赤土区・層位	長さ	幅	厚さ	石質	産地	備考
4	四石・礫石	II B-4号土坑内	12.6	6.7	4.4	多量	兵庫県安山岩	本誌一巻掲載時・別冊三巻附録

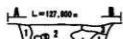
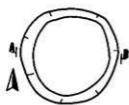


- (II B 4号土坑)
- | | | | |
|----|-------|-----|-----|
| 1. | 2.5YR | 4/4 | 褐色 |
| 2. | " | 4/6 | " |
| 3. | " | 5/6 | 明褐色 |
| 4. | SYR | 4/0 | 赤褐色 |

- (II B 5号土坑)
- | | | | |
|----|-------|-----|-----|
| 1. | 7.5YR | 4/4 | 暗褐色 |
| 2. | " | " | 暗褐色 |
| 3. | " | にじみ | 褐色 |
| 4. | " | " | 暗褐色 |
| 5. | " | " | 褐色 |

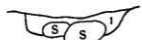
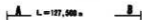
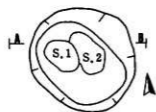
第46図 II B-3, II B-4, II B-5号土坑・遺物

(II B-7)



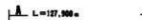
1. 7.5YR 4/6 褐色
地山崩壊土
2. 7.5YR 3/4 暗褐色
褐色土ブロック含む 炭化物少量含む
3. 7.5YR 5/6 明褐色
褐色土(地山)混入
4. 7.5YR 褐色
固くしまる。炭化物少量含む

(II C-1)



1. 7.5YR 3/4 暗褐色、粘性炭化物なし

(III C-1)



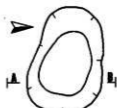
S = 1/2

(II B-6)

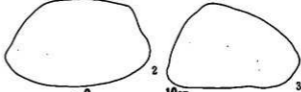
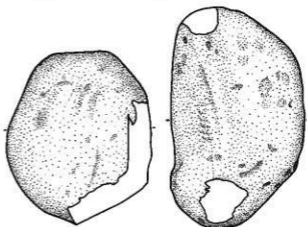


S = 1/2

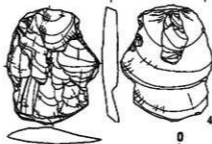
1. 7.5YR 褐色 瘦長
2. " 明褐色 地山ブロック
3. " 暗褐色 細かい焼土散量、炭化物少量
4. " 褐色 地山混り?
5. " " 地山と地山ブロック混り



No	器種	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地	備考
1	銅片	II B-7号 *	中層	3.5	2.8	0.3	1.1	"	"
2	罐	III C-1号土器層 S1	18.0	15.5	8.2	66.0	両端石安山岩	水谷一彦氏提供・前編3頁参照	
3	不定形石器	"	S2	22.0	14.2	9.2	66.0	"	
4	"	III C-1号土器層土上層	6.1	4.9	0.9	6.0	鹿角質石灰	前編3頁9号石皿、前編3頁参照	



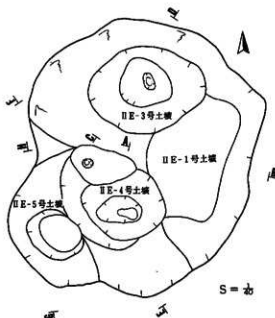
0 10cm



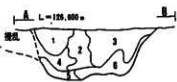
0 5cm

1. 7.5YR 3/2 黒褐色
炭化物粒少量含む
2. 7.5YR 3/3 暗褐色
褐色ブロック含む、固くしまる
3. 7.7YR 4/6 褐色
暗褐色土含む、粘性あり固くしまる
4. 7.5YR 2/2 黒褐色
ブロック
5. 7.5YR 4/4 褐色
4層混り 粘性あり

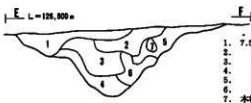
第47図 II B-6. II B-7. II C-1. III C-1号土器・遺物



1. 7.SYR 5/6 暗褐色 地山アブロック
 2. " 3/3 暗褐色 地山アブロックよりやや、木腐多し
 3. 5.YR 1/3 暗褐色 炭化物少量入り
 4. 7.SYR 4/5 暗褐色 炭化した地山に暗色土混入
 5. " 6/5 暗褐色 地山アブロック入り
 6. " 4/4 暗褐色 炭化物 地山アブロック少量入り
 7. 木腐



1. 7.SYR 6/6 暗褐色 地山アブロック
 2. " 3/3 暗褐色 地山アブロックよりやや、木腐多し
 3. 5.YR 1/3 暗褐色 炭化物少量入り
 4. 7.SYR 4/5 暗褐色 炭化した地山に暗色土混入
 5. " 6/5 暗褐色 地山アブロック入り
 6. " 4/4 暗褐色 炭化物 地山アブロック少量入り

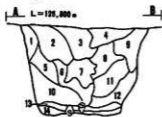
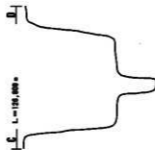
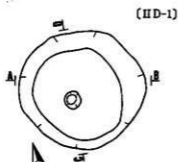


1. 7.SYR 5/6 暗褐色 地山アブロックかより土
 2. " 4/5 暗褐色 腐植土入り
 3. " 5/8 暗褐色 地山アブロックやや特性あり
 4. " 6/8 暗褐色 地山アブロックやや、腐植少量入り
 5. " 6/8 暗褐色 4層に同じ
 6. " 5/6 暗褐色 腐植土少量入り
 7. 木腐

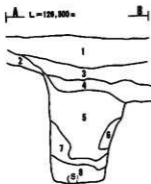
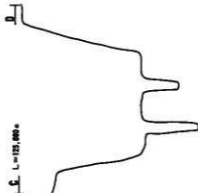
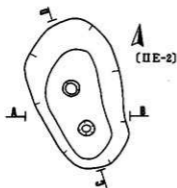


1. 7.SYR 4/3 暗褐色 暗褐色土ブロック含む、粘性あり
 2. " 3/4 暗褐色 暗褐色土混入
 3. " 3/3 暗褐色 暗褐色土少量混入
 4. " 4/4 暗褐色 地山アブロック混入
 5. " 4/4 暗褐色 固くしまる、暗褐色の小ブロック含む

第48図 II E-1, 3, 4, 5号土壌

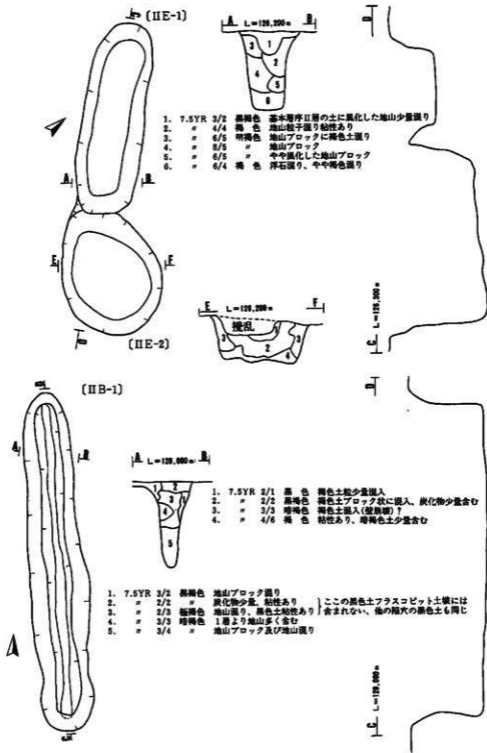


- | | | | | |
|-----|-------|-----|-----|--------------------------|
| 1. | 7.5YR | 6/5 | 明褐色 | 炭化物少量 |
| 2. | " | 3/3 | 暗褐色 | 炭化物、粘土凝結、地山粒子少量混り |
| 3. | " | 1/2 | 黒色 | 炭化物多量、粘土凝結含む |
| 4. | " | 3/2 | 暗褐色 | 粘土、地山粒子微量含む |
| 5. | " | 6/4 | 褐色 | 風化した地山粒子多量、炭化物微量 |
| 6. | " | 3/3 | 暗褐色 | 風化した地山粒子多量、炭化物少量含む |
| 7. | 10YR | 1/7 | 黒色 | 3層と同じ、浮石若干含む |
| 8. | 7.5YR | 3/3 | 暗褐色 | 6層と同じ |
| 9. | " | 6/5 | 明褐色 | 地山の崩壊 |
| 10. | " | 6/4 | 褐色 | 風化した地山に褐色土混り |
| 11. | " | 4/5 | 紅褐色 | 風化した地山粒子に炭化物微量に混る |
| 12. | " | 6/4 | 褐色 | 10層と同じ |
| 13. | " | 3/2 | 暗褐色 | 風化した地山粒子と炭化物粘土を含む(炭化物多量) |
| 14. | " | 3/4 | 明褐色 | 地山混り |

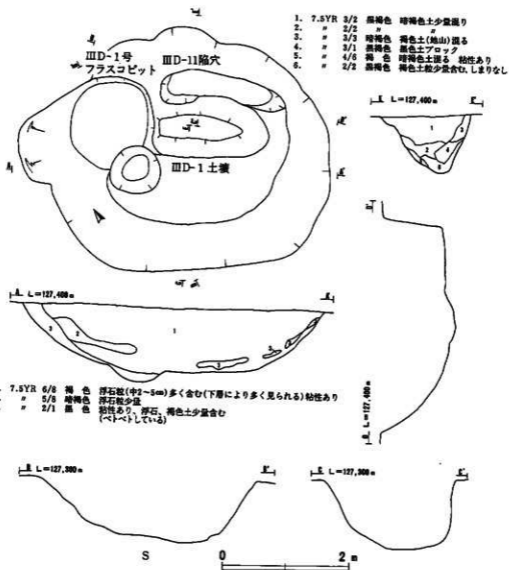


- | | | | | |
|----|-------|-------|-----|------------------------|
| 1. | 7.5YR | 3/2 | 暗褐色 | 固くしまる |
| 2. | " | 2/2 | " | 褐色土少量混り |
| 3. | " | 3/1 | " | 粘性あり |
| 4. | " | 2/1 | 黒色 | 褐色土ブロック少量混り |
| 5. | " | 1.7/1 | " | 粘性あり、褐色土少量混り |
| 6. | " | 3/1 | 暗褐色 | 粘性あり |
| 7. | " | 4/6 | 褐色 | 黒褐色土混り、2層の崩壊土? |
| 8. | " | 2/3 | 暗褐色 | 褐色土混り、浮石粒少量含む、下位は固くしまる |

第49図 II D-1, II E-1号陥穴 (S = 右)



第50図 II E-2号土壇、II E-1、II B-2号陥穴 (S = 1/2)



第51図 III D-1号フラスコビット、III D-1号陥穴、III D-1号土壇

2. 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は土器、石器のみで、土・石製品等は一切検出されなかった。出土した地区は遺構の集中する周辺が主で、遺構の存在しない部分では縄文時代中期の土器片が散在していた程度である。各遺物のナンバーの次に出土地点を記している（II B08-II下）。II Bはグリット名で、08は1グリット（20×20m）を25等分した際の小区画名で、II下はII層下位を示す（P93・94の(1)調査区割の設定と遺構配置図-第30図-を参照）。

(1) 土 器

縄文土器（第52～54図、写真図版43～45）

1、2は胎土に少量の繊維を含み、撚糸文(?)と思われる文様を持つ。1はIII層出土で、遺物包含層最下部に相当する。3～8は貝殻沈線文を有する一群である。3は口唇角内面に貝殻腹線文が施文されている。いずれもII～III層にかけての出土である。9、10は内外面とも条痕文系の土器で、2点とも口縁部の下に貼付けの隆起線が横に走る。11～20は口縁部分付近に刺突文を、体部は内外面縄文を有する一群。刺突は先端が丸い棒状の工具で施文され、内面に押された際の膨らみがそのまま残るのを特徴とする。口縁部直下に1段あるいは2段にわたって施文されている。胎土には繊維を多量に含むものが多く、原体は不明瞭ではあるが縄文が多いようである。21～26は外面縄文のみ施文されている一群。21は口縁部に渦巻状の側面圧痕文、23、24は同一個体の可能性のある破片で、0段多条(?)の斜行縄文。21は同じく0段多条であるが、同一原体の回転方向を変えて羽状としているが整然とした羽状縄文にはなっていない。27～33は羽状縄文を有する一群。いずれも胎土に少量の繊維を含んでいる。結節羽状は明らかであるが、33はLRのようにも見えるが、あるいは組んだ原体の可能性もある。34は口縁部に複数の隆線を持つ。35は無文、36は口縁部隆帯に拇指状の押印が、37は細かい縄文が施文されている。38～40は所属時期不明の底部破片である。41～46は隆沈線文様を有する深鉢の口縁部から胴部下半の破片である。47～62は磨消縄文、平行沈線、変形工字文等が施文された鉢、浅鉢、台付鉢などである。

以上の縄文時代の土器は1、2が早期の撚糸文系に、3～8が貝殻沈線文系で物見台式頃に、9、10が条痕文系でムシリI、榎木下層頃に、11～20が刺突文を持つ表裏縄文土器で早期末頃に（関谷洞窟、崎山弁天遺跡など）、21～26は0段多条などから早期末から前期初頭に、27～37の羽状縄文系などは、関山式、桂島式などと対応する大木1式前後に相当するものと考えられる。41～46は中期大木8b式期に、47～62は晩期大洞C₁～A式期にそれぞれ相当する。1例(写真図版47右下107)内外面に漆皮膜が塗ってある土器片は保存上、拓影図が作成できなかった。色

調は黒で表裏に漆があることから、晩期の浅鉢と推定するのが妥当であろう。

弥生式土器（第55～56図、写真図版46、47）

壺、鉢、高杯、甕の器種がある。63～75は壺の破片で、63～67は中型の大きさと他は小型である。肩部に文様を持つ例が多く、変形工字文、2個一対の貼瘤を持つ同文、平行沈線などがある。磨消縄文は66のみで、無文の部分は頸部、体部ともよく研磨されている。76、77は浅鉢あるいは高杯の体部で、78は唯一の高杯脚部で、いずれも沈線とミガキの施文である。80～83はおそらく同一個体の壺で、肩部に2本の平行沈線、体部は細縄文が施文され下半部では回転方向を変えている。一部分に丹形痕が認められる。前述の壺とは時期が異なり、84～87の鉢と同時期であろう。84、85はゆるやかな平行沈線の山形あるいは円形文の、86、87は鋸歯文状の良く研磨された磨消縄文を持つ浅鉢または高杯の破片である。87～97はこれらに伴う甕の破片である。口縁部はナデ整形が多く、沈線あるいは段をもつ、93のみ山形口縁で、94は口縁部に縄文がめぐる。100～106は後半期に属する土器で、100は角度の浅い連弧文がめぐる。98の底部もこの時期に伴うもので、交互刺突文直前に位置付けられる。

(2) 石 器

出土した石器のうち、形の判明している定型的な剥片石器の類はすべて図示したが、不定形石器、擦石等のいくつかは省略したものがあつた。以下に記述する各石器は縄文時代と弥生時代の両面が含まれていると考えられるが、器形の上からは区別がつきにくく一括して扱つた。形態的には縄文時代のものが多数を占めるようである。（ ）の記号は土器と同様、出土地点と層位を示している。

石鏃（第57図1～5、写真図版48）

5点出土した。1～3は遺構群とは離れた東側からの出土である。5点とも無基で、3点は平基で、2点は先端部を欠損している。基部にタールなどの付着物などは認められない。

尖頭鏃（第57図6・7、写真図版48）

遺構集中区の南北から2点出土。いずれも両面加工の薄形で、基部付近あるいは中程で折損している。7は天地逆の可能性もある。

ピエス・エスキュー（第57図8・17、写真図版48）

二次加工によって方形状に整形し、1辺あるいは2辺に片面または両面からの刃部を有する定型的な石器を一括した。不定形石器との区別つけにくいから10点の出土である。いずれも遺構集中区近辺からの出土である。

石匙（第57図18・19、写真図版48）

2点のみの出土。18はつまみを有する縦長で、刃部は両面加工。19はつまみは無く両面加工で、先端欠損しているがナイフ状の形態と考えられる。

へら状石器（第58～62図20～59、写真図版49、50）

剥片石器のなかでも最も多数を占める器種で、出土した中から40点を図示した。形状、規模にそれぞれ差があり、長さは11.5～5.5cm、最大幅5.0～3.0cmの範囲で、長さに比較して幅の差は少ない。形態は洋梨型、長方形型、バチ型、三角形型、長方形で側面湾曲型に分類できる。整形は両面加工を基本とするが、片面を側縁のみ、刃部のみ加工したり、部分的に自然面を残す例も含まれる。刃部は長軸に対して水平を基礎とするが21、46、55のように斜位のものや、36、37、47のように三角状を呈するものもある。また数点、刃部を再加工している例も含まれる。40点中30点が完形品であるが、図示しない例も含めると約半数が完形品である。

不定形石器（第63、64図60～83、写真図版51）

不定形な剥片の片面または両面の一部分に調整を加えた石器である。機能的には当然搔削器も含まれており、65～68はエンド・スクレーパー、70～74はサイド・スクレーパーである。60～62は石錐の可能性もあるが、先端部に摩滅の痕跡は乏しい。総数31点のうち24点を図示したが、刃部の無い部分が欠損した場合、単なる剥片として扱うこともあり、実数はこれを上回るものと思われる。

石斧（第65図84～87、写真図版52）

4点のみの出土。石器総数に占める割合は他の遺跡に比較して、非常に少ない。磨製はなくすべて打製で、3点は両側と片側に自然面を残す。86は硬度の低い石材で、調整も粗い。4点とも定形的とは言いがたく、84の刃部は異常に厚く敲石状である。

凹石（第66図91～94、写真図版52）

4点のみの出土。91は片面に、92は両面に、93、94は片面凹みで両側面は擦石となっている。擦石の数に比べると非常に少ないのが特徴である。

擦石（第66～70図95～128、写真図版53、54）

礫石器のなかでも多く42点出土したうち34点を図示した。形態的には円形あるいは不定形の自然石の1または2面を利用しているもの（95～100）、三角形あるいは楕円形の礫の両面と側面を目的に利用しているもの（101～119）に分けられ、後者が圧倒的に多い。後者の側面の使用痕はナナメ、タテが多く、ヨコは殆ど無い。折損部分は中央部が多いようであるが、両側が欠けている例も少ないが存在する（127、128）。97は先端部も擦面あるいは敲面として使用している。

台石・石核（第71図129～135、写真図版54）

20cm以上ある礫の片面に微かな凹みや擦痕が認められる一群である。一部は石皿として扱う

ことも可能であろう。遺構外出土として扱っているが、ものによってはフラスコビット、土填の開口部近くから検出された例もあり、何らかの関連性を有している可能性もある。135は両面からの打痕のある石杖。

石製品 (第65図88~90、写真図版52)

88は楕円形の鏝の両側を割り板状にしたもので、一部に横位の細い沈線が刻まれている。柔らかい石材であり、おそらく未製品であろう。89は石刀の破片であるが、破損部分に二次調整を加え剥片石器として再利用している。90は半円あるいは石包丁状の形態を示すが、明瞭な刃部は示していないし、石包丁としては幅8.5cmと短い。孔の無い石包丁には8cm前後の例もあるが、ここでは未石製品として扱っておく。

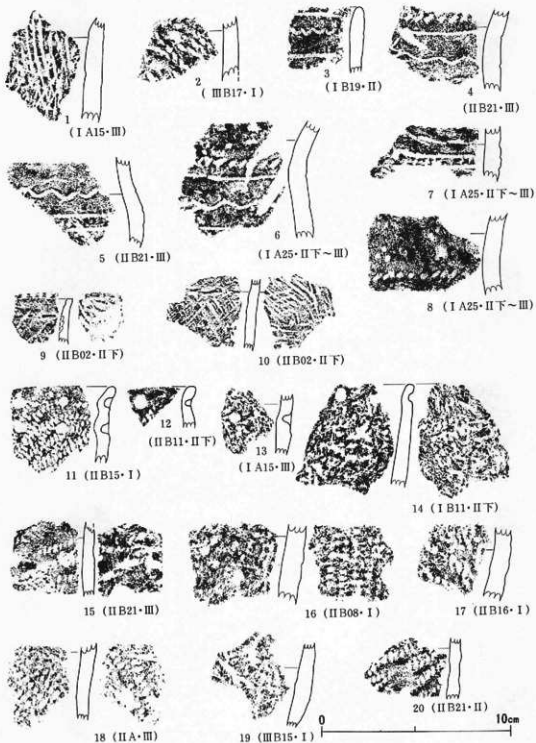
第8表 遺構外出土石器観察一覧表

(単位cm・g)

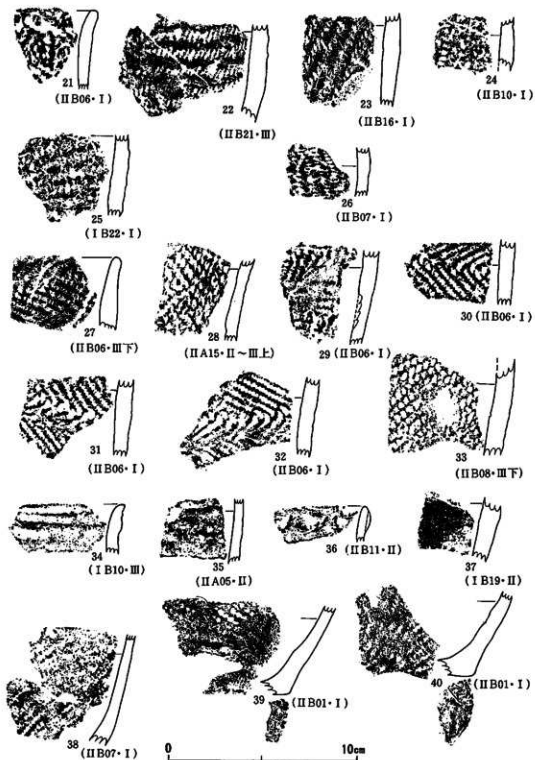
NO	器種	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
1	石鏝	II G-25区粗層	0.8	1.3	0.3	0.5	玉髓	奥羽山地・新第三系中新統
2	#	II I-06区 #	2.7	1.9	0.3	1.0	柱状泥岩	川尻以西# 礫石盆地・中新統
3	#	II G #	2.9	1.4	0.5	2.1	泥質凝灰岩	# # #
4	#	II B-18区I層	1.9	1.1	0.4	0.7	#	# # #
5	#	II B-12区II層	2.1	1.1	0.4	0.7	#	# # #
6	尖頭器	I B-23区I層	4.5	1.1	0.5	2.1	#	# # #
7	#	III B-15区III層	4.2	1.8	0.6	3.6	#	# # #
8	P.S.エスキュー	II B-12区II層	1.7	1.3	0.3	0.8	柱状泥岩	# # #
9	#	II A-10区III層	2.7	1.9	0.5	3.3	粘板岩	磐前山一夏油川上流間・古生界
10	#	II B-14区I層	3.5	2.7	3.5	6.1	泥質凝灰岩	川尻以西# 礫石盆地・新第三系中新統
11	#	II B-06区III層下	2.4	2.1	0.6	3.1	#	# # #
12	#	II B-07区I層	2.8	2.4	0.4	4.0	#	# # #
13	#	II B-13区I層	1.9	2.5	0.6	2.5	#	# # #
14	#	I B-22区I層	3.3	1.8	0.5	2.8	#	# # #
15	#	II B-07区II層	3.0	2.7	0.5	4.2	#	# # #
16	#	III B-10区ベルトII層	2.7	1.6	0.4	2.2	#	# # #
17	#	II B-12区III層	3.3	2.1	0.9	3.3	#	# # #
18	石匙	II B-07区II層	7.0	2.6	0.8	10.7	#	# # #
19	#	II B-22区II層下	4.4	1.0	0.3	1.9	#	# # #
20	へら状石器	II B-20区III層	11.5	5.8	1.8	110.0	#	# # #
21	#	II B-16区III層	11.0	5.3	2.3	90.0	#	# # #
22	#	III B-08区I層	7.6	4.4	1.9	60.5	#	# # #
23	#	III B-09区II層	6.9	4.0	2.1	52.6	#	# # #
24	#	III C-16区I層	9.3	4.0	2.0	75.0	硬質泥岩	# # #
25	#	III B-02区I層	7.8	3.9	1.8	65.0	#	# # #
26	#	II B-13区I層	9.2	3.9	2.4	80.0	泥質凝灰岩	# # #
27	#	II B-22区I層	7.4	3.2	1.8	43.8	#	# # #
28	#	II B-21区I層	7.7	4.1	1.4	47.5	硬質泥岩	# # #
29	#	II C-11区I層	6.9	3.6	2.1	36.5	泥質凝灰岩	# # #
30	#	II B-06区III層下	7.1	4.1	2.0	48.5	#	# # #
31	#	III C-01区I層	4.4	4.5	1.2	28.9	#	# # #
32	#	I B-23区I層	6.6	4.9	1.6	49.5	硬質泥岩	# # #

NO	岩種	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石質	産地
33	へろ状石礫	ⅢB-14区Ⅱ層下	6.4	3.9	1.4	33.7	泥質凝灰岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
34	"	I B-25区Ⅰ層	9.1	4.2	2.7	105.0	粘板岩	和賀仙人一夏油川上流間、古生界
35	"	I B-16区Ⅰ層	6.6	4.1	2.0	52.5	泥質凝灰岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
36	"	ⅡA-15区Ⅰ層	6.5	2.8	1.6	23.5	"	"
37	"	ⅢB-02区Ⅰ層	6.0	3.4	1.2	21.2	"	"
38	"	ⅡB-07区Ⅲ層下	6.3	4.3	2.0	65.0	硬質泥岩	"
39	"	ⅡB-11区Ⅲ層上	5.4	4.3	1.6	29.1	泥質凝灰岩	"
40	"	ⅡB-04区Ⅱ層	7.3	4.4	1.4	59.4	珪質細砂質凝灰岩	"
41	"	ⅡB-06区Ⅰ層	10.7	4.0	2.5	120.0	両輝石安山岩	本郷一岩崎新田間、新第三系鮮新統
42	"	ⅡB-03区Ⅰ層	9.9	5.2	2.1	100.0	泥質凝灰岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
43	"	I B-05区Ⅲ層	8.0	4.0	1.5	55.7	粘板岩	和賀仙人一夏油川上流間古生界
44	"	ⅡA-05区Ⅱ層	6.0	4.0	1.3	23.5	泥質凝灰岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
45	"	ⅡA-15区Ⅰ層	7.2	4.7	2.0	55.9	"	"
46	"	ⅢC-13区Ⅱ層下	5.6	3.7	1.6	31.4	"	"
47	"	I B-18区Ⅰ層	5.2	3.3	1.3	19.6	"	"
48	"	ⅡB-02区Ⅰ層	5.8	4.0	1.4	31.3	粘板岩	和賀仙人一夏油川上流間、古生界
49	"	ⅡB-16区Ⅰ層	6.6	3.5	1.5	27.8	硬質泥岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
50	"	ⅡB-21区Ⅲ層	6.6	3.7	1.6	38.5	泥質凝灰岩	"
51	"	I B-10区Ⅲ層	7.8	3.8	1.5	40.5	"	"
52	"	ⅡB-01区Ⅱ-Ⅲ層	8.2	4.2	1.4	44.3	"	"
53	"	ⅡB-06区Ⅲ層下	7.6	4.3	2.2	65.0	"	"
54	"	ⅡB-11区Ⅲ層	6.7	4.2	1.4	37.0	"	"
55	"	ⅡB-21区Ⅲ層	5.1	4.0	1.3	31.5	"	"
56	"	ⅡB-06区Ⅰ層	6.9	2.9	1.3	23.6	珪質泥岩	"
57	"	ⅢB-19区Ⅱ層	6.3	3.4	2.1	39.7	硬質泥質凝灰岩	宇石西部、新第三系中新統
58	"	ⅢB-08区Ⅰ層	7.7	4.2	2.0	70.0	泥質凝灰岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
59	"	ⅡB-08区Ⅱ層下	6.6	5.3	2.0	65.0	"	"
60	不定形石礫(?)	ⅢB-03区Ⅱ層	4.1	4.1	1.3	18.6	珪質泥岩	"
61	"	ⅡB-17区Ⅱ層下	5.1	6.1	1.9	44.3	泥質凝灰岩	"
62	"	ⅡA-15区Ⅲ層	7.9	5.6	1.5	41.9	珪質細砂質凝灰岩	"
63	不定形石礫	I B-11区Ⅲ層下	3.3	4.4	0.9	13.9	泥質凝灰岩	"
64	"	I A-25区Ⅰ層	5.3	7.7	2.0	65.0	硬質泥岩	"
65	"	ⅡC-21区Ⅰ-Ⅱ層	2.8	3.8	1.0	11.9	珪質細砂質凝灰岩	"
66	"	I B-16区Ⅰ層	3.8	4.9	1.1	22.1	泥質凝灰岩	"
67	"	ⅡB-08区Ⅱ層下	4.5	5.2	2.1	43.7	"	"
68	"	ⅡB-03区Ⅰ層	5.0	4.3	1.4	40.9	硬質泥岩	"
69	"	I A-25区Ⅱ層	5.4	4.2	1.05	28.9	"	"
70	"	ⅢC-18区Ⅰ層	7.5	4.2	1.7	58.2	泥質凝灰岩	"
71	"	ⅡC-25区Ⅰ層	7.0	5.1	1.6	53.3	硬質泥岩	"
72	"	I B-05区Ⅲ層	4.7	2.8	1.3	20.1	"	"
73	"	ⅢB-02区Ⅰ層	4.0	3.6	1.1	16.6	泥質凝灰岩	"
74	"	ⅡB-06区Ⅰ層	4.9	2.8	1.0	16.5	珪状岩質凝灰岩	別山一本郷間、新第三系中新統
75	"	ⅡB-11区Ⅰ層	6.1	3.3	0.65	12.9	珪質細砂質凝灰岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
76	"	ⅢB-05区Ⅱ層	6.0	3.1	0.8	12.0	"	"
77	"	ⅢB-06区Ⅰ層	5.2	4.1	1.6	30.8	泥質凝灰岩	"
78	"	I A-25区Ⅱ層下-Ⅲ層	4.6	3.0	1.1	12.8	珪質泥岩	"
79	"	I A-25区Ⅲ層	5.3	3.9	1.1	13.8	泥質凝灰岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
80	"	ⅢC-06区ベルトⅡ層	5.2	2.6	0.7	9.7	粘板岩	和賀仙人一夏油川上流間、古生界
81	"	ⅡB-01区Ⅱ層	4.8	3.1	0.9	12.6	泥質凝灰岩	川尻以西or宇石盆地、新第三系中新統
82	"	ⅡB-18区Ⅰ層	9.3	6.1	3.1	175.0	"	"
83	"	ⅡB-01区Ⅰ層	5.9	4.0	1.8	29.7	"	"
84	石弁	ⅡB-06区Ⅲ層下	10.8	5.2	2.8	230.0	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流、古生界

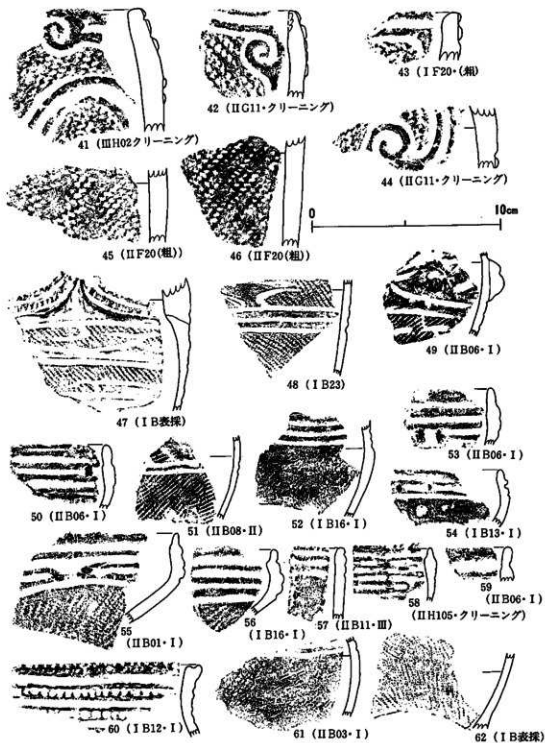
NO	群 種	出土区・層位	長さ	幅	厚さ	重量	石 質	産 地
85	石弁	II B-11区III層	4.9	5.1	2.4	90.0	珪質細砂質凝灰岩	川尻以西or宇石産地、新第三系中新統
86	"	III B-04区I層	8.1	3.4	2.3	80.0	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流、古生界
87	"	II B-16区I層	10.1	4.5	2.2	150.0	"	"
88	石製品	II B-18区II層	11.3	4.3	1.2	105.0	珪質細砂質凝灰岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
89	石刀(二次加工)	III B-10区ベルトII層	5.6	3.7	1.2	28.7	粘板岩	朝賀鎮人-夏油川上流間、古生界
90	石製品	III C-06区ベルトII層	4.8	8.4	0.9	52.6	"	"
91	凹石	III B-02区I層	16.2	10.3	6.8	1309.9	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
92	"	II B-16区I層	8.9	7.1	3.2	260.2	"	"
93	"	II B-15区I層	13.7	5.7	2.7	400.0	緑色凝灰岩	夏油川流域、新第三系中新統
94	"	II B-07区II層	7.0	5.9	2.4	170.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
95	礫石	II B-12区II層	7.8	5.5	4.4	300.0	"	"
96	"	II B-12区III層	10.1	8.5	5.5	540.0	"	"
97	"	II B-06区III層下	11.9	6.9	5.1	600.0	"	"
98	"	II B-18区II層下	15.9	13.5	3.7	1200.0	"	"
99	"	II B-08区II層下	11.0	9.6	5.0	730.0	"	"
100	"	II B-03区I層	15.6	3.7	2.7	200.0	細粒砂質凝灰岩	朝賀鎮人-夏油川間、新第三系中新統
101	"	III B-03区II層	12.5	6.7	5.3	500.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
102	"	II B-11区III層	17.1	7.4	5.8	820.0	緑色凝灰岩	夏油川流域、新第三系中新統
103	"	II B-16区I層	15.4	7.5	5.1	730.0	"	"
104	"	II B-21区III層	14.0	8.1	6.3	860.0	"	"
105	"	II B-04区I層	16.1	6.8	5.0	780.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
106	"	III C-01区I層	14.4	6.9	5.1	780.0	緑色凝灰岩	夏油川流域、新第三系中新統
107	"	III B-02区I層	14.8	6.6	5.8	660.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
108	"	I A-20区III層	14.8	6.6	5.7	820.0	"	"
109	"	III B-14区II層下	13.8	6.8	6.1	640.0	花崗閃緑岩	夏油川一嶺人間、中生界
110	"	II B-21区III層下	15.5	7.4	5.1	840.0	緑色凝灰岩	夏油川流域、新第三系中新統
111	"	III B-02区I層	16.5	8.0	5.1	960.0	"	"
112	"	II B-21区III層	11.5	8.0	5.3	640.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
113	"	II B-21区III層	18.0	7.1	5.9	960.0	緑色凝灰岩	夏油川流域、新第三系中新統
114	"	II B-22区II層	13.2	6.0	3.0	200.0	細粒砂質凝灰岩	朝賀鎮人-夏油川間、新第三系中新統
115	"	II B-21区III層	12.5	5.8	5.7	510.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
116	"	II B-04区I層	15.3	6.6	5.2	700.0	"	"
117	"	III C-07区I層	13.1	6.4	3.6	340.0	緑色凝灰岩	夏油川流域、新第三系中新統
118	"	II B-22区I層	15.6	6.8	6.0	1030.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
119	"	II B-06区III層下	17.7	8.8	5.3	1240.0	"	"
120	"	II B-18区II層下	9.6	8.7	5.0	600.0	"	"
121	"	II B-18区II層下	9.2	7.9	4.1	430.0	"	"
122	"	I B-25区I層	8.4	4.9	4.0	200.0	"	"
123	"	II C-21区I層	12.1	6.9	5.4	420.0	緑色凝灰岩	夏油川流域、新第三系中新統
124	"	III B-15区I層	14.0	5.8	6.4	530.0	"	"
125	"	III B-15区I層	16.5	6.2	4.6	540.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
126	"	III B-14区II層下	9.1	6.3	4.3	380.0	"	"
127	"	I B-05区III層	10.4	8.5	3.8	400.0	"	"
128	"	III B-10区I層	7.3	6.2	4.2	230.0	緑色凝灰岩	夏油川流域、新第三系中新統
129	台石	II B-2区III層	22.1	15.6	6.5	3469.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
130	台石	II B-24区II層下	35.6	14.8	9.6	6200.0	花崗閃緑岩	夏油川一嶺人間、中生界
131	"	II B-11区III層	15.1	6.3	4.8	600.0	アサイト	羽山一本郷、新第三系中新統
132	"	II B-03区III層	18.4	23.7	6.6	4869.0	岡輝石安山岩	本郷一岩崎新田、新第三系中新統
133	"	I B-22区III層	25.5	9.8	3.8	6500.0	"	"
134	"	不明	29.4	21.0	4.3	8300.0	"	"
135	石核	II B-22区I層	9.5	13.0	5.3	640.0	硬質泥岩	川尻以西、新第三系中新統



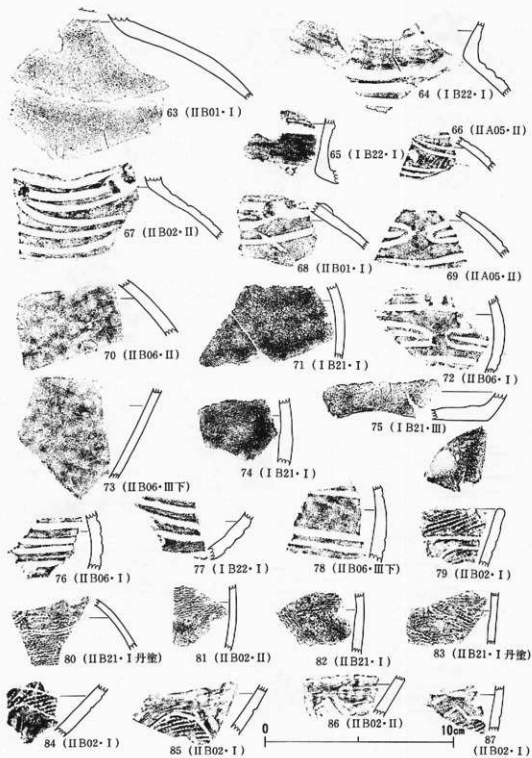
第52図 遺構外遺物・土器(1)



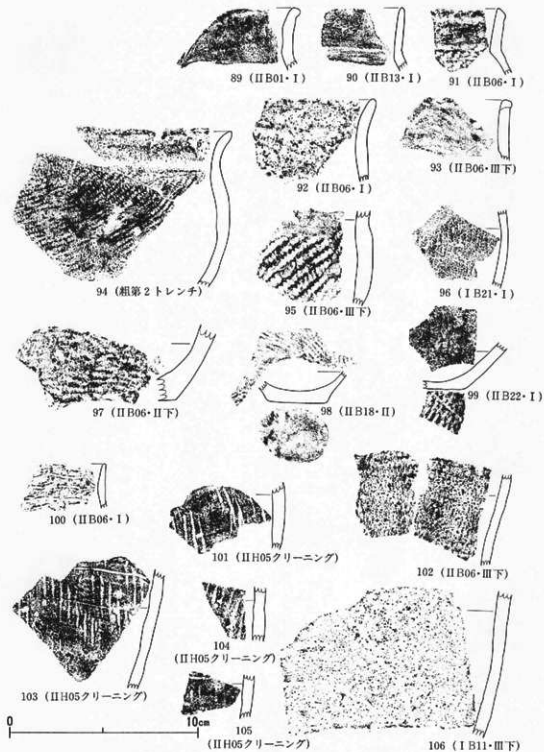
第53図 遺構外遺物・土器(2)



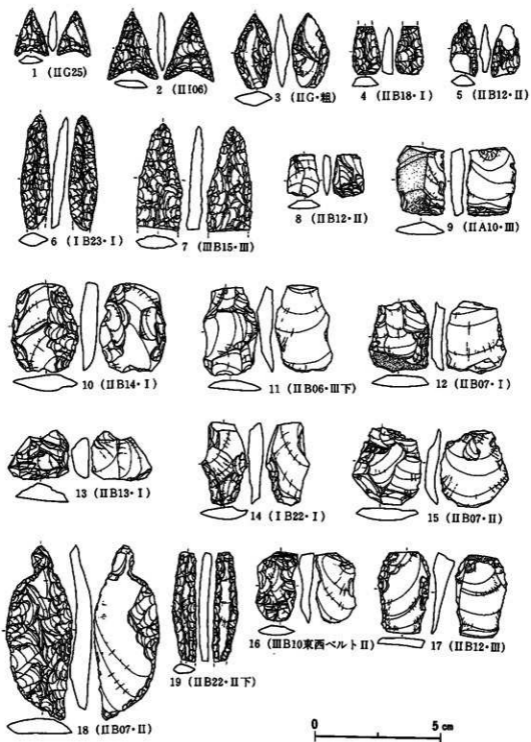
第54図 遺構外遺物・土器(3)



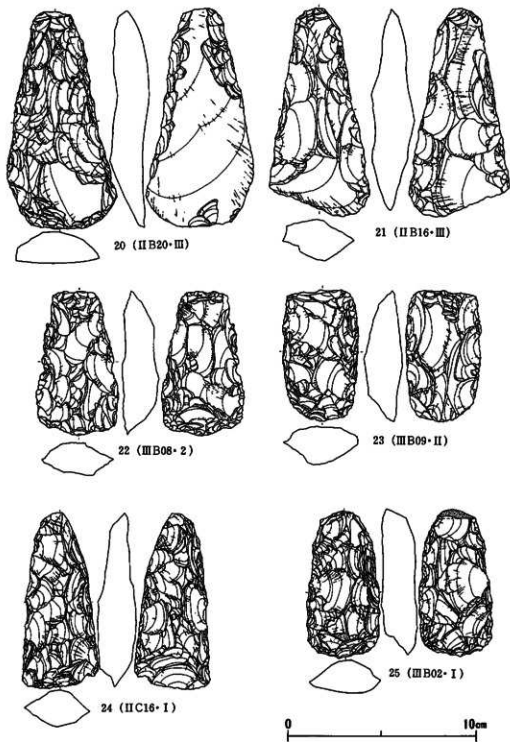
第55圖 遺構外遺物・土器(4)



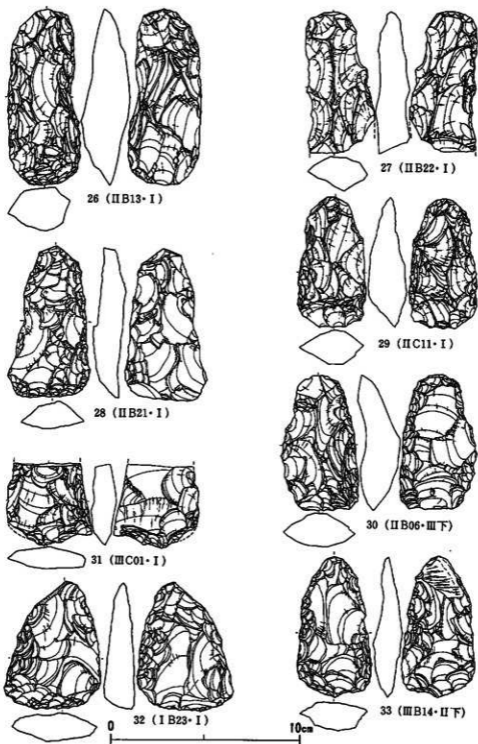
第56図 遺構外遺物・土器(5)



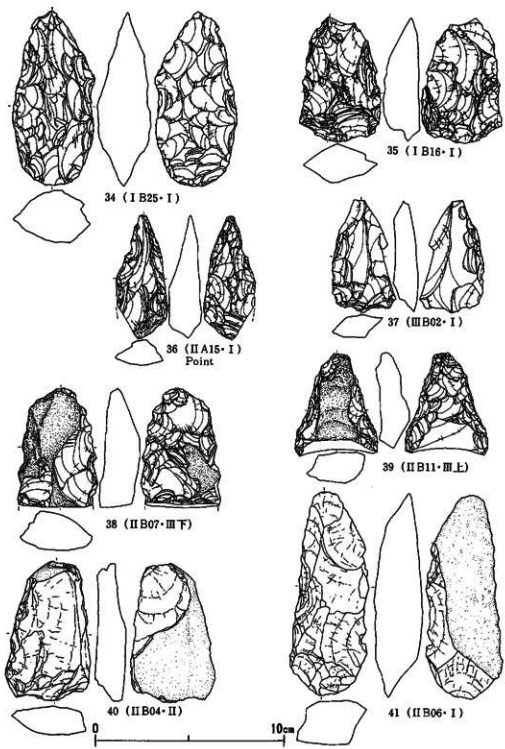
第57図 遺構外遺物・石器(1)



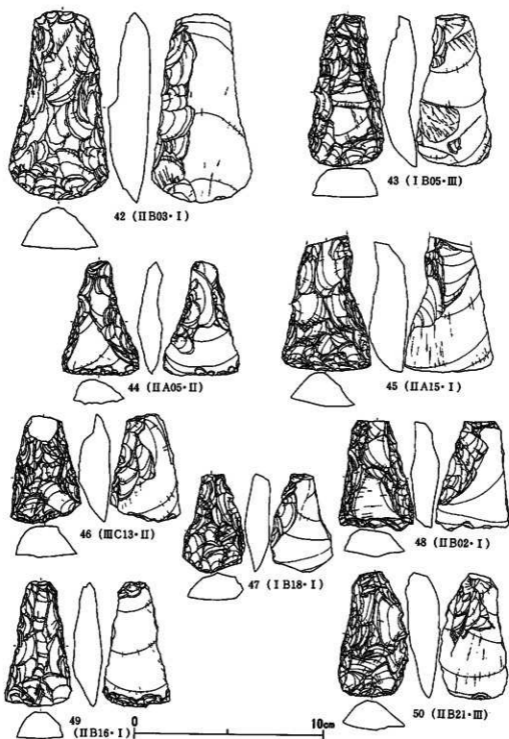
第58図 遺構外遺物・石器(2)



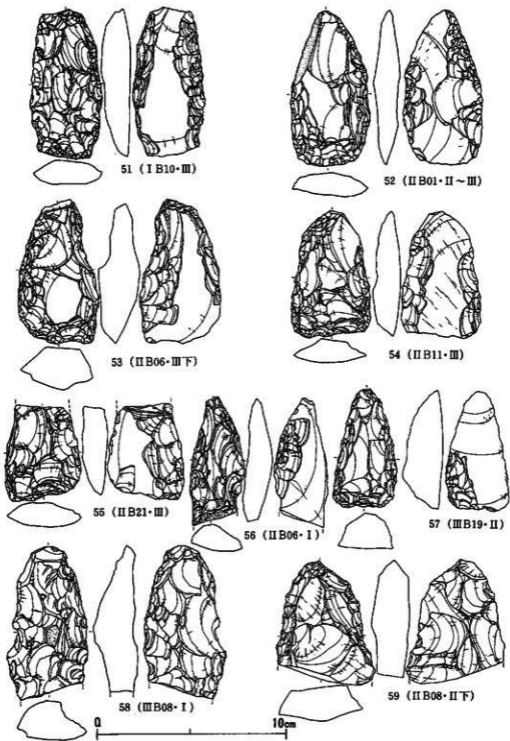
第59図 遺構外遺物・石器(3)



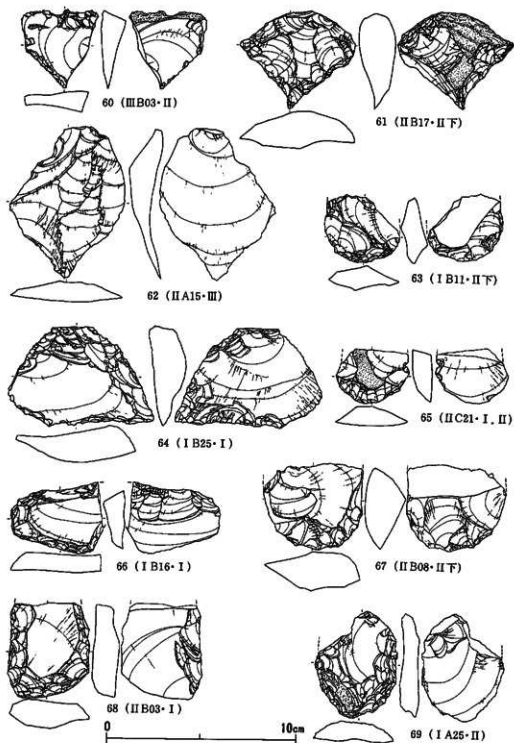
第60圖 遺構外遺物・石器(4)



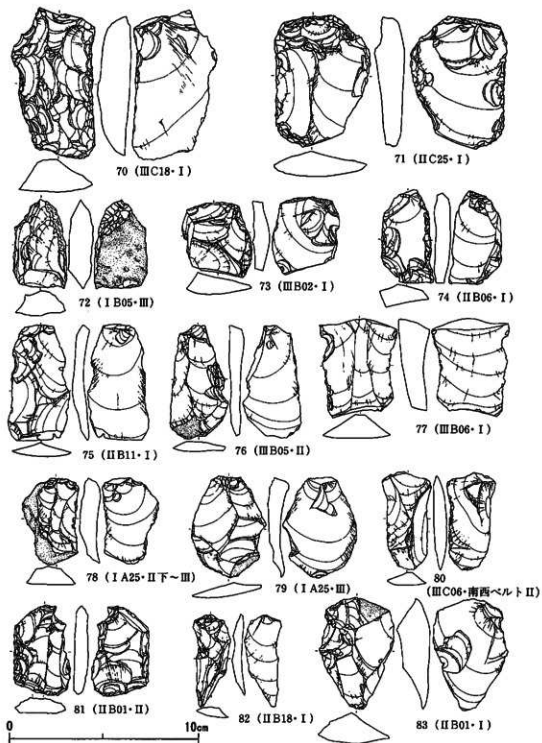
第61圖 遺構外遺物・石器(5)



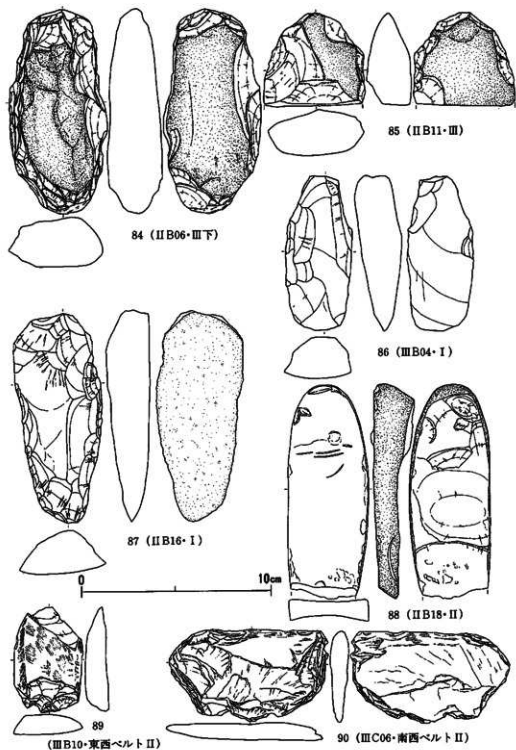
第62図 遺構外遺物・石器(6)



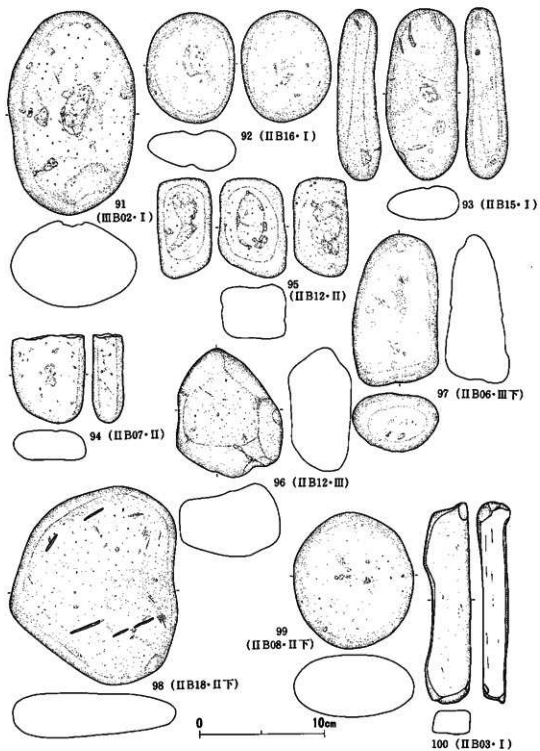
第63圖 遺構外遺物・石器(7)



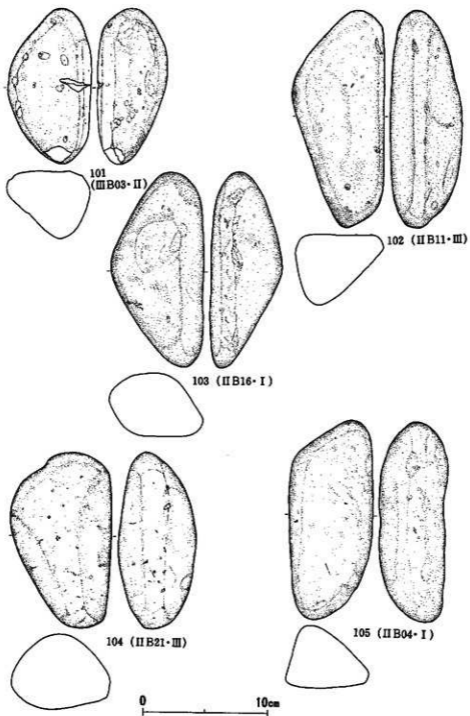
第64図 遺構外遺物・石器(8)



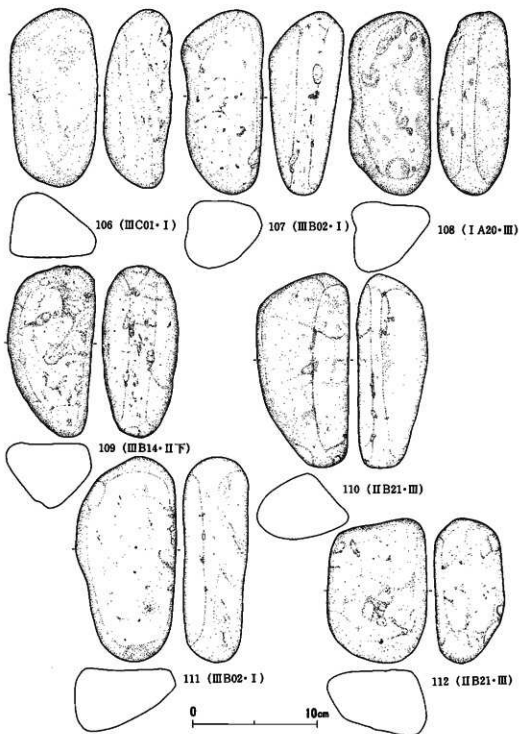
第65図 遺構外遺物・石器(9)



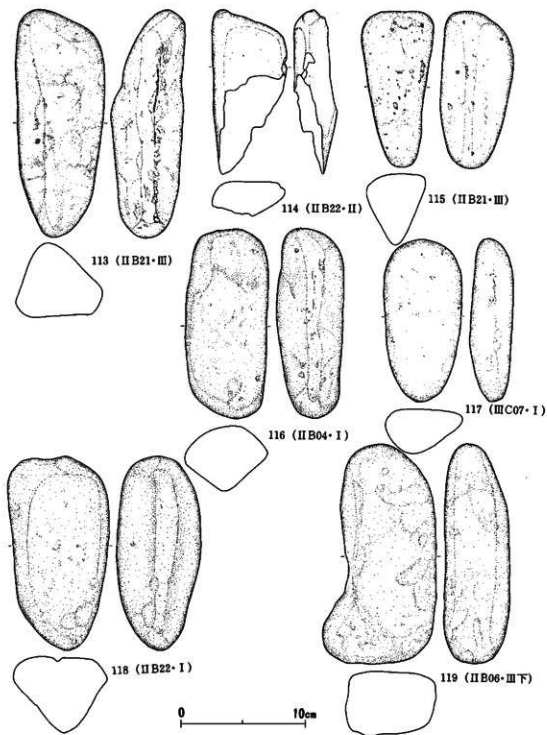
第66図 遺構外遺物・石器(10)



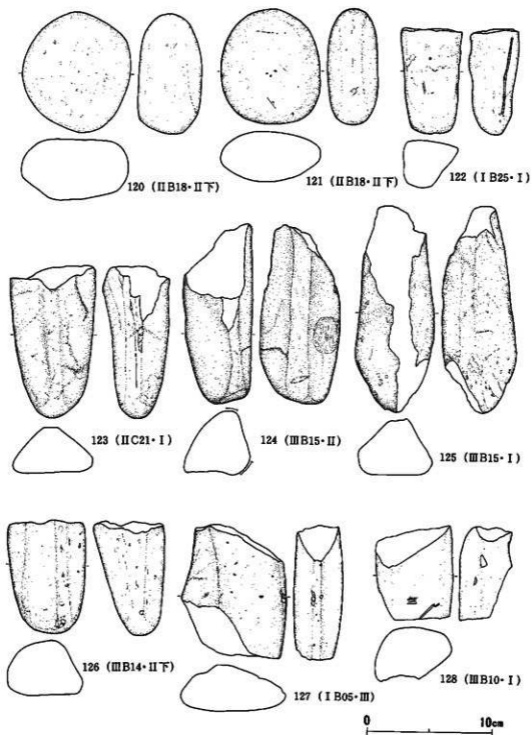
第67図 遺構外遺物・石器(1)



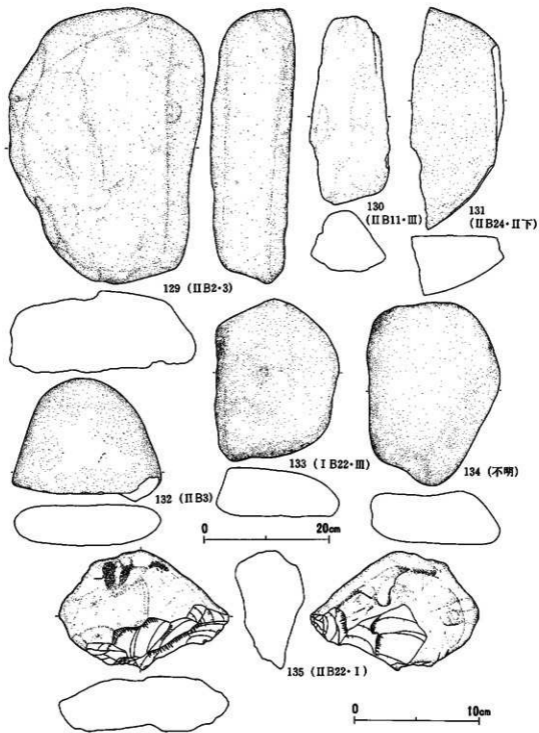
第68圖 遺構外遺物・石器(2)



第69図 遺構外遺物・石器(1)



第70図 遺構外遺物・石器(4)



第71圖 遺構外遺物・石器(15)

3. まとめと考察

(1) 遺構

本遺跡の遺構の検出状況は、陥穴をのぞくと殆どが西側に集中している。遺構集中区の東側は若干の擾乱は認められるが、存在していた遺構が失われるほどのものではなく、もともと空白地帯であったと思われる。西側は急斜面で遺構の存在は考えられない。南側はII B区の中で遺構が無くなり、遺物の出土も少なくなる。とすれば、必然的にこれらの遺構群は崖線に沿うように弧を描くような配置をとりながら、北側に伸びるものと推定される。遺跡は村崎野段丘面に位置しているが、調査区の北約100mが段丘崖となっている。この部分は雑木林となっており、確認はできないが住居跡等が存在する可能性が高い。

検出された遺構はフラスコピット、土溝、陥穴、溝の四種類であるが、溝は近現代に属するので除き、三種類の遺構について述べる。

フラスコピット

19基検出されたうち、17基がA・B区に集中しており、2基はC、D区にそれぞれ離れて位置している。19基のうち遺物が出土したのは15基であるが、このなかには埋土上層から出土した土器や、石器のみ出土した例もあり、時期決定の資料になりえないものも含まれている。ただし、確実な土器の出土状況を示す例からすると、このフラスコピット群は先に述べたように縄文時代最終末期から弥生時代初頭に位置づけられる。個々の遺構の破片資料からは縄文時代か弥生時代かを決定づけるのは困難であるが、フラスコピット総体からの遺物を検出すると、文様、ミガキをもつ壺、平縁、波状の口縁をもつ甕、筒型の平行沈線の脚をもつ高杯、変形工字文をもつ鉢が存在している。蓋は出土していないが、上記の四器種の在り方は、このフラスコピット群が弥生時代初頭に属するものであることを示している。C、D区の2基は無遺物であり時期を決めかねるが、前者の形状は他のピットに類似している。

土 壇

16基検出されたが1基は擾乱されたもので、実質は15基である。そのうち8基はA・B区に集中しており、他の7基はC～E区に散在している。15基とも直接的な時期決定の資料に乏しい。A・B区の8基はフラスコピット群の中およびやや東側に位置している。1基のみフラスコピットと重複しており、埋土の状況は土壇の方が古いことを示している（I B-1土壇）。また、唯一出土したII B-3土壇の土器は縄文時代晩期大洞BC式と弥生時代初頭に属するものである。

ただ、晩期の土器は埋土上層の出土であり決定的な資料とはならず、下層出土の土器の方が根拠となりうる。この土器およびフラスコビットとの重複関係から判断すると、8基の土壌は弥生時代初頭あるいはその直前の時期に属する。他の7基は土器の出土が全くなく材料に乏しいが、陥穴と重複するII-E-2土壌の埋土状況からすると、土壌の方が古く位置づけられる。陥穴の時期にも関連するが、得られた資料からは縄文、弥生いずれの時期か不明とせざるをえない。

陥 穴

5基検出されたうち、3基は長楕円形で、他は円形と楕円形が1基づつである。分布はB区からE区に及んでいるが相互の関連性は乏しく、IIB区の1基を除いたほかは北あるいは南側に展開するであろう、と推測するしかない状況である。遺物は一切無く、E区では1基土壌を載ってつくられているが、双方に遺物が無く時期は不明である。

(2) 遺 物

本遺跡から出土した遺物の殆どは土器と石器であるが、遺構内からの出土品は少ない。

土 器

遺構外出土のうちの大半は縄文時代早期、前期と弥生時代のものが占め、これに少量の中期と晩期の破片が加わる。早期、前期の資料は遺物包含層の下部から出土しており、層的には安定しているがこれに伴う遺構は検出されなかった。また、量的に少ないが多型式にわたっており、遺跡周辺部の出土状況を示しているようである。中期と晩期の土器も同様な状況を示している。弥生時代の土器は前半のものが多数を占め、燃未文が縦走する後半期の壺型土器は少数である。後者の土器の状況は和賀川周辺ではよく見られる傾向で、1ないし数個体分の破片資料が遺構を伴わずに発見されている。キャンプサイト的な出土状況とも考えられるが、確証は無い。前者の弥生土器は遺構に伴うもので、壺型土器を除いて器種は揃っている。これらの中で注目すべき土器は第31図1と第55図63の壺型土器の破片であろう。前者は肩部に縦走と斜行する平行沈線文が巡っている。後者はやや大型の壺で、器面はよく磨かれている。2点とも、いわゆる遠賀川系土器と呼べるもので、和賀川流域では兵庫館跡で土壌内から出土している(川村1992)。また、肩部の文様は秋田県に類例がある(菅原1986、児玉1984他)。北上川流域の遠賀川系土器については類例が乏しく不明であるが、現状から判断して和賀川流域のこれらの土器は秋田県側、即ち日本海側の文化と密接な関連性を有しているものと考えられる。

石 器

総計224点出土したが、これには剥片や礫も含まれており、主な資料は全て図示してある。遺構に伴うものは時期を限定できるが、定型的な石器は少ない。わずかに、擦石の類があるのみである。剥片石器の殆どは剥片そのものか、剥片の一部に刃部を持つ不定形石器である。この時期の墓墳に剥片や切損した石器を伴う例は関東や東北地方南部では知られているが、これらは時として玉類を伴っており、様相が異なる。県内の弥生時代の石器は縄文時代のその形態を引継ぎ、これに弥生時代の石器が少しづつ加わることが知られている（相原1989）が、当遺跡ではその傾向も認められない。

遺構外出土の石器では石錐、石匙、磨製石斧が殆ど無く、石鏃、凹石も少ない。これは調査区内に住居跡等の、より生活に密着した遺構が存在しなかったことに関連するものであろう。また、定形石器のなかで多数を占める石筥の存在は、早・前期の土器との関連を示すものであろう。

ま と め

中屋敷遺跡の概要は以上の通りである。縄文時代と推定される陥穴は除いて、フラスコピット、土壇の殆どは弥生時代初頭に属する。この種の遺構は通常、住居跡とはそれほど離れては存在しない。とすれば、これらに伴う住居跡等の位置は調査区の北側と推定して大きな誤りはないであろう。フラスコピット、土壇の時期決定は埋土の土器によったが、前者からは高杯や完形の甕、剥片などが出土している。このような遺物の出土状況は、フラスコピットを墓墳に転用したとも考えられるが、玉類の出土も無く墓墳とする根拠に乏しい。遺構、土器の大半が弥生時代のものとすれば、当然石器も弥生時代のものが存在しているはずであるが、形態上からは縄文時代のそれと区別はつけられないし、定型的な弥生時代の石器は出土していない。逆にいうと、相当に縄文時代的な石器を使用していたことを示している。このことは、土器の変化は認められるが、石器の変化は認められない状況を現している。換言すれば、この地域の、この段階では生業に大きな変革が及んでいないことを示している証査でもあろう。

追記：当遺跡と隣接する兵庫館跡出土の遺賀川原土器と推定される破片の胎土分析を京都大学埋蔵文化財研究センターの清水芳裕氏に委託した。正式報告は編集者の都合上、下記の川村（1993）に掲載してあるが、結論は「他地域からの搬入されたという積極的な証拠は見い出せない」とのことであった。

引用参考文献

- 相原康二 1989 「岩手県内における弥生時代の石器組成について」『紀要』IX 剏岩手県埋文センター
- 川村 均他 1993 「兵庫館・梅ノ木台地II遺跡発掘調査報告書」、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第180集, 剏岩手県埋文センター
- 見玉 幸他 1984 「横長根A遺跡」若美町教育委員会
- 菅原俊行他 1986 「地蔵田B遺跡」『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田市教育委員会

4. 鑑定・分析

中屋敷遺跡の種実遺体

1. 試料

試料は、縄文時代晩期～弥生時代初頭に属する遺構から出土した種実遺体と思われる炭化物である。試料については、結果と合わせて表に記す。

2. 結果

結果を表に示す。同定の結果、試料番号6についてはコナラ属に同定されたが、他のものは微細片のため同定不能であった。以下に形態的特徴について記す。

表 中屋敷遺跡種実遺体同定結果

試料番号	遺構名	出土状況	時期	同定結果
6	II B7号Fp	埋 土(底面)	縄文時代晩期～弥生時代初頭	コナラ属(1点)
7	II D1号Fp	埋 土(底直)	縄文時代晩期～弥生時代初頭	不能
8	II B2号Fp	埋 土(下位)	縄文時代晩期～弥生時代初頭	不能
9	II B3号Fp	埋 土(底直)	縄文時代晩期～弥生時代初頭	不能

Fp (フラスコビット)

・コナラ属 (*Quercus* sp.) ブナ科

子葉が検出された。側面観は極方向に長い楕円形、上面観は半月形で、大きさは縦軸1.5cm、横軸0.9cm程度。炭化している。極方向にふたつに割れ半分が破損している。表面には、極方向に維管束が通った跡が筋状にくぼんでいる。

3. 考察

コナラ属は、古くから食用とされてきた種類である。コナラ属を食用とするためには、「あくぬき」と呼ばれる作業が必要となる。コナラ属の「あくぬき」を行う作業は比較的複雑であることから、当時の植物利用を考える上で、興味深い結果であると言える。

(株) バリノ・サーヴェイ



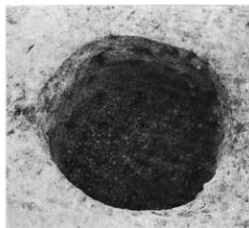


中屋敷遺跡全景



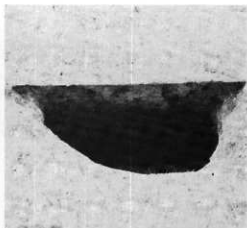
遺構群

写真図版21 中屋敷遺跡

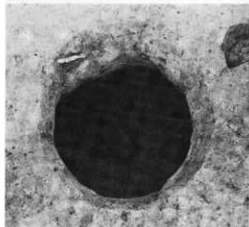


平面

I A-1号

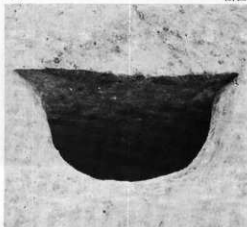


断面

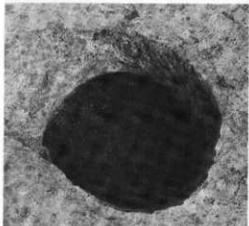


平面

I B-1号



断面



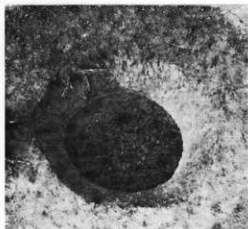
平面

I B-2号



断面

写真図版22 フラスコピット(1)



平面

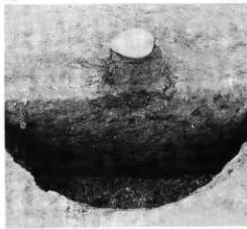


断面

I B-3号

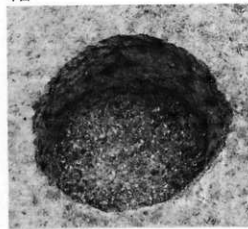


平面

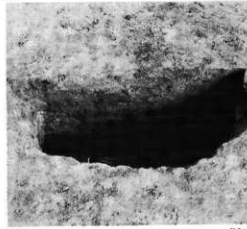


断面

I B-4号



平面



断面

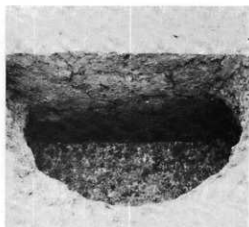
I B-5号

写真図版23 フラスコビット(2)

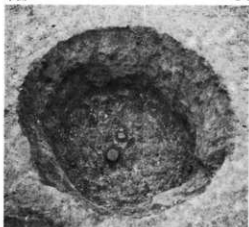


平面

I B-6号



断面

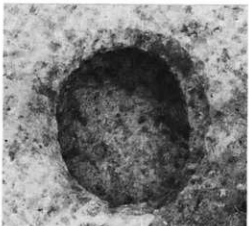


平面

I B-7号



断面



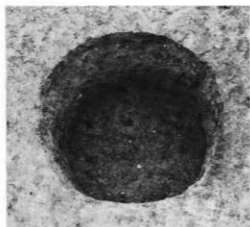
平面

I C-1号

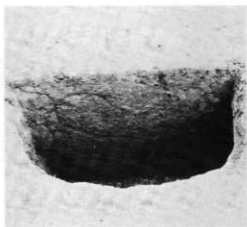


断面

写真図版24 フラスコビット(3)



平面

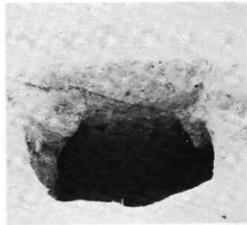


断面

II A-1号



平面



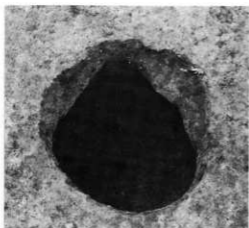
断面

II A-2号

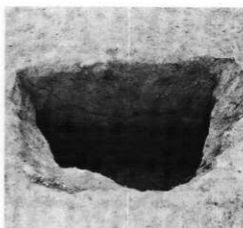


II A-2号遺物出土状況

写真図版25 フラスコビット(4)



平面



断面

II B-1号



平面



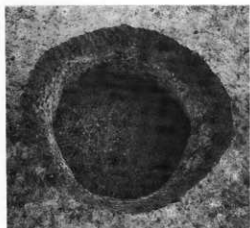
断面

II B-2号



II B-2号土器出土状況

写真図版26 フラスコビット(5)

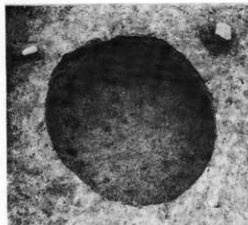


平面

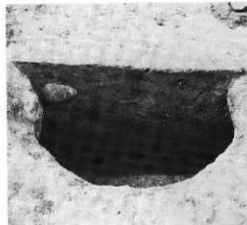


断面

II B-3号

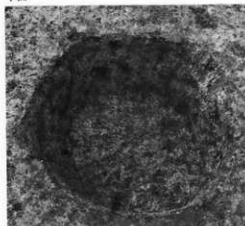


平面



断面

II B-4号



平面



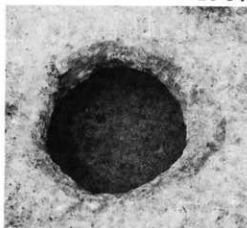
断面

II B-5号

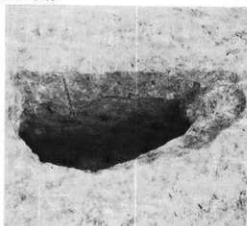
写真図版27 フラスコビット(6)



II B-5号土器出土状況



平面

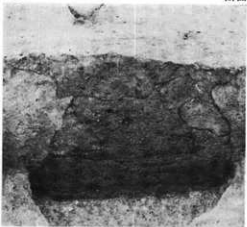


断面

II B-6号



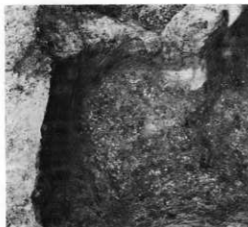
平面



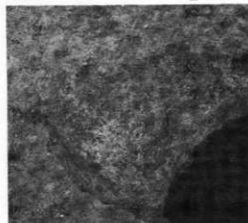
断面

II B-7号

写真図版28 スラスコビット(7)



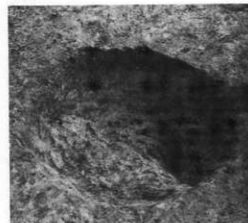
III D-1 フラスコ攪乱土壌他



平面

I B-1 号土壌

断面

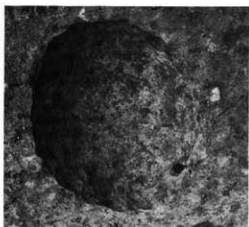


平面

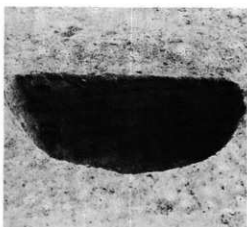
II B-1 号土壌

断面

写真図版29 フラスコピット(8)・土壌(1)

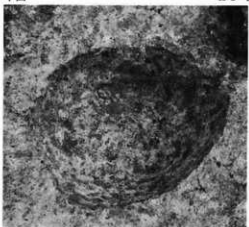


平面

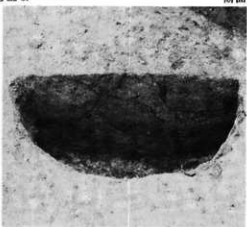


断面

II B-2号土壤



平面



断面

II B-3号土壤



平面



断面

II B-4号土壤

写真图版30 土壤(2)

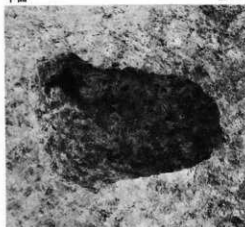


平面

II B-5号土壤

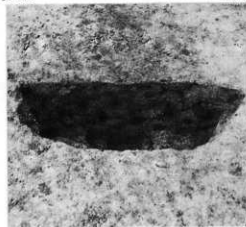


断面

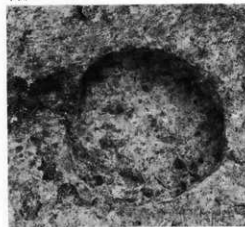


平面

II B-6号土壤

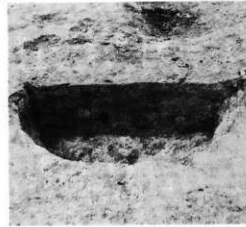


断面



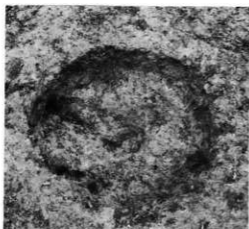
平面

II B-7号土壤



断面

写真图版31 土壤(3)

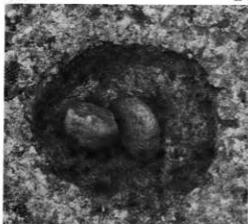


平面

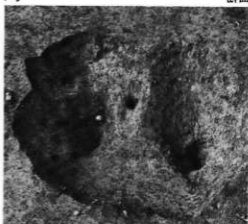
II C-1号



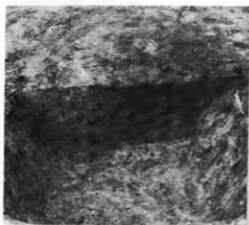
断面



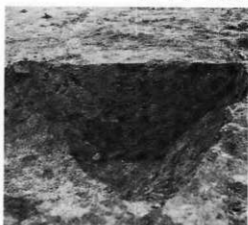
II C-1号内物



II E-1-3-5号土器



II E-1号 断面

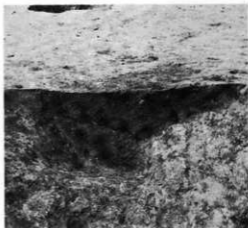


II E-3号 断面

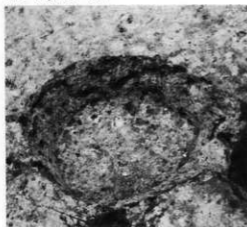
写真図版32 土壇(4)



II E-4号土壤 断面



II E-5号土壤 断面

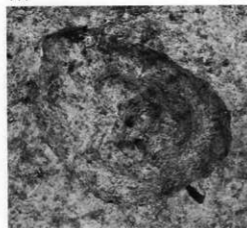


平面

II E-2号土壤



断面



平面

III C-1号土壤



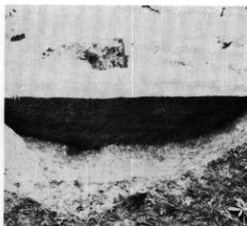
断面

写真图版33 土壤(5)



平面

III D-1号扰乱土壤



断面

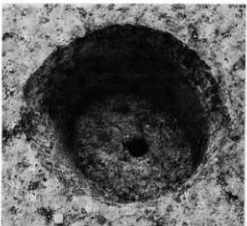


平面

II B-1号陷穴



断面



平面

II D-1号陷穴

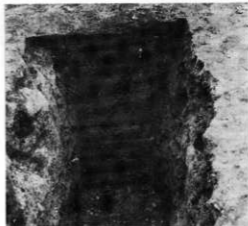


断面

写真图版34 土壤(6)·陷穴(1)

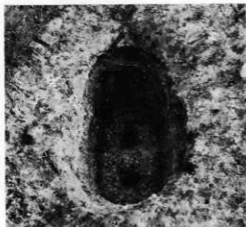


平面

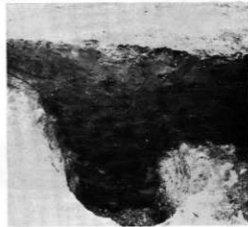


断面

II E-1号陷穴



平面



断面

II E-2号陷穴

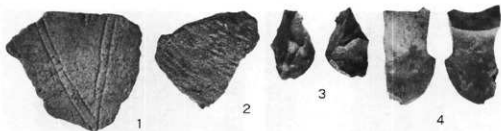


平面

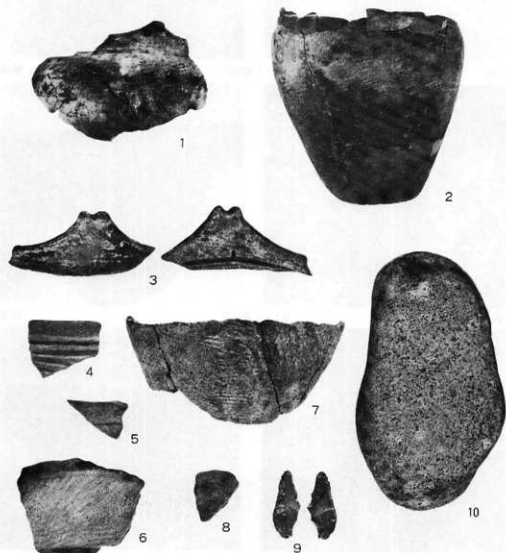


III D-1号陷穴

写真图版35 陷穴(2)



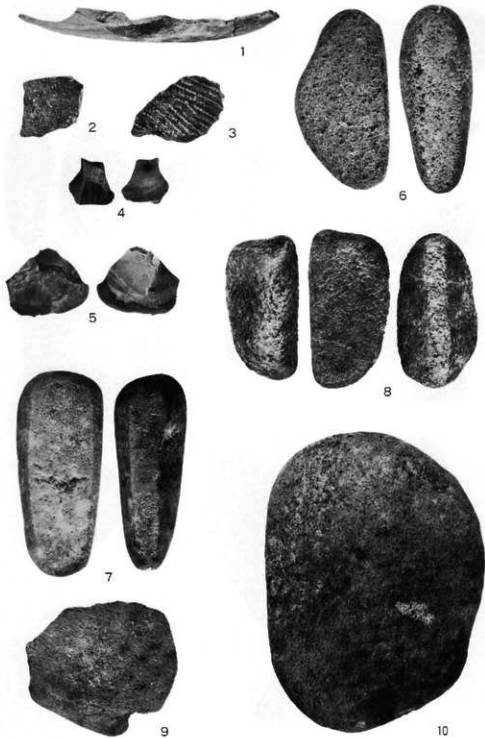
I A-1号フラスコビット



II A-2号フラスコビット

(番号は図版の番号に同じ、以下同)

写真図版36 I A-1号、II A-2号フラスコビット遺物



写真図版37 IB-4号フラスコビット遺物



I B-1号フラスコビット



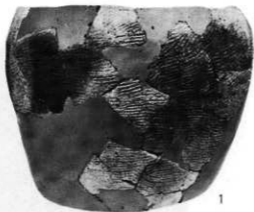
I B-3号フラスコビット



I B-2号フラスコビット



I B-6号フラスコビット



1



2



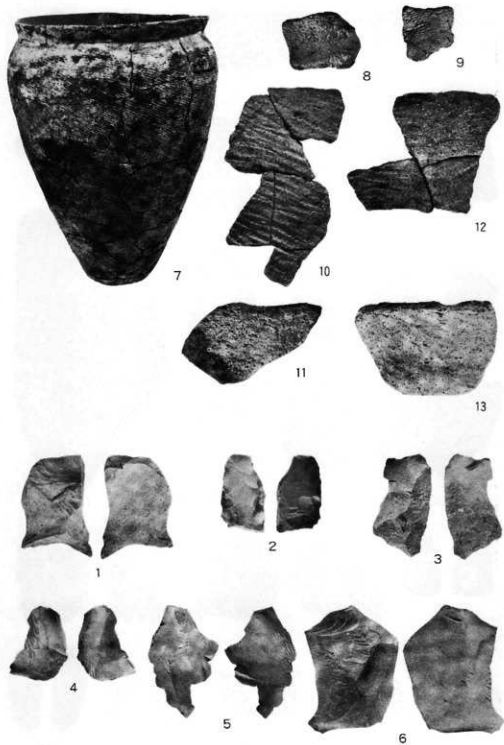
3



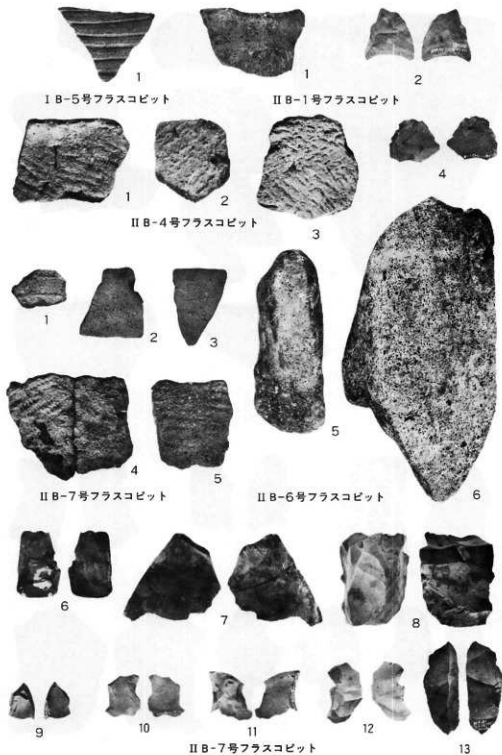
4

I B-7号フラスコビット

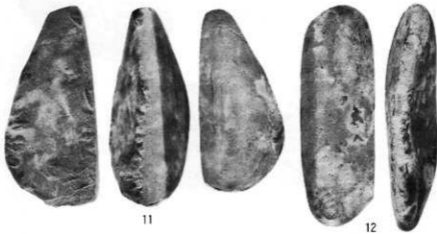
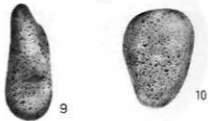
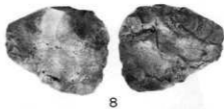
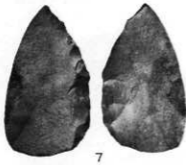
写真図版38 I B-1・2・3・6・7号フラスコビット遺物



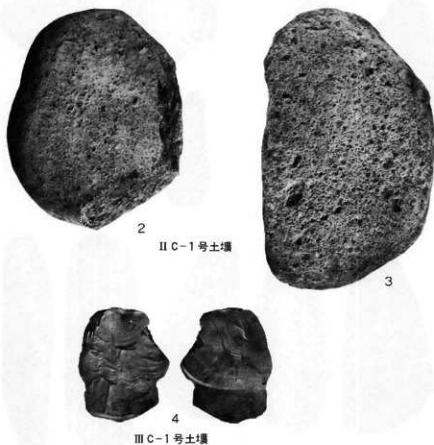
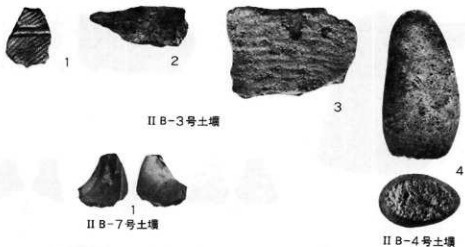
写真図版39 II B-2号フラスコビット遺物



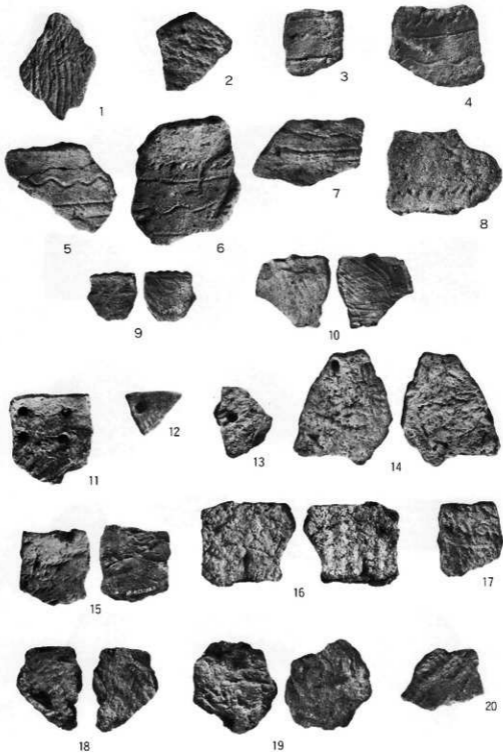
写真図版40 I B-5・II B-1・II B-4・II B-6・II B-7号フラスコビット遺物



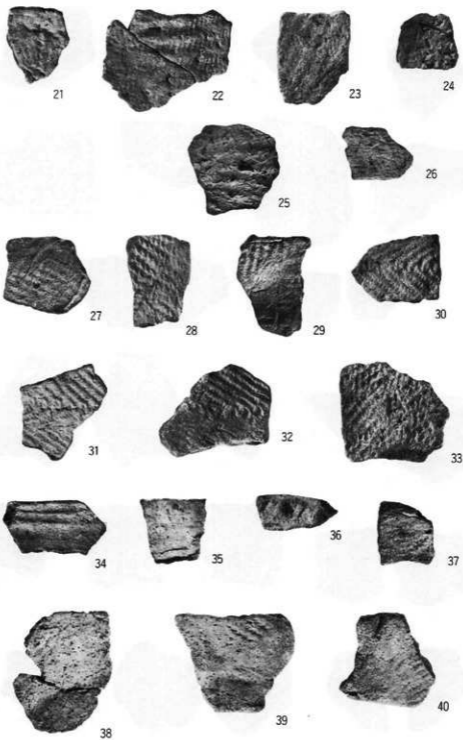
写真図版41 II B-5 フラスコビット遺物



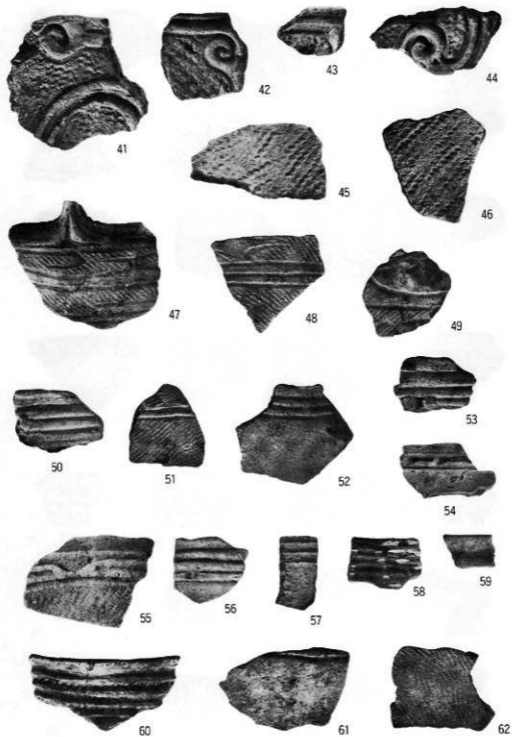
写真図版42 II B-3・II B-4・II B-7・II C-1・III C-1号土壤遺物



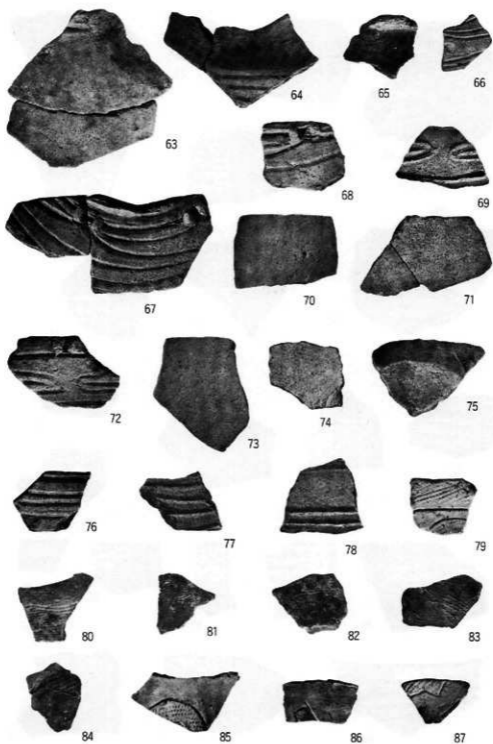
写真図版43 遺構外遺物：土器(1)



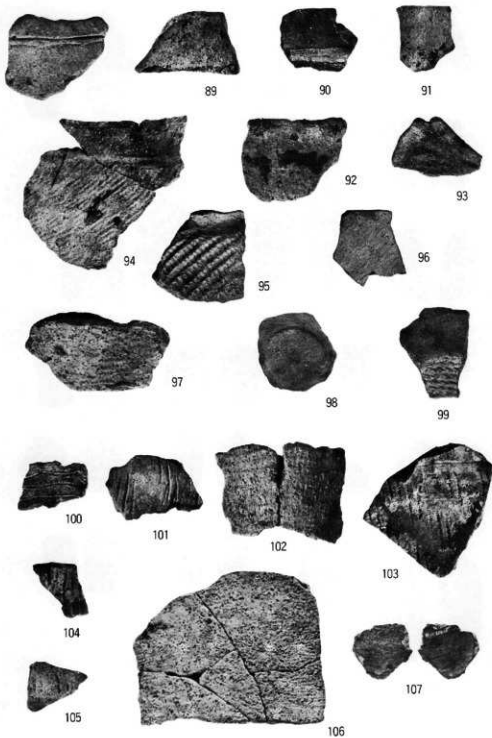
写真図版44 遺構外遺物：土器(2)



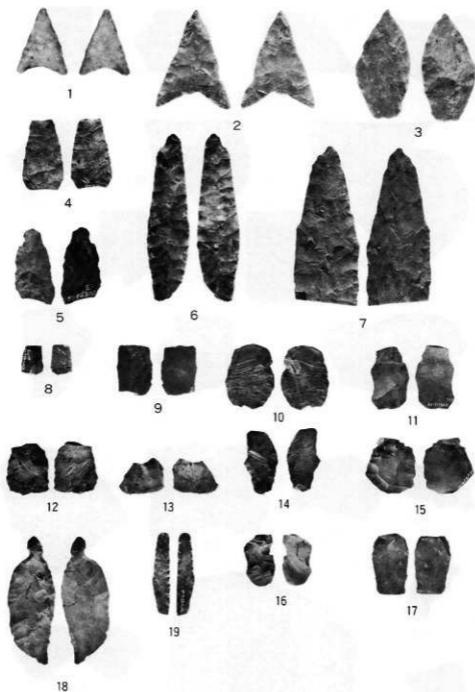
写真図版45 遺構外遺物：土器(3)



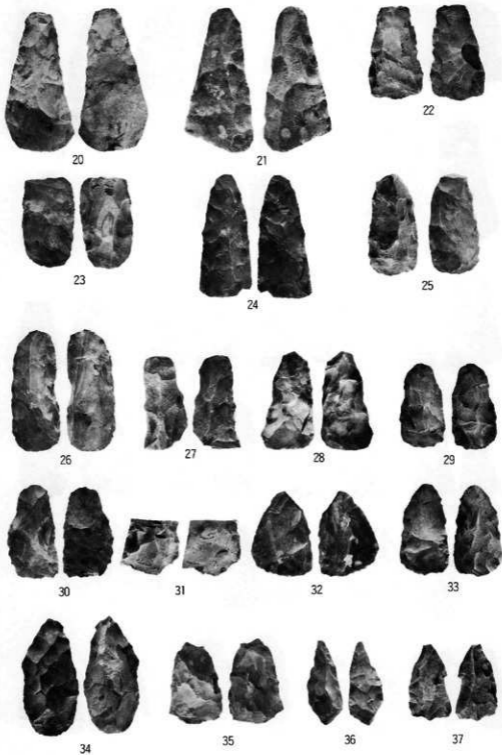
写真図版46 遺構外遺物：土器(4)



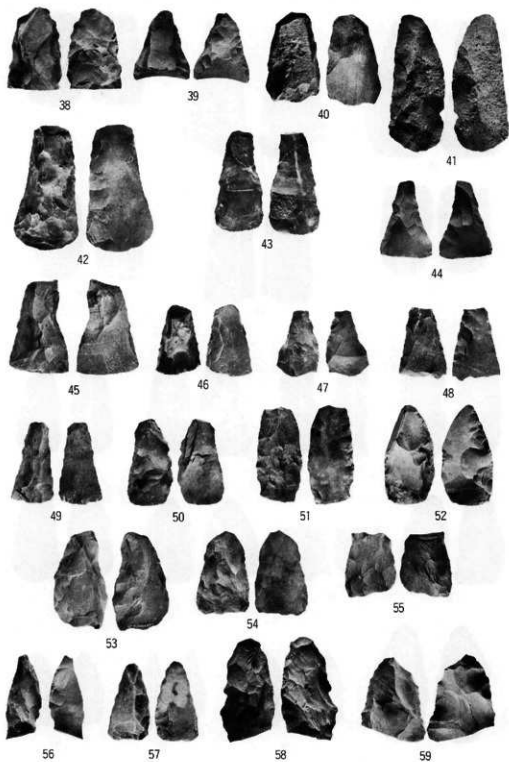
写真図版47 遺構外遺物：土器(5)



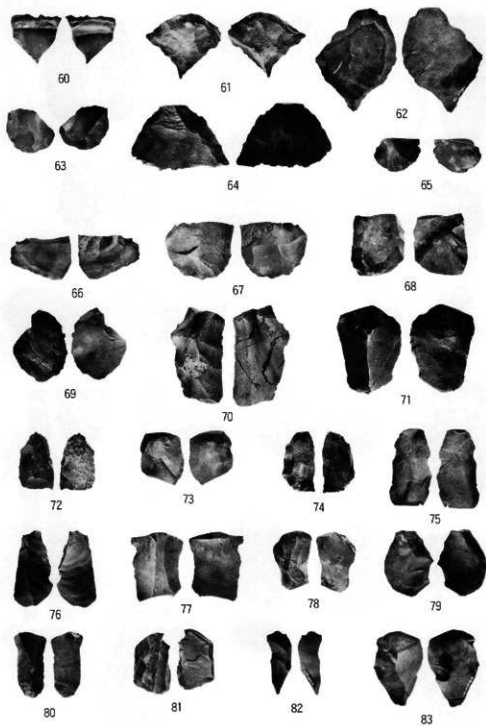
写真図版48 遺構外遺物：石器(1)



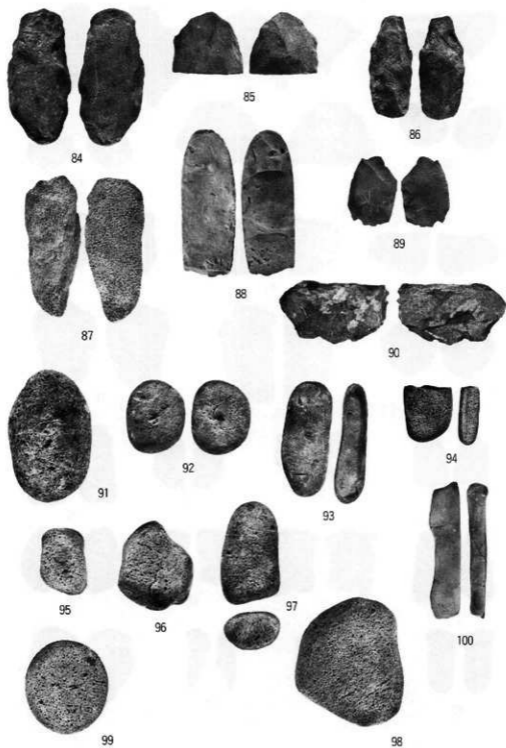
写真図版49 遺構外遺物：石器(2)



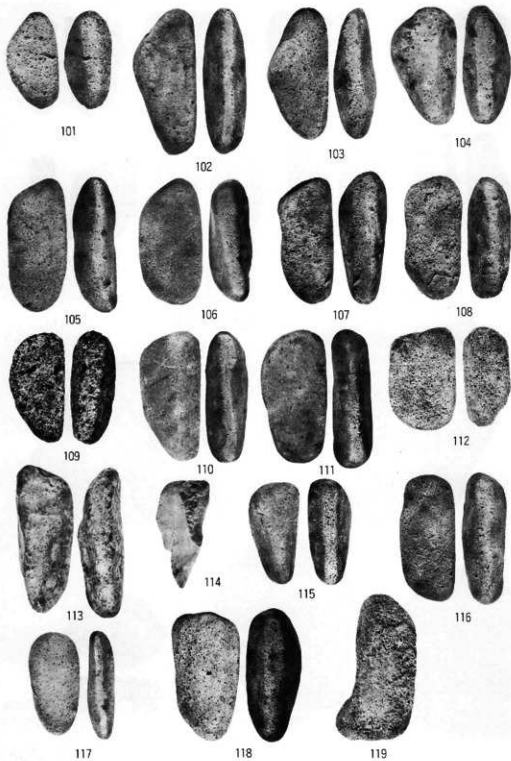
写真図版50 遺構外遺物：石器(3)



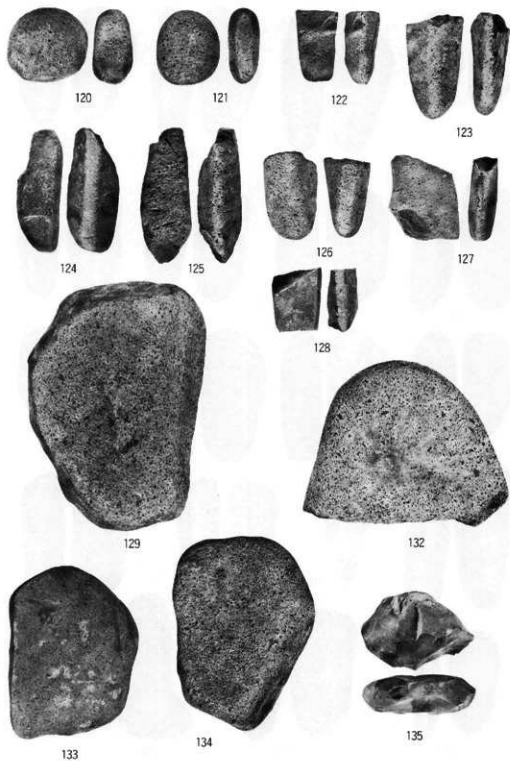
写真図版51 遺構外遺物：石器(4)



写真図版52 遺構外遺物：石器(5)



写真図版53 遺構外遺物：石器(6)



写真図版54 遺構外遺物：石器(7)

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

理事 兼 所長	小笠原 喜一	[資料課]	資料課長	村松 義夫
副所長	高橋 敬明		文化財専門調査員	高橋 一
[管理課]			嘱託	根橋 文一
管理課長(兼)	高橋 敬明		技師	根吉 藤十
課長補佐	森岡 陽一		事務士員	佐藤 春
主事	佐藤 理		文化財専門調査員	松本 建速
[調査課]			〃	笹平 克子
調査課長	村上 廉 昭治		〃	花坂 政博
課長補佐	鈴木 恵 一		〃	佐々木 務彦
〃	三浦 謙 一		〃	金子 昭彦
主任文化財専門調査員	高橋 与右エ門		〃	演田 架直
〃	工藤 利 幸		〃	羽柴 雅之
〃	中川 重 紀		〃	星 木 晃
〃	藤村 敏 男		〃	高鎌 勉
〃	高橋 義 介		〃	鎌田 精造
〃	高橋 正 之		〃	阿部 勝悟
〃	渡辺 洋 一		〃	千葉 博由
〃	佐々木 清 文	期 限 付	〃	熊谷 信一郎
文化財専門調査員	斎藤 實 隆	専門職員	〃	新倉 博英
〃	佐藤 瀬 雄	〃	〃	山口 博 元
〃	千葉 孝 司	〃	〃	柳田 中 敬
〃	斎藤 博 司	〃	〃	菅原 剛 悦
〃	東海林 幹 弘	〃	〃	工藤 英 樹
〃	佐々木 均 行	〃	〃	高溜 英 浩
〃	川村 貞 格	〃	〃	佐藤 修 一
〃	鈴木 東 邦	〃	〃	
〃	伊藤 藤 敏	〃	〃	
〃	斎藤 敏 明	〃	〃	
〃	神 信 一	〃	〃	
〃	佐々木 眞 一	〃	〃	
〃	小原 眞 一	〃	〃	
〃	酒井 宗 孝			

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第182集

法量野 I 遺跡・中屋敷遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

印刷 平成5年3月25日

発行 平成5年3月30日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 盛岡市下飯岡11地割185番地

TEL (0196)38-9001・9002

印刷 株式会社印刷

盛岡市みたけ二丁目22番50号